（財）八尾市文化財調査研究会報告20

萱振（かやふり）遺跡発掘調査概要報告

市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う調査（第２次調査）

府営八尾萱振第３期中層住宅新営工事に伴う調査（第３次調査）

1990年

（財）八尾市文化財調査研究会

（財）八尾市文化財調査研究会報告20

萱振（かやふり）遺跡発掘調査概要報告

市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う調査（第２次調査）

府営八尾萱振第３期中層住宅新営工事に伴う調査（第３次調査）

1990年

（財）八尾市文化財調査研究会

はじめに

八尾市は、河内平野の中央に位置しています。この平野は、北流する大和川の豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた地域であり、このような土地柄を背景に、古来より先人の活動の舞台として、重要な役割を果たしてきたところであります。

当市は、近年の市街化による開発で宅地化が進み、近代都市へ変貌しつつある今日、八尾市文化財調査研究会ではこれら先人の足跡である貴重な文化遺産を後世にながく伝えるため、調査を実施し、埋蔵文化財の実態把握と保存に努めている次第であります。

今回、昭和60年度に実施しました萱振遺跡（第２・３次調査）の調査が完了し、報告書を刊行する運びとなりました。

本書が今後、学問の発展と文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後に、この発掘調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

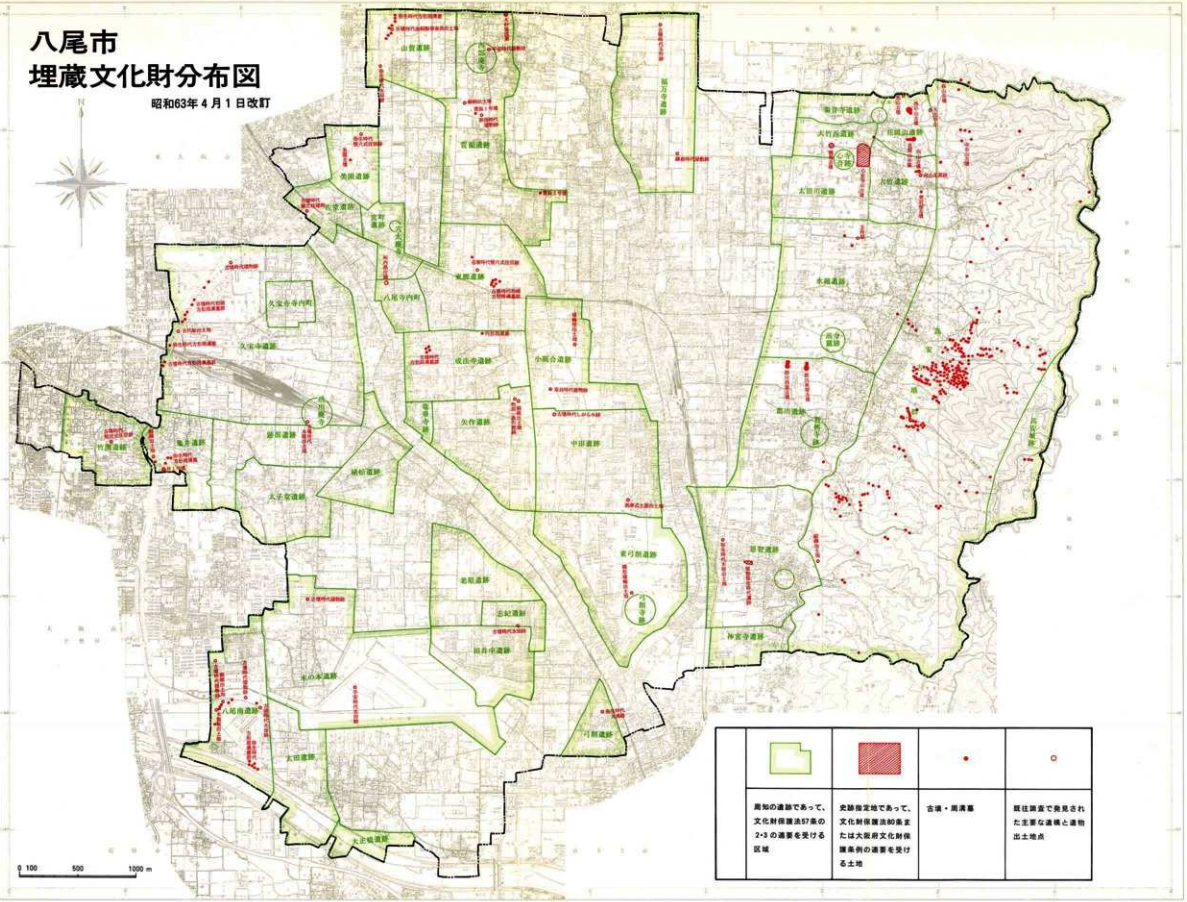
平成２年12月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　福　島　　孝

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和63年４月１日改訂



例　　言

1、本書は、八尾市緑ケ丘1丁目17において実施した市立八尾中学校体育館等建設工事に伴う萱振遺跡の発掘調査（第2次調査と呼称する）と、同市緑ケ丘2丁目1において実施した府営八尾萱振第3期中層住宅新営工事に伴う同遺跡の発掘調査（第3次調査と呼称する）の概要報告である。

1、本書で報告する萱振遺跡の第2次調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市の委託を受けて実施したもので、第3次調査は、同研究会が大阪府の委託を受けて実施したものである。

1、第2次調査の調査期間は、昭和60年5月24日から同年7月27日で、第3次調査は、昭和60年11月7日から昭和61年4月30日である。

1、現地調査は、西村公助を担当として実施し、第2次調査においては、太田修二、萩原剛良、森山憲一、前田芳嗣、武田正泰、益本浩、小林博司、勝村嘉文、後藤敏夫、中岡由佳、坂口真千子が、第3次調査においては、中野慶太、森山憲一、太田修二、萩原剛良、松村一、中川暁、森茂治、武田正泰、松岡利行、柏本幸寿、高橋健史、西町達也、南神良彦、溝口敬二、後藤敏夫が参加した。

1、内業整理は、現地調査終了後、まとめて平成元年3月31日まで実施した。また内業整理には上記の他、小林智恵、岡田瑞穂、田村文、高橋尚子、小西博樹、八元聡志、正木洋二、北原清子、中西明美が参加した。

1、本書に関わる業務は、遺物実測―西村・高橋（尚）・小西・八元・柏本、図面レイアウト―西村、トレース―西村、遺物写真―西村が担当した。

1、本書の執筆は、西村が担当した。

凡　　例

1、実測図の縮尺率は、1：40・1：80・1：100・1：200・1：500・1：1000・1：5000である。また遺物は、1：2・1：4とした。

1、遺物の実測図は、第2次調査と第3次調査に区別して掲載した。

1、遺構実測図の方向は全て磁北を示している。

本　文　目　次

例言

凡例

第1章　調査に至る経過…… 1

第2章　地理・歴史的環境…… 3

第3章　調査概要…… 6

第1節　第2次調査…… 6

1　調査の方法…… 6

2　基本層序…… 6

3　検出遺構と出土遺物…… 11

1）第1調査区…… 12

2）第2調査区…… 12

3）第3調査区…… 17

4）第4調査区…… 22

第2節　第3次調査…… 30

1　調査の方法…… 30

2　基本層序…… 30

3　検出遺構と出土遺物…… 31

1）第1調査区…… 35

2）第2調査区…… 47

3）第3調査区…… 53

第4章　出土遺物観察表…… 55

第5章　まとめ…… 79

挿　図　目　次

第1図　調査地周辺図…… 1

第2図　第2次調査区割図……（折込）

第3図　同　上　遺構平面図……（折込）

第4図　第2次調査基本層序模式図…… 11
第5図　同　上　第2調査区ＳＤ－101平断面図……（折込）
第6図　同　上　第2調査区ＳＤ－101出土遺物実測図…… 15
第7図　同　上　第2調査区ＳＤ－101・ＳＤ－201出土遺物実測図…… 16
第8図　同　上　第2調査区包含層出土遺物実測図…… 17
第9図　同　上　第3調査区ＳＫ－101平断面図…… 17
第10図　同　上　第3調査区ＳＫ－201平断面図…… 18
第11図　同　上　第3調査区ＳＫ－202平断面図…… 19
第12図　同　上　第3調査区ＳＫ－203平断面図…… 19
第13図　同　上　第3調査区ＳＫ－204平断面図…… 20
第14図　第2次調査第3調査区ＳＫ－101・ＳＤ－102・ＳＫ－201・ＳＫ－202・
ＳＫ－203・ＳＫ－204・ＳＤ－202出土遺物実測図…… 20
第15図　第2次調査第3調査区包含層出土遺物実測図…… 21
第16図　同　上　第4調査区ＳＫ－102平断面図…… 22
第17図　同　上　第4調査区ＳＫ－102・ＳＰ－137、包含層出土遺物実測図…… 28
第18図　同　上　第4調査区包含層出土遺物実測図…… 29
第19図　第3次調査基本層序模式図…… 31
第20図　同　上　地区割図…… 32
第21図　同　上　遺構平面図……（折込）
第22図　同　上　第1調査区ＳＤ－101・ＳＤ－103・ＳＤ－107出土遺物実測図… 36
第23図　同　上　第1調査区ＳＤ－107平断面図……（折込）
第24図　同　上　第1調査区ＳＤ－209・ＳＤ－222出土遺物実測図…… 41
第25図　同　上　第1調査区包含層出土遺物実測図…… 44
第26図　同　上　第2調査区ＳＸ－101平断面図……（折込）
第27図　同　上　第2調査区ＳＸ－101埋葬施設1平断面図…… 47
第28図　同　上　第2調査区ＳＸ－101出土遺物実測図1…… 48
第29図　第3次調査　第2調査区ＳＸ－101出土遺物実測図2…… 49
第30図　同　上　第2調査区ＳＸ－101墳丘内出土遺物実測図…… 50
第31図　同　上　第2調査区ＳＤ－111・ＮＲ－101出土遺物実測図…… 51
第32図　同　上　第2調査区ＳＥ－201平断面図…… 52
第33図　同　上　第2調査区ＳＥ－201出土遺物実測図…… 52
第34図　同　上　第2調査区ＳＥ－202平断面図…… 52

第35図　第3次調査　第2調査区包含層・第3調査区ＳＤ―112、包含層出土遺物出土遺物実測図…… 54

図　版　目　次

図版　一　第2次調査　第1調査区全景（西から）第2調査区第1調査面全景（南から）
図版　二　同　上　第2調査区ＳＤ―101遺物出土状況（南から）第2調査区、第2調査面全景（南から）
図版　三　同　上　第3調査区第1調査面全景（南から）第3調査区ＳＫ―101（南から）
図版　四　同　上　第3調査区第2調査面全景（南から）第4調査区全景（東から）
図版　五　第2次調査　第4調査区ＳＰ　137（東から）第4調査区ＳＰ―137遺物出土状況（東から）
図版　六　同　上　第2調査区ＳＤ―101出土遺物（1・3・4・5・6・7・9・11）
図版　七　同　上　第2調査区ＳＤ―101・ＳＤ―201出土遺物
図版　八　同　上　第2調査区包含層　第3調査区ＳＫ―101・ＳＫ―203・ＳＤ―202出土遺物
図版　九　同　上　第3調査区包含層出土遺物（47・53・54・56・57・61・65・69）
図版　〇　同　上　第4調査区ＳＫ―102・ＳＰ―137・包含層出土遺物
図版一一　同　上　第4調査区包含層出土遺物（90・91・92・95・97・98・99・103）
図版一二　第3次調査　第1調査区第1調査面全景
図版一三　同　上　第2調査区・第3調査区第1調査面全景
図版一四　同　上　第1調査区第2調査面全景1（南から）・2（南から）
図版一五　同　上　第1調査区第2調査面全景3（北から）第1調査面ＳＤ―107
図版一六　同　上　第2調査区ＳＸ―101全景1・2（北から）
図版一七　第3次調査　第2調査区ＳＸ―101埋葬施設1（西から）遺物出土状況（東から）
図版一八　同　上　第2調査区ＳＸ―101埋葬施設2（南から）ＳＸ―101墳丘内遺物出土状況（西から）
図版一九　同　上　第2調査区第2調査面全景1・2（南から）
図版二〇　同　上　第2調査区第2調査面全景3（南から）第2調査区ＳＥ―101（東から）
図版二一　同　上　第2調査区ＳＥ―102（南から）第3調査区第2調査面全景（東から）
図版二二　同　上　第1調査区ＳＤ―107　包含層出土遺物

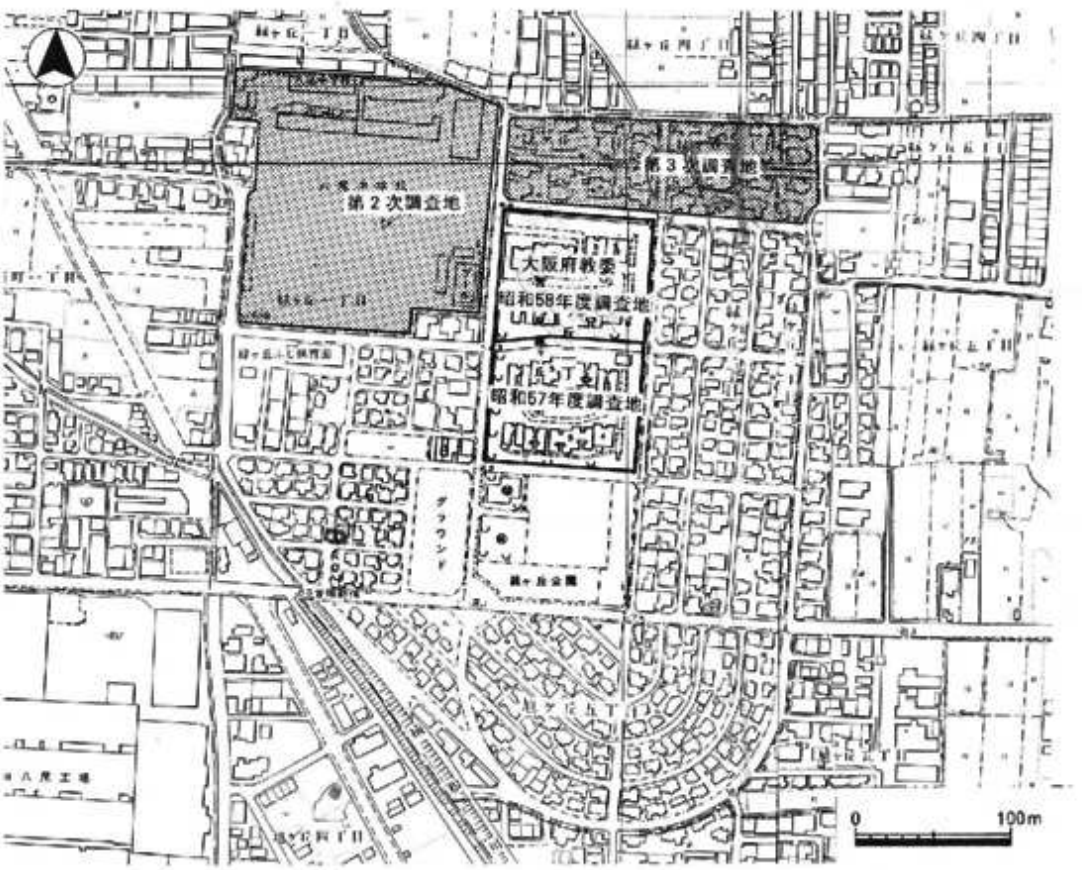
図版二三　第3次調査　第2調査区ＳＸ－101（30・31・32・33・34・35・36）
図版二四　同　上　第2調査区ＳＸ－101（37・38・39・40・41・42）
図版二五　同　上　第2調査区墳丘内　ＮＲ－101　包含層出土遺物
図版二六　同　上　第2調査区包含層出土遺物

第１章　調査に至る経過

当調査地の位置している八尾市緑ケ丘１丁目は、萱振遺跡推定地範囲の南部に位置している。

今回の調査地が存在している当遺跡の南部地域一帯には、現在の八尾市緑ケ丘を中心とした地域に八尾競馬場が昭和５年から昭和15年にかけて置かれていた。この競馬場が廃止されたあとの昭和18年には、競馬場の跡地で防空壕を作っており、この防空壕を作る時に、古墳時代中期に比定される子持ち勾玉と若干の土師器が出土したといわれているが、出土地点・出土土層等の詳細は不明であった。[註1] その後昭和57年に至るまでは、当遺跡内では埋蔵文化財の発掘調査は行われておらず、遺跡の実態は明らかにされていなかった。

昭和57年には、八尾市緑ケ丘で、大阪府教育委員会が府営八尾萱振第１期中層住宅新営工事に伴う発掘調査を実施しており、この調査では、古墳時代前期（布留式期）の土器棺墓群を主とした遺構・遺物が検出され、[註2] 遺跡の実態が明らかになった。また、昭和58年度にも大阪府教育委員会では府営八尾萱振第２期中層住宅新営工事に伴う発掘調査を実施しており、[註3] その結果、



第１図　調査地周辺図

弥生時代中期の方形周溝墓状遺構を検出している。この結果から当遺跡の南部地域での生活の場は弥生時代中期にまで遡ることが確認されている。

昭和59年３月に八尾市教育委員会施設課から八尾市緑ケ丘１丁目17の八尾中学校内において校舎増築・体育館建設する旨の計画書が八尾市教育委員会文化財室に提出された。八尾市教育委員会では、当該地が遺跡推定範囲内であるため、試掘調査が必要であると判断した。昭和59年４月５・６日に同建設予定地で試掘調査を行なった結果、古墳時代の溝と古墳時代の遺物を含んでいる層が確認された。そのため、基礎工事によって遺構が破壊されることが予想される部分については、記録保存に必要な資料を作成する目的で、事前に発掘調査を実施することになった。

発掘調査は八尾市教育委員会文化財室、同施設課、及び財団法人八尾市文化財調査研究会の三者間の協定により当研究会が主体となって実施することになった。発掘調査の期間は昭和60年５月24日から同年８月10日までである。（第２次調査）

また、昭和60年７月に大阪府建築部住宅建設課から八尾市緑ケ丘２丁目１～４において府営住宅建設する旨の計画書が八尾市教育委員会文化財室に提出された。八尾市教育委員会では、当該地が遺跡推定範囲内にあるため、試掘調査が必要であると判断した。昭和60年８月13日に同建設予定地で試掘調査を行なった結果、古墳時代の遺物包含層が確認された。そのため、基礎工事によって遺構が破壊されることが予想される部分については、記録保存に必要な資料を作成する目的で、事前に発掘調査を実施することになった。

発掘調査は八尾市教育委員会文化財室、同施設課、及び財団法人八尾市文化財調査研究会の三者間の協定により当研究会が主体となって実施することになった。発掘調査の期間は昭和60年11月５日から昭和61年４月30日までである。（第３次調査）

註１　金谷克己「河内八尾発見の子持勾玉」『考古学』第62号　1962
註２　大阪府教育委員会『豊浦遺跡発掘調査概要・Ⅰ』―八尾市緑ケ丘２丁目所在―1983
註３　大阪府教育委員会「豊浦遺跡現地説明会資料」

第2章　地理・歴史的環境

萱振遺跡は、八尾市萱振町、緑ケ丘、長池町、桂町一帯に存在する遺跡である。

当遺跡は、河内平野内に位置している。この平野内には、長瀬川、玉串川、楠根川を中心とする大小河川が北または北西に流れており、これらの大小河川の沖積作用による土砂の堆積は平野を形成する上において多大な影響を及ぼしている。堆積により形成された微高地や自然堤防上には居住域や墓域が点在し、低湿地には主に水田を中心とした生産域が存在していた。当遺跡の周辺には東に玉串川が、西に楠根川が流れており、この両河川の近くには多くの遺跡が存在している。当遺跡の周辺には、東に上之島遺跡[註1]、西に美園遺跡[註2]、友井東遺跡[註3]、南に東郷遺跡[註4]、小阪合遺跡[註5]、北に山賀遺跡[註6]がある。以下、萱振遺跡とその周辺に存在している遺跡について概観したい。

当遺跡の南部地域に人間が定住し始めたのは、弥生時代の中期頃までであることが現在までの調査で確認されている。当遺跡では、この時期の方形周溝墓状遺構を検出している。[註7]また、当遺跡内の北側一帯には、この時期の生産域が広がっていることがわかった。[註8]この他中期には、前期から続く山賀遺跡[註9]で居住域と墓域が検出されており、美園遺跡でも居住域が検出されている。弥生時代後期には、山賀遺跡では前時期まで続いていた居住域が消滅し、生産域が広がっている事が分った。[註10]また、当遺跡内の北側や小阪合遺跡では、同時期の居住域が検出されている。[註11][註12]同時期後半から古墳時代前期（庄内式期）にかけては、美園遺跡、小阪合遺跡で居住域が検出されており、当遺跡の北部地域、成法寺遺跡、友井東遺跡では墓域が検出されている。[註13][註14][註15][註16][註17]また東郷遺跡では居住域と墓域を検出している。[註18]

古墳時代前期（布留式期）には、美園遺跡・小阪合遺跡では引き続き居住域が存在している。[註19][註20]同時代前期末には、当遺跡の北部や美園遺跡で古墳が検出されており、友井東遺跡では中期の古墳が検出されている。[註21][註22]また、山賀遺跡でも後期の古墳が検出されている。[註23]これらの古墳は河内平野のほぼ中央部の沖積地上で検出しており、この沖積地における古墳時代の社会的構造を考える上で、重要な資料を得たといえよう。後期には成法寺遺跡で居住域が検出されている。[註24]この他、友井東遺跡では、前時期に作られた古墳を破壊し、居住域を拡大していることがわかっている。[註25]

奈良時代には当遺跡を含めた地域一帯で、条里地割を前提とした開発が行われるようになった。友井東遺跡では方格地割の水田を検出している。[註26]また美園遺跡では、7世紀後半の水田が検出されており、この時期以降平安時代まで水田が広がっていることが確認されている。[註27]この時代には寺院の建立が活発に行なわれるようになる。当遺跡の北側に隣接している西郡廃寺跡

は、この時代に創建されたと推定されており、これを裏付ける資料として、当遺跡内での昭和59年度の調査で、当廃寺のものと思われる軒丸瓦や軒平瓦が出土している。[註28]

鎌倉時代には、当遺跡で居住域が検出されている。美園遺跡でもこの時期の遺構を検出しており[註29]、条里の地割りに則った水路も検出している。友井東遺跡では[註30]、坪境付近に井戸や溜池が作られ、坪境に沿った水路が完備され、水田経営が一段て本格化してきたと言われている[註31]。

室町時代の当遺跡周辺では、前時代と変りなく水田が広がっていたようである。この時代の美園遺跡では[註32]、現在とほぼ重なった坪境の大畦畔を検出している。また、この時代以降の当遺跡の所在している萱振地域一帯には、恵光寺を中心とした環境を巡らせた集落があったといわれており[註33]、現在でも当時のものと思われる環壕を見ることができる。また、恵光寺は現在も存在していることから、当時から現在に至るまでの萱振地域一帯は、ほぼ同じ場所を居住域としているといえよう。戦国の時期の当遺跡一帯、特に恵光寺を中心とする萱振地域に住む集団は戦国大名の支配を拒否し、戦いが行われた。この時期に恵光寺は焼き払われている[註34]。

江戸時代以降も、当遺跡周辺では水田が広がっており、当遺跡では前時代から引き続き、集落が営まれている。1704年の大和川付け替え以降は、旧大和川の主流とされていた河川の、特に自然堤防上を中心とした新田開発が盛んに行われるようになった。また、綿花の栽培も活発に行われるようになり、山賀遺跡では[註35]、主に綿を栽培したと考えられる掻き揚げ田を検出している。

註1　(財) 八尾市文化財調査研究会「上之島・福万寺遺跡 I『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査』 —その成果と概要—1983

註2　(財) 大阪文化財センター『美園』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註3　(財) 大阪文化財センター『友井東』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註4　八尾市教育委員会「東郷遺跡」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要1980・1981年度』1983

註5　(財) 八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡』 —八尾都市設画南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—1988

註6　(財) 大阪文化財センター『山賀遺跡』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

註7　大阪府教育委員会「萱振遺跡現地説明会資料」1983

註8　八尾市教育委員会「萱振遺跡調査速報」『八尾市文化財紀要 I』1985・3

註9　前掲註6

註10　前掲註3

註11　前掲註6

註12　(財) 八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡（第1次調査）』 —八尾都市計画南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—1986

註13　前掲註2

註14　前掲註5

註15　前掲註8

註16　八尾市教育委員会『成法寺遺跡』 —八尾市光南町1丁目29番地の調査—1983

註17　前掲註3

註18　前掲註4

註19　前掲註２
註20　前掲註５
註21　前掲註２
註22　前掲註３
註23　前掲註６
註24　前掲註16
註25　前掲註３
註26　前掲註３
註27　前掲註２
註28　（財）八尾市文化財調査研究会「堂板Ａ遺跡（第１次調査）」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　昭和61年度　1987
註29　前掲註８
註30　前掲註２
註31　前掲註３
註32　前掲註２
註33　八尾市立図書館『市民のための八尾の歴史』1986
註34　前掲註33
註35　前掲註６

第3章　調査概要

第1節　第2次調査

1．調査の方法

体育館等建築予定地に4箇所の調査区を設定し、第1調査区、第2調査区、第3調査区、第4調査区と呼称した。調査に際しては、八尾市教育委員会文化財室の試掘調査に基づいて、現地表下0.5～0.8mまでの土層を機械により排除し、以下の各層は層理に従って人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第1調査区では遺構は検出されなかったものの、第2調査区・第3調査区では古墳時代前期と鎌倉時代の二時期にわたる遺構を検出し、第4調査区では古墳時代前期の遺構を検出した。

調査地の地区割は、第4調査区の南東角を基準点とし、その点から第4調査区の東側の延長線を南北線とし、基準点から北へ75m延長させて南北の基準線とした。また東西については、基準点から西に135m延長させ、第1～4調査区を覆う東西135m南北75mの範囲に渡って設定した。この範囲の中を5m四方の小地区に区画した。各地区を区画する5mごとのラインは東西は、南端と起点にアルファベット（a～o）で、表わし南北は東端を起点として数字（1～27）で表わした。各地区の表示については、一区画の北西隅で交差する2線を用い1a～27o地区とした。

2．基本層序

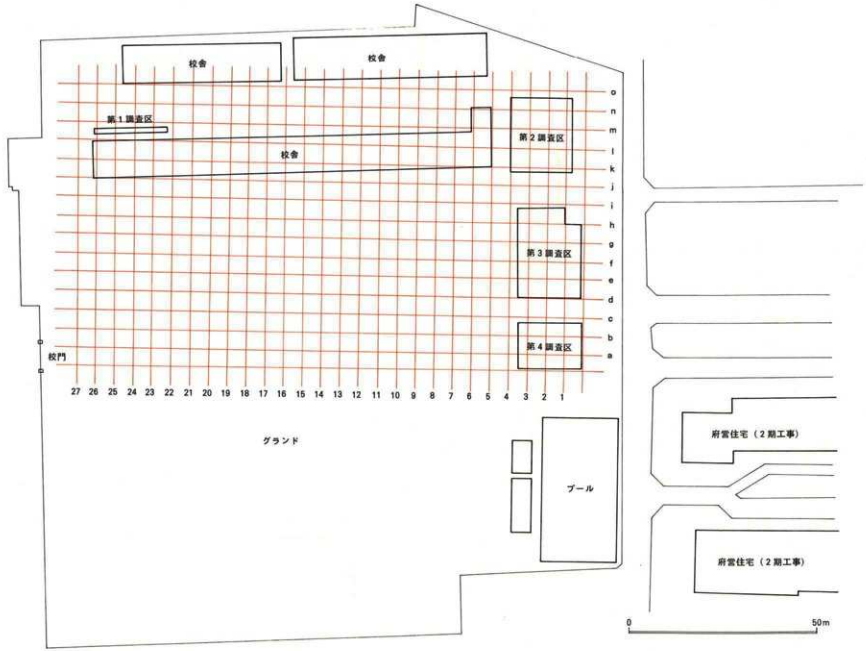
調査地内の第4調査区では、古墳時代前期の遺構検出面が第3調査区に比べ0.64m上がっており、第1～3調査区で確認された弥生時代後期～奈良時代の遺物が包含されている層（第4層）は堆積していなかった。また第3調査区では第2層と第4層の間に無遺物層である第3層を確認している。このほか、第1調査区では第2層が堆積していなかった。各調査区では多少の堆積のちがいが認められたもののここでは各調査区において普遍的に存在していた6層を基本の層序とすることにしたい。

第0層：盛土　層厚0.3～0.75m。調査区の全域でみられる。地表面の標高は6.6～7.0mである。

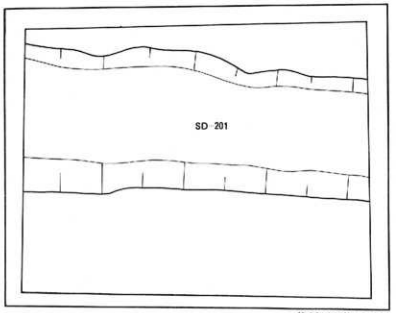
第1層：暗灰色～暗灰茶色礫混粘土　層厚0.2～0.35m。旧耕土

第2層：灰褐色細砂混粘土　層厚0.05～0.25m。第1・4調査区では認められなかった。第2・3調査区の層中からは鎌倉時代前期から末期に比定される遺物が極少量出土している。

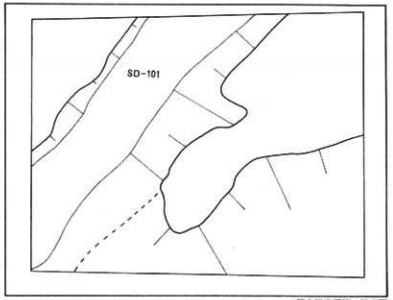
第3層：茶灰色細粗砂混粘土　層厚0.15m　第3調査区のみで確認した。粗砂を多量に含む



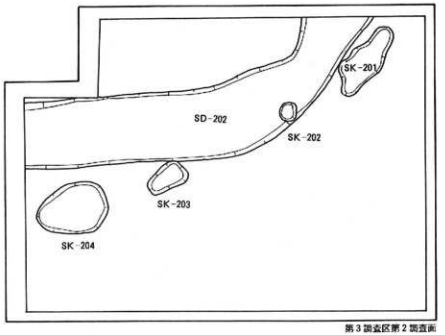
第2図　第2次調査地区割図（17.5×22.5）



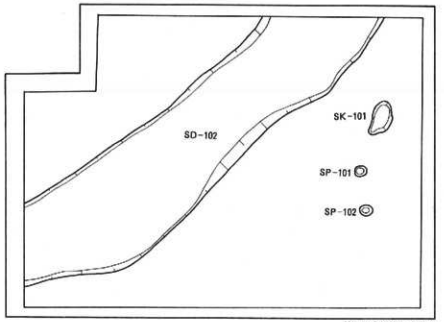
第2調査区第2調査面



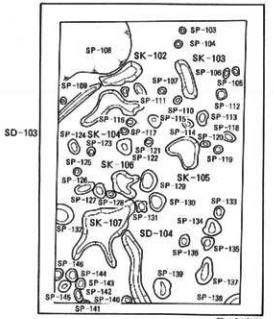
第2調査区第1調査面



第3調査区第2調査面



第3調査区第1調査面



第4調査区

0 10 20m

第3図　第2次調査遺構平面図

上層である。無遺物層である。

第４層：暗茶灰色～茶褐色シルト～細砂・混粘土　層厚0.15m。この層の上面は鎌倉時代の遺構検出面（第１調査面）である。上面の標高は5.7～5.8mを測る。なお第４調査区では遺構の検出はなかった。層中より弥生時代後期から奈良時代に比定される遺物が出土している。

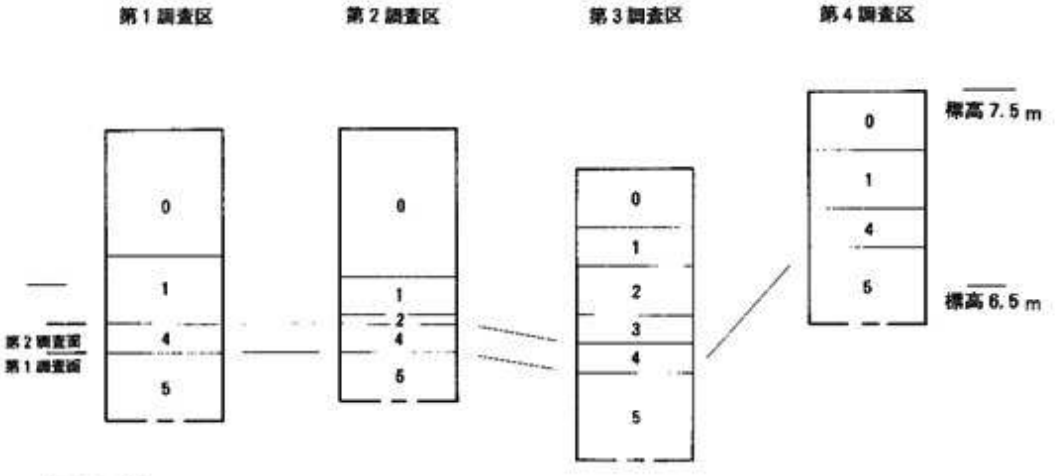
第５層：灰色～淡褐色細砂～粗砂　層厚0.45m以上　この層の上面は古墳時代前期の遺構検出面（第２調査面）である。上面の標高は5.55～6.2mを測る。

３．検出遺構と出土遺物

第１調査区では、土師器、須恵器の細片が少量出土しているが、遺構の検出はなかった。第２調査区では、現地表下1.0m（標高5.8m）に存在する第４層上面で、溝１条（SD—201）を検出した。また現地表下1.15m（標高5.65m）に存在する第５層上面で、溝１条（SD—101）を検出した。第３調査区では、現地表下0.9m（標高5.7m）に存在する第４層上面で、土坑４基（SK—201～204）・溝１条（SD—202）を検出した。また現地表下1.05m（標高6.2m）に存在する第５層上面で土坑１基（SK—101）・溝１条（SD—102）・小穴２個（SP—101・102）を検出した。

第４調査区では、現地表下0.8m（標高6.2m）に存在する第５層上面で、土坑６基（SK—102～107）・溝２条（SD—103・104）・小穴44個（SP—103～146）を検出した。

以下、各調査区ごとに、検出遺構および出土遺物について概要を記す。



第０層　盛土
第１層　暗灰色～暗灰茶色礫混粘土　（旧耕土）　第１・４調査区では認められなかった。
第２層　灰褐色細砂混粘土
第３層　茶灰色細粗砂混粘土　第３調査区のみで認められた。粗砂が多く含まれている。
第４層　暗茶灰色～茶褐色シルト～細砂混粘土　上面が第２調査面　層中には弥生時代後期から奈良時代の遺物を含む
第５層　灰色～淡褐色細砂～粗砂　上面が第１調査面

第４図　第２次調査基本層序模式図

1）第1調査区

この調査区の包含層からは、土師器・須恵器の細片が少量出土しており、第5層上面で遺構の検出に努めたが、遺構の検出はなかった。

2）第2調査区

第1調査面

溝（SD）

SD—101

調査区の北東側で検出した。南東—北西方向に伸びる溝で、幅6.2～8.4m、深さ0.5mを測る。溝の断面の形状は、右岸は急な角度で落込んでおり、左岸はゆるやかな傾斜をもっている。内部堆積土は上層から茶褐色細砂混粘土、茶褐灰色細砂混粘土、灰茶色細砂混粘土、灰茶色細砂、灰色細砂、灰色細砂混粘土、灰茶褐色細砂、淡灰色細砂、灰茶色粘土、暗灰色細砂混粘土である。溝内の茶褐灰色細砂混粘土層からは古墳時代前期〔布留式期〕の小型丸底壷（1～3）、ミニチュア壷（4）、高杯（5～14）、甕（15～21）が溝の左岸に密集した形で出土した。出土した遺物はいづれも完形および完形近くに復元可能なものが多くあった。このことは、現地点から溝の中へ投棄された可能性があると考えられる。出土遺物の小型丸底壷のうち（1・2）は体部外面にハケ目を施している。高杯は杯底部から目立たない屈曲をつけてゆるやかに広がる口縁部のもの（5～9）、杯底部から屈曲すし口縁部に至るもの（11～13）がある。甕は、体部外面ハケ目のもの（15～17・21）、ナデのもの（18・20）がある。（15）は肩部にハケ原体による圧痕文を施す。小型丸底壷の調整等から、溝内から出土した遺物は、古墳時代前期（布留式期でも新しい時期）に位置づけられる。

なお、このSD—101の北西側でSD—101に合流する溝を検出しているが、この溝の西肩は調査区外に至るため規模は不明である。

第2調査面

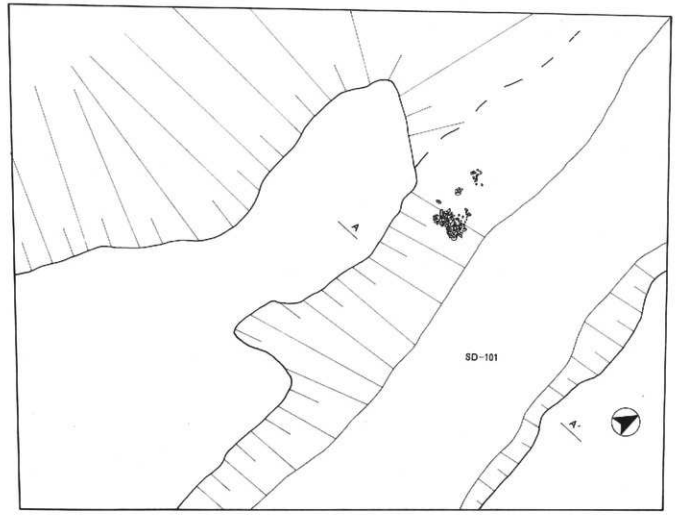
溝（SD）

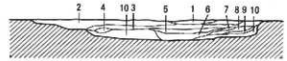
SD—201

調査区のほぼ中央で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長19m、幅7.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰茶色粗砂混粘質シルトの単一層である。溝内からは瓦器椀（22）のほか、土師器の細片が少量出土している。

包含層出土遺物

第2調査区では第4層から弥生時代後期の壷（23・24）、古墳時代前期〔庄内式期〕の甕（25）、〔布留式期〕の壷（26・27）、高杯（28・29）、甕（30・31）と、第2層から鎌倉時代前期の瓦器椀（32）が出土している。





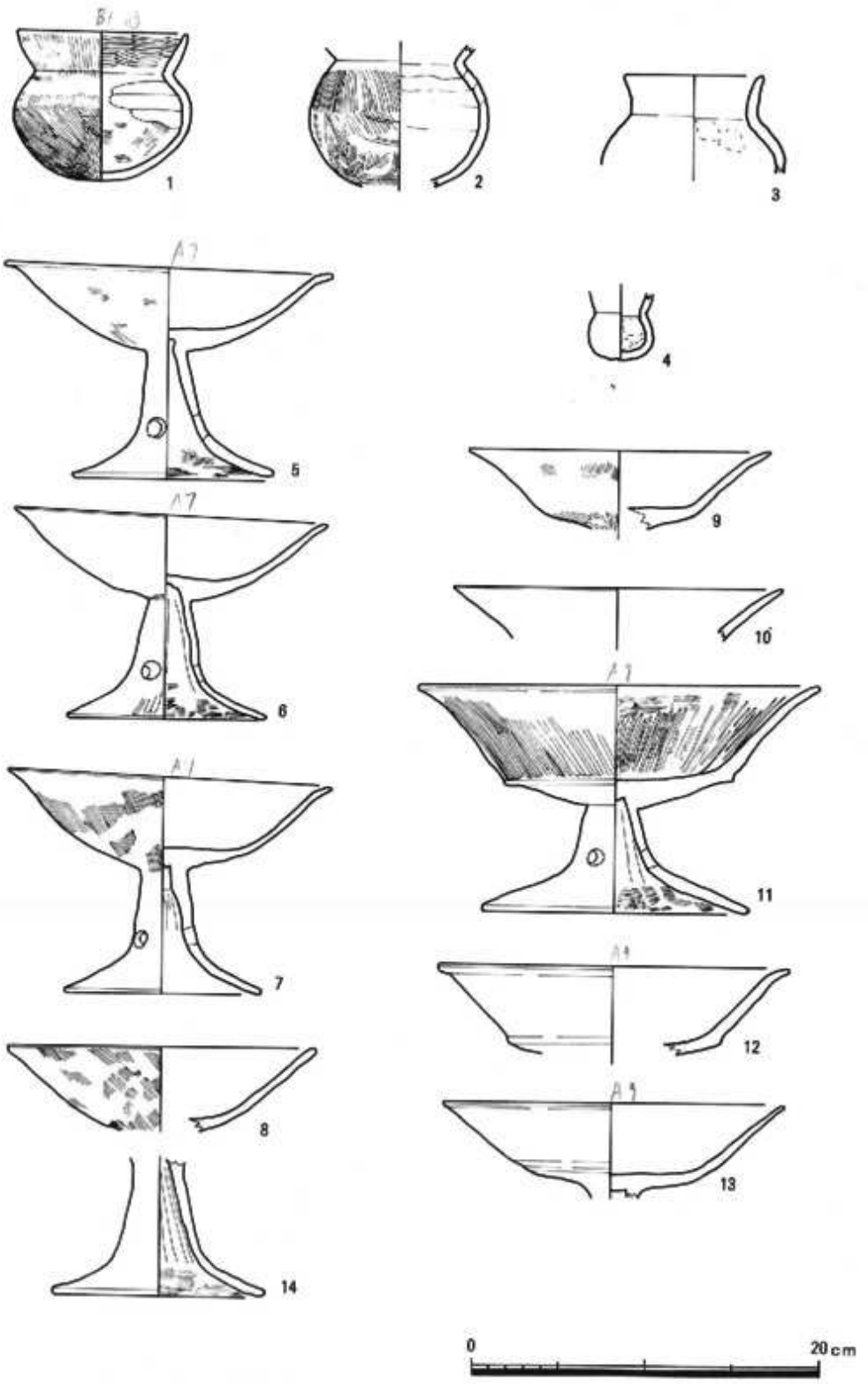
A　　A'

標高 5.5 m

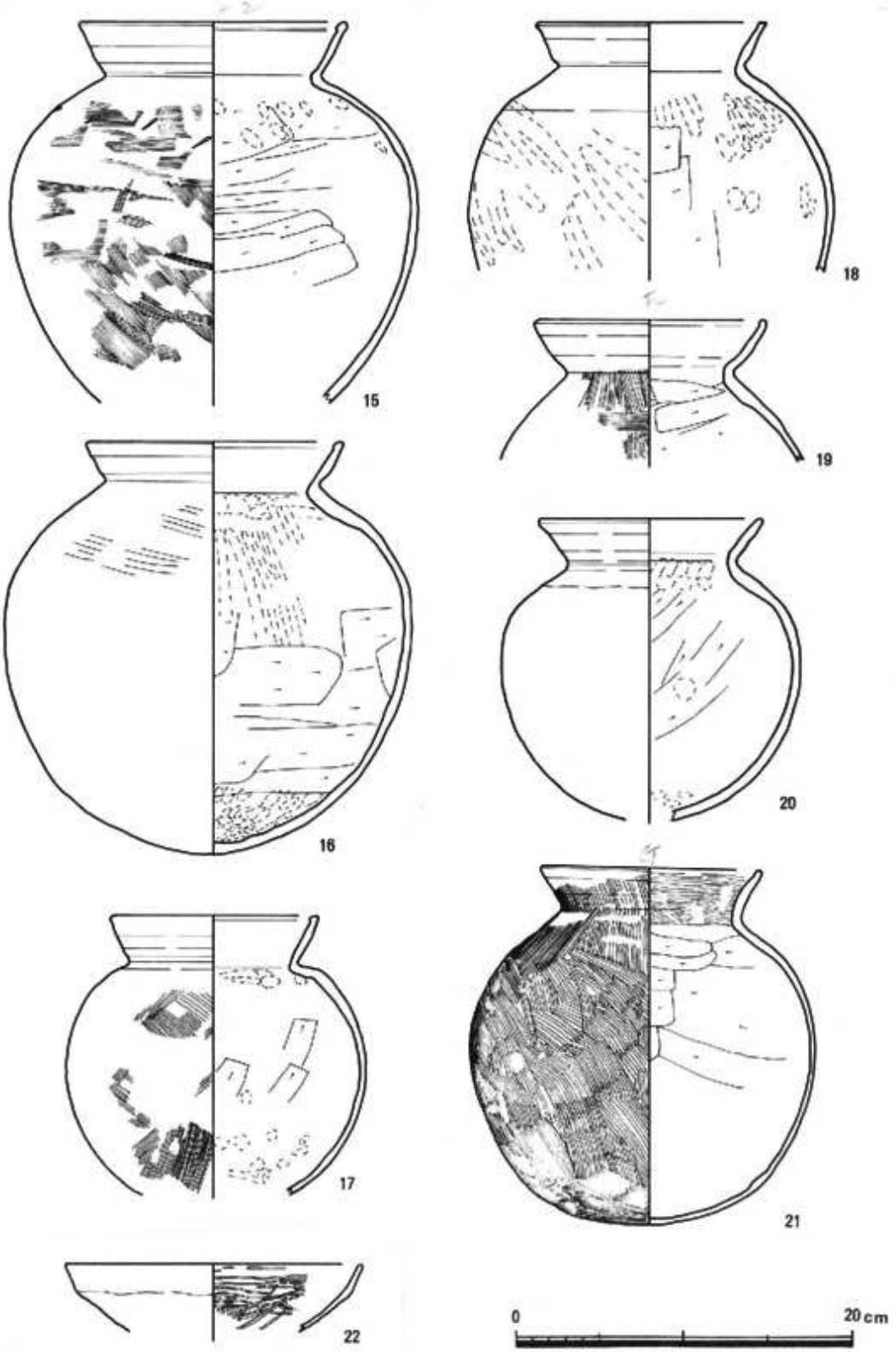
1 茶褐色細砂混粘土
2 茶褐灰色細砂混粘土
3 灰茶色細砂混粘土
4 灰茶色細砂
5 灰色細砂
6 灰色細砂混粘土
7 灰茶褐色細砂
8 淡灰色細砂
9 灰茶色粘土
10 暗灰色細砂混粘土

0　　5 m

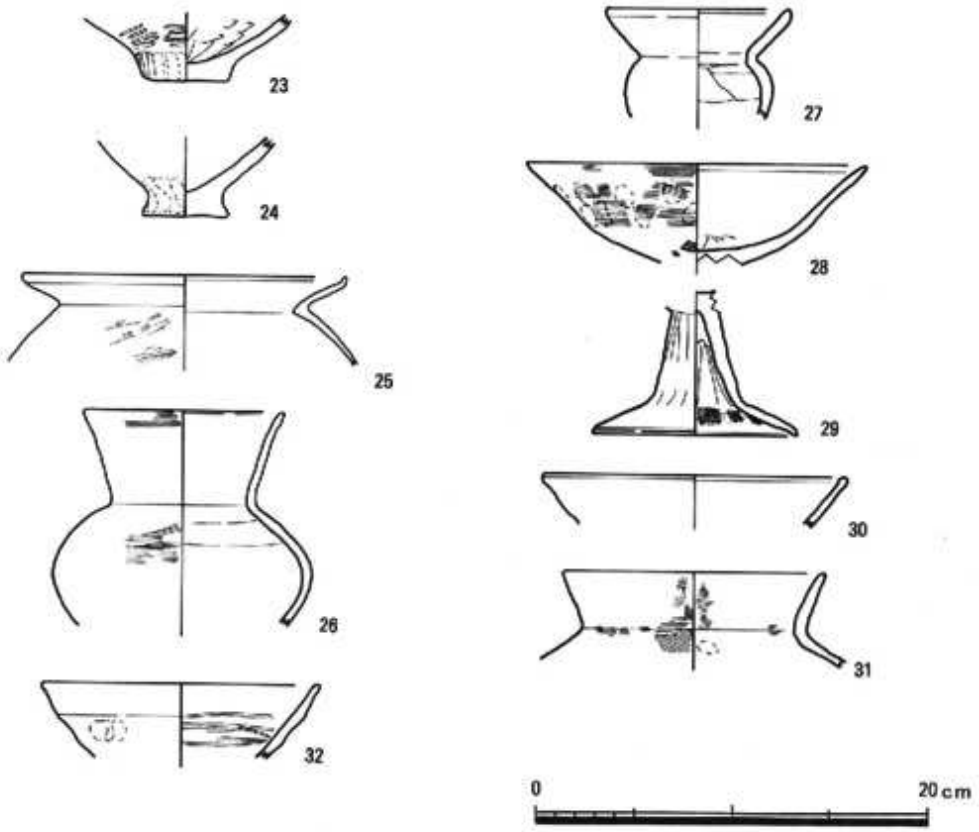
第5図　第2調査区SD—101平断面図



第6図　第2調査区SD—101出土遺物実測図



第7図　第2調査区SD−101・SD−201出土遺物実測図



第8図　第2調査区包含層出土遺物実測図

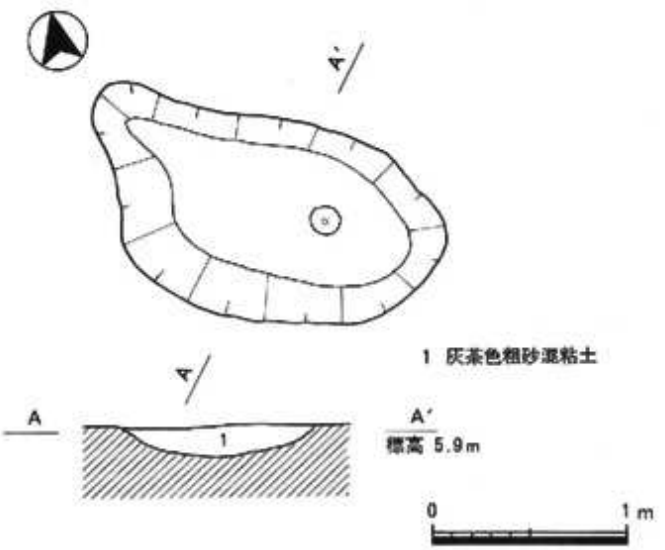
3）第3調査区

第1調査面

土坑（SK）

SK−101

調査区の南側で検出した土坑で、上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.9m・南北幅1.0m・深さ0.08mを測る。内部堆積土は灰茶色粗砂混粘土で、土坑内からは土師器の高杯（33）が出土している。



第9図　第3調査区SK−101平断面図

溝（SD）

SD−102

調査区の北東で検出した。南東—北西方向に伸びる溝で、幅4.5〜5.8m、深さ0.14mを測

る。内部堆積土は上層から灰茶褐色細砂混粘土、灰色シルト混粘土である。溝内からは土師器の壷（34）・高杯（35）が出土している。

小穴（SP）

SP—101

SK—101の北西で検出した小穴で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅0.5m、南北幅0.6m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は茶灰色粗砂混粘土である。小穴からの遺物の出土はなかった。

SP—102

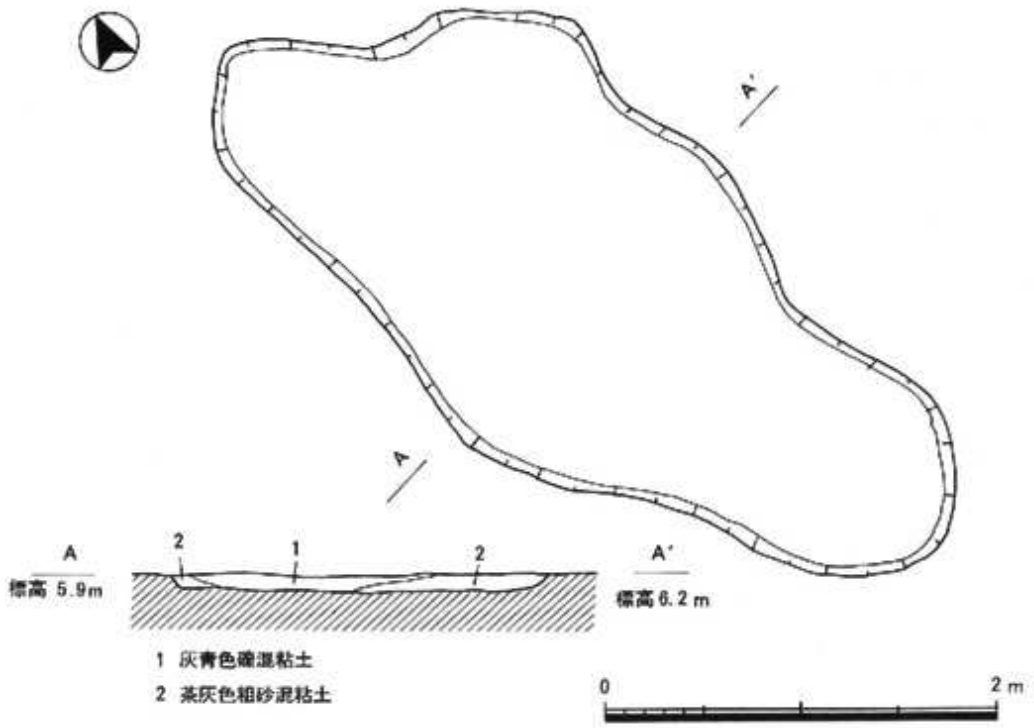
SP—101の西側で検出した小穴で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅0.55m、南北幅0.6m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は茶灰色粗砂混粘土である。小穴からの遺物の出土はなかった。

第2調査面

土坑（SK）

SK—201

調査区の南東側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅4.3m、南北幅1.9m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上層から灰青色礫混粘土、茶灰色粗砂混粘土である。土坑内



第10図　第3調査区SK—201平断面図

からは土師器小皿（36）が出土している。

SK—202

SK—201の北側で検出した。上面の形状は方形を呈する。東西幅1.0m、南北幅0.8m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は上層から灰青色粗砂混粘土、灰色粗砂混粘土である。土坑内からは土師器の小皿（37）、瓦器の小皿（38）の破片が出土している。

SK—203

SK—202の北側で検出した。上面の形状は楕円形を呈する。東西幅1.4m、南北幅2.2m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上層から灰色礫混粘土、灰茶色粗砂混粘土である。土坑内からは瓦器の椀（39）が出土している。

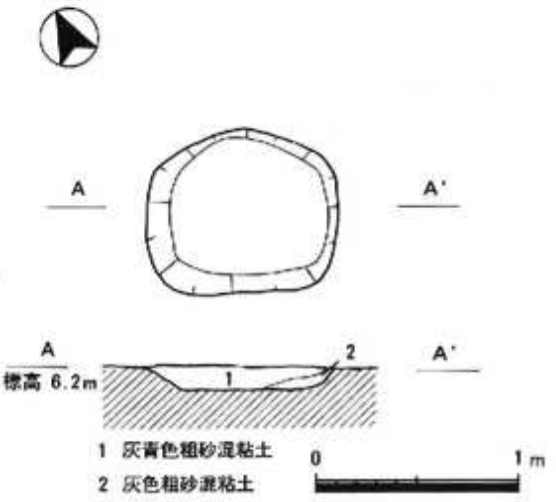
SK—204

SK—203の北側で検出した。上面の形状は楕円形を呈する。東西幅2.8m、南北幅3.95m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上層から灰茶色細砂混粘土、茶灰色シルト混粘土である。土坑内からは土師器の中皿（40）、瓦器の小皿（41）が出土している。

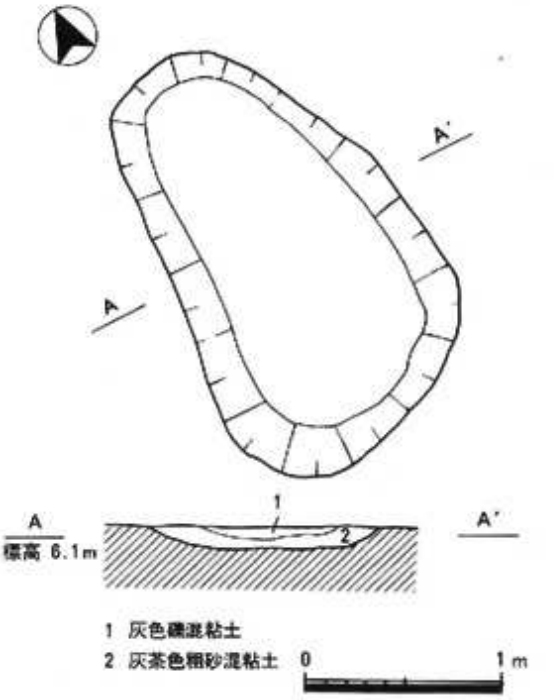
溝（SD）

SD—202

調査区の北東部で検出した。南東—北西方向に伸び、幅3.7～2.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルトである。溝内からは瓦器の椀（42・43・44）が出土している。



第11図　第3調査区SK—202平断面図

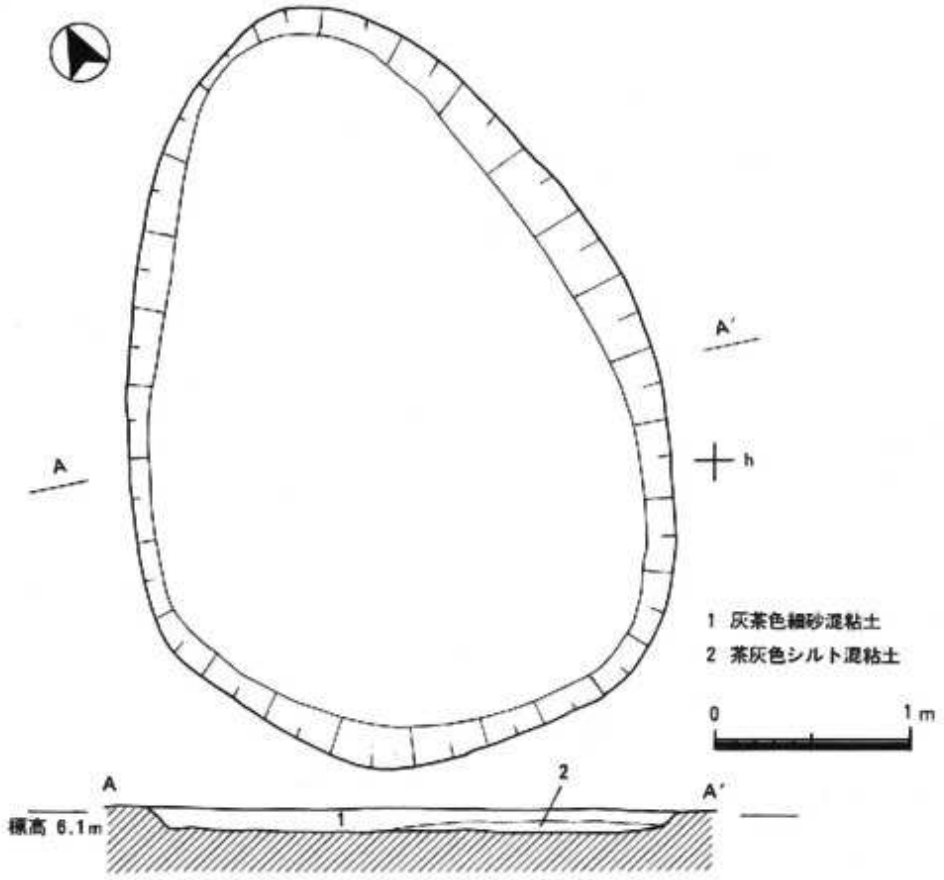


第12図　SK—203平断面図

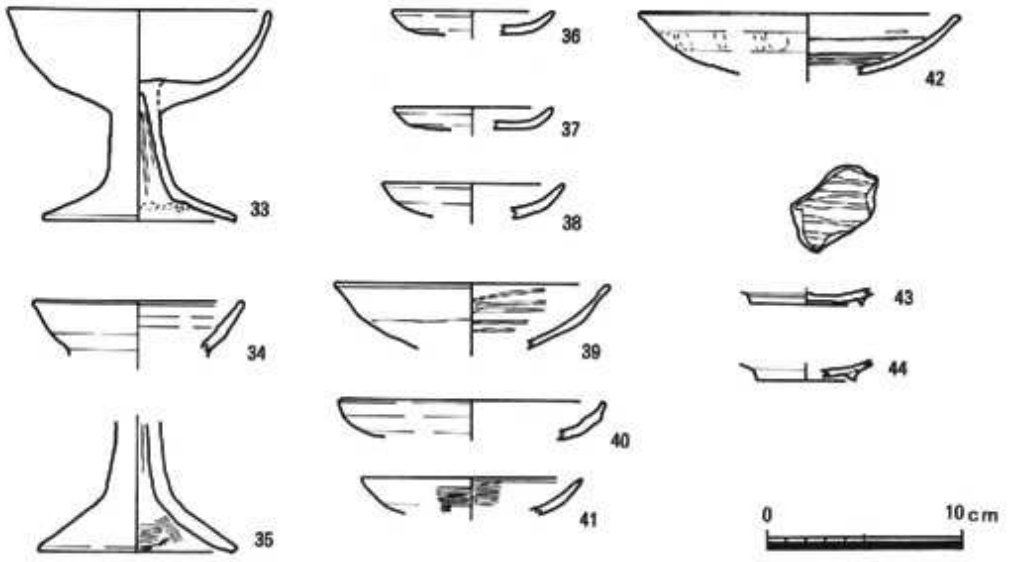
包含層出土遺物

第3調査区では、第4層から弥生時代後期の壷（45）・台付鉢（46）・高杯（47）・甕（48～53）・古墳時代前期〔庄内式期〕の甕（54）・〔布留式期〕の壷（55～57）・高杯（58・59）・甕

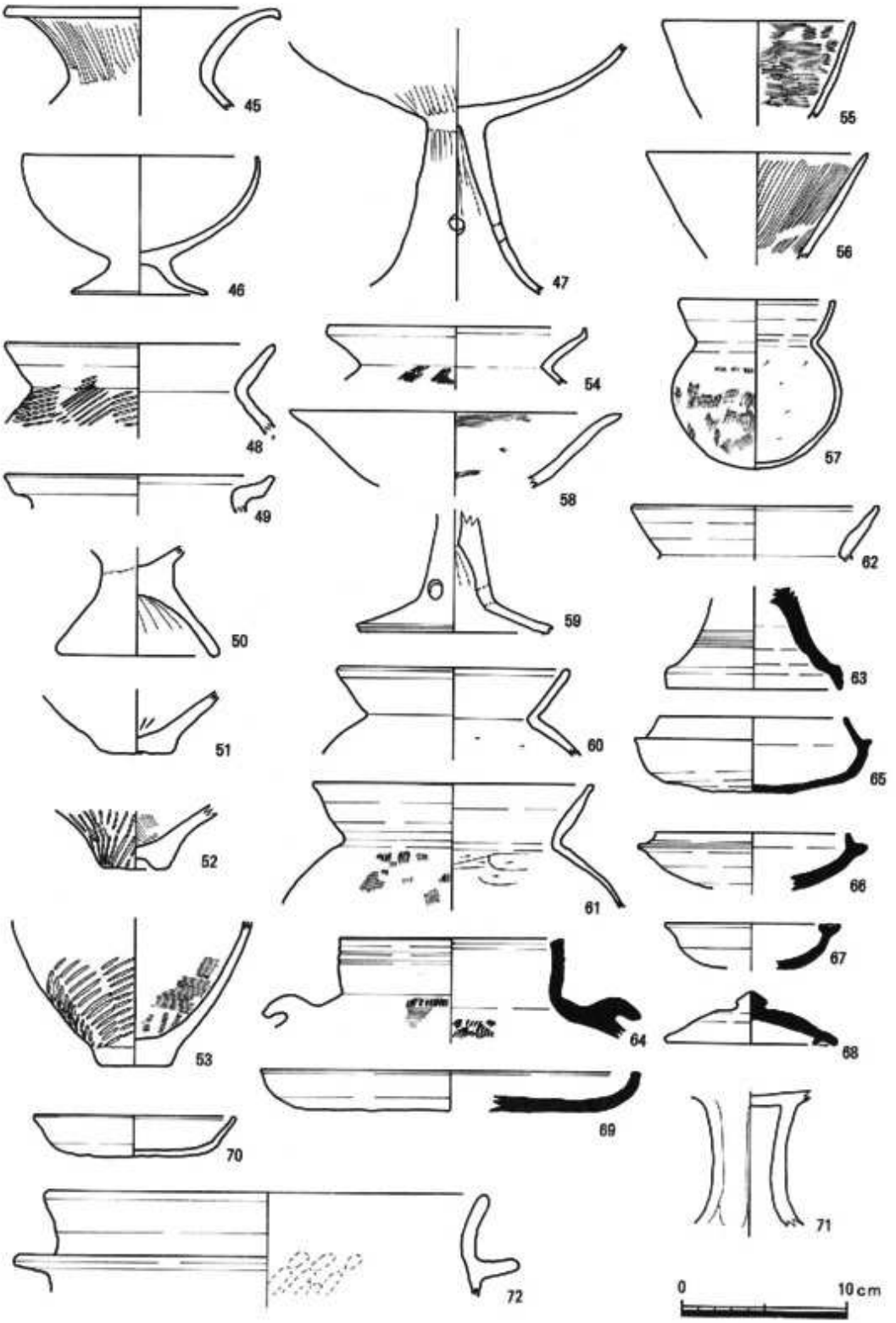
(60～62)・古墳時代中期の須恵器高杯（63)・壷（64)・杯身（65～67)・杯蓋（68)・奈良時代の須恵器杯（69)・土師器皿（70)・高杯（71)・羽釜（72）が出土している。



第13図　第３調査区ＳＫ―204平断面図



第14図　第３調査区ＳＫ―101、ＳＤ―102、ＳＫ―201、ＳＫ―202、ＳＫ―203、ＳＫ―204、ＳＤ―202出土遺物実測図



第15図　第３調査区包含層出土遺物実測図

4）第4調査区

土坑（SK）

SK－102

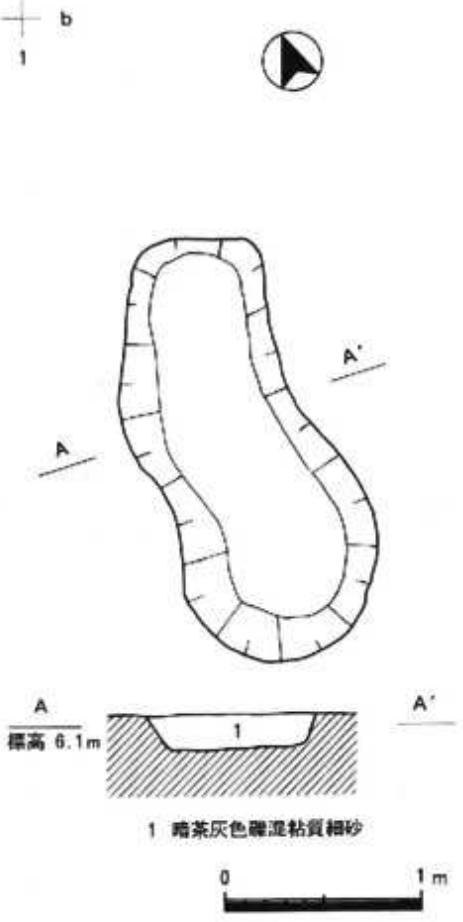
調査区の北東側で検出した土坑で、上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈する。東西幅2.2m、南北幅0.6m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘質細砂である。溝内からは、古墳時代前期〔布留式期〕の壺（73）、甕（74・75）が出土している。

SK－103

SK－102の南側で検出した。上面の形状は東西方向に長い楕円形を呈する。東西幅2.2m、南北幅0.6m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘質細砂である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－104

SK－102の北側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.0m、南北幅3.5m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は茶灰色礫混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。



第16図　第4調査区SK－102平断面図

SK－105

SK－103の北側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.7m、南北幅1.2m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は淡茶灰色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－106

SK－104の西側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅1.4m、南北幅1.5m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混細砂である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－107

SK－106の西側で検出した。上面の形状は不定形を呈する。東西幅3.5m、南北幅4.5m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

溝（SD）

SD—103

調査区の北東部で検出した。南東—北西方向に伸びる溝で、検出長3.0m、幅0.45m、深さ0.35mを測る。内部堆積土は灰色礫混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—104

調査区の西部で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長4.2m・幅0.65m・深さ0.16mを測る。内部堆積土は灰色礫混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

小穴（SP）

SP—103

調査区の東側で検出した円形の小穴で、径0.25m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—104

SP—103の西側で検出した円形の小穴で、径0.3m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—105

調査区の南東側で検出した円形の小穴で、径0.3m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—106

SP—105の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—107

SK—103の北側で検出した円形の小穴で、径0.35m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—108

SK—104の東側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.55m、南北0.35m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—109

SK—103の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.3m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—110

SK—103の北側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.45m、深さ0.09mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—111

SK—102の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.65m、南北0.4m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—112

SP—106の西側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—113

SP—112の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.7m、南北0.6m、深さ0.08mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—114

SP—113の北側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—115

SP—114の北側で検出した円形の小穴で、径0.65m、深さ0.26mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—116

SP—115の北側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—117

SP—116の西側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.4m、南北0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—118

SP—112の西側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.45m、南北0.6m、深さ0.11mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—119

SP—118の西側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—120

SK—105の南側で検出した南北方向に長い楕円形の小穴で、東西0.25m、南北0.4m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—121

SK—105の北側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗

茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—122

SP—117の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で東西0.8m、南北0.7m、深さ0.23mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—123

SP—122の北側で検出した円形の小穴で、径0.23m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—124

SP—123の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.8m、南北0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—125

SP—124の西側で検出した円形の小穴で、径0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—126

SP—123の北側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.8m、南北0.45m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—127

SP—126の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.65m、南北0.45m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—128

SP—127の南側で検出した円形の小穴で、径0.4m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—129

SP—106の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西1.1m、南北0.45m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—130

SP—129の西側で検出した円形の小穴で、径0.8m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—131

SP—130の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西1.1m、南北0.8m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—132

SP—107の北側で検出した円形の小穴で、径1.0m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—133

SP—130の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.6m、南北0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—134

SP—133の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西1.0m、南北0.7m、深さ0.12mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—135

SP—134の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.7m、南北0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—136

SP—135の北側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.11mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—137

SP—135の西側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.9m、南北0.5m、深さ0.16mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からは古墳時代前期の壺（76）が出土している。

SP—138

調査区の南西隅で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—139

SP—104の南側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.1m、南北0.75m、深さ0.25mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—140

SP—104の北側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—141

SP—140の北側で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—142

SP—141の東側で検出した東西方向に長い楕円形の小穴で、東西0.75m、南北0.5m、深

さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—143

SP—142の東側で検出した円形の小穴で、径0.55m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—144

SP—143の北東側で検出した円形の小穴で、径0.7m、深さ0.15mも測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—145

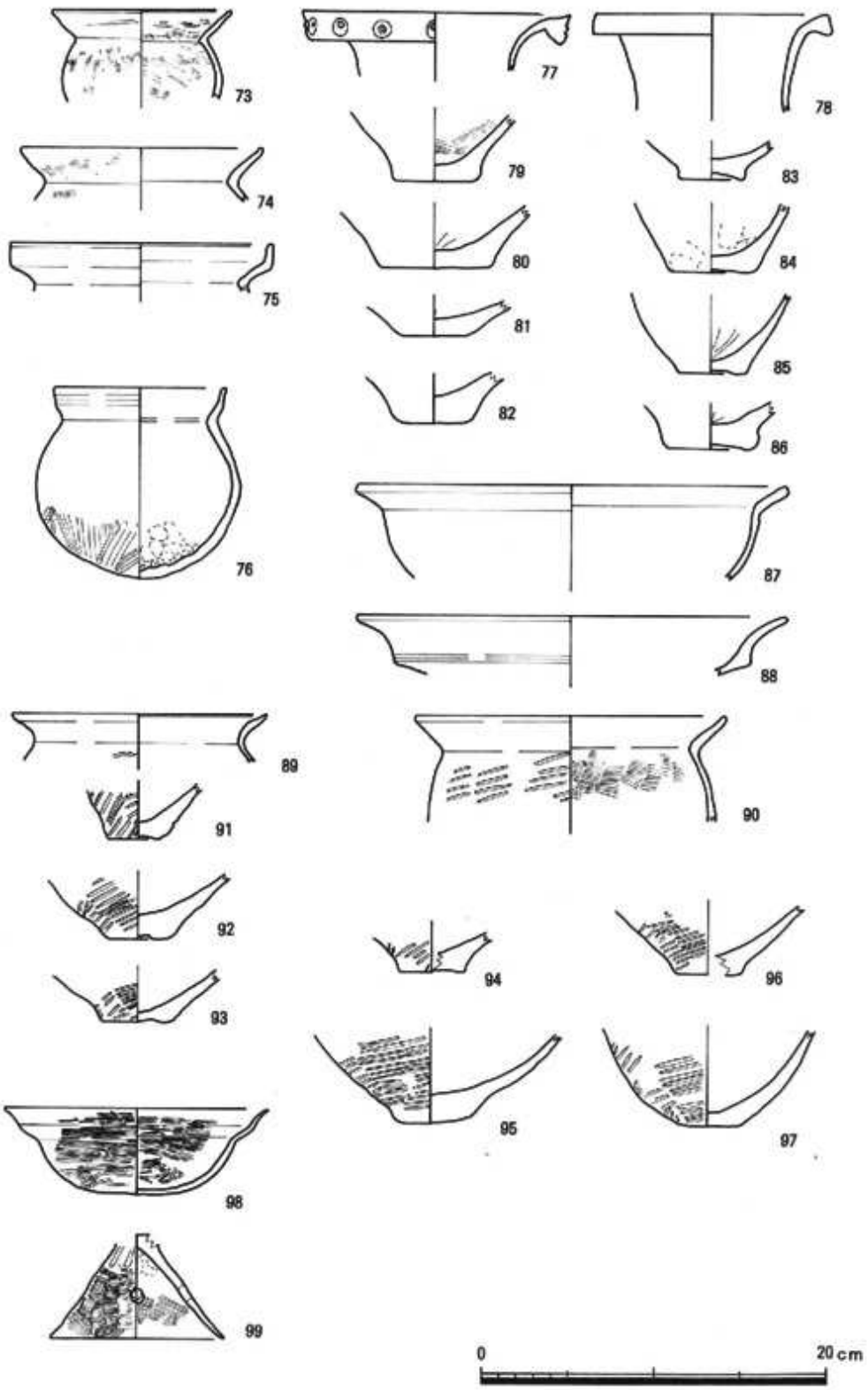
SP—144の北西側で検出した円形の小穴で、径0.5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

SP—146

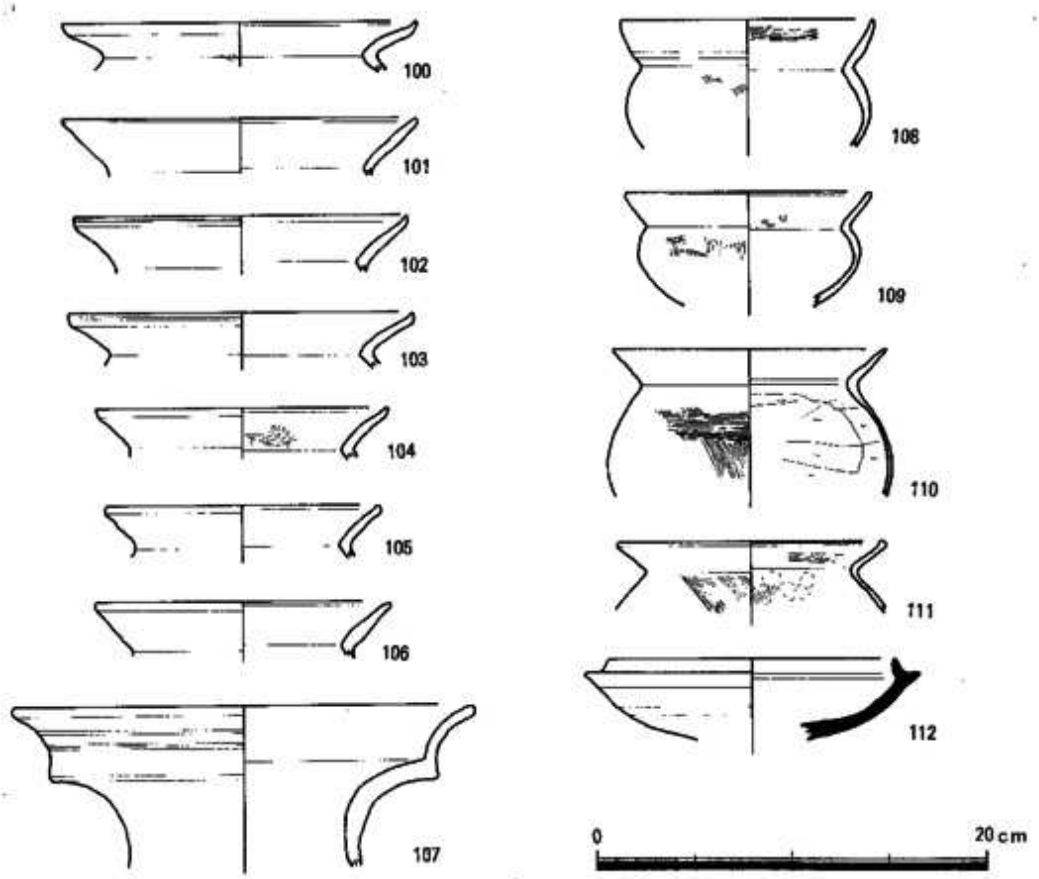
SP—145の北東側で検出した。上面の形状および規模は調査区外へ至るため不明である。内部堆積土は暗茶灰色礫混粘土で、小穴内からの出土遺物はなかった。

包含層出土遺物

第4調査区では、第4層から弥生時代後期の壺（77～86）・鉢（87）・高杯（88）・甕（89～97）と、古墳時代前期〔庄内式期〕の鉢（98）・器台（99）・甕（100～106）、〔布留式期〕の壺（107～109）、甕（110・111）、古墳時代中期の須恵器杯蓋（112）が出土している。



第17図　第4調査区SK—102・SP—137・包含層出土遺物実測図



第18図　第4調査区包含層出土遺物実測図

第2節　第3次調査

1．調査の方法

合同宿舎の建築予定地に合せて3箇所の調査区を設定し、第1調査区、第2調査区、第3調査区と呼称した。調査に際しては、八尾市教育委員会の試掘結果に基づいて、現地表下0.55～0.7mまでの土層を機械により排除し、以下の各層は層理に従って人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。その結果、第1調査区では古墳時代前期と鎌倉時代前期・後期の遺構を検出し、第2調査区では古墳時代前期・後期と鎌倉時代前期と近世の遺構を検出し、第3調査区では、古墳時代前期と鎌倉時代後期の遺構を検出した。

調査地では、調査地の西端に調査用杭〔基1〕を設定した。この杭から、南に15m、北に25m延長させて南北の基準線とした。この基準線の南端を基点とした。東西については、基点から東に190m延長させ、第1～3調査区を覆う東西190m南北40mの範囲を大地区として捉えた。さらにこの大地区の中を5m四方の小地区に区画した。各地区を区画する5mごとのラインは、東西は南端を起点としてアルファベット（a～h）で表わし、南北は西端を起点として数字（1～38）で表わした。各地区の表示については、区画の北東隅で交差する2線を用い、1a～38h地区とした。

なお、基1の国土座標は（X－151，567，7313）（Y－35，579，161）である。

2．基本層序

調査地内では、第2調査区の中央部で古墳が検出されており、この古墳には盛土がされていた。この古墳以外の地区では比較的良好な形で土層を観察することができ、ここでは普遍的に存在した7層を基本層序とした。

第0層：盛土　層厚0.3～0.6m。調査区の全域でみられる。地表面の標高は7.1～7.14mである。

第1層：淡灰色細砂混粘土　層厚0.1～0.2m。耕土と思われる土層である。

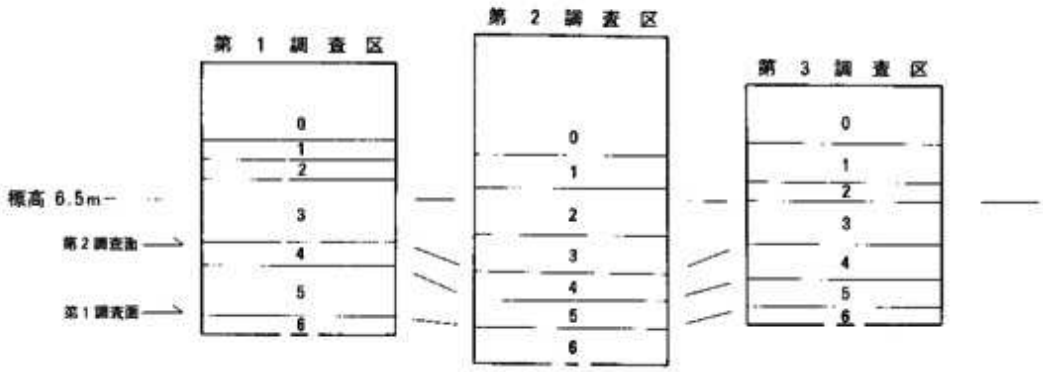
第2層：淡灰色細砂混粘土　層厚0.1～0.24m

第3層：灰茶色粗砂混粘土　層厚0.2～0.32m

第4層：淡灰茶色細砂混粘土　層厚0.12～0.18m。この層の上面は鎌倉時代後期・近世の遺構検出面（第2調査面）である。上面の標高は6.28～6.12mを測る。

第5層：茶褐色粗砂混粘土　層厚0.14～0.36m。弥生時代中期から鎌倉時代に至る遺物を包含している。

第6層：灰茶色細砂混粘土　層厚0.18m以上を測る。上面は古墳時代前期・後期・鎌倉時代前期の遺構検出面（第1調査面）である。上面の標高は5.96～5.84mを測る。



第0層　盛土
第1層　灰青色細砂混粘土　（旧耕土）
第2層　淡灰色細砂混粘土
第3層　灰茶色粗砂混粘土　近世から鎌倉時代の遺物を含んでいる
第4層　淡灰茶色細砂混粘土　上面では鎌倉時代後期　近世の遺構を検出している
第5層　茶褐色粗砂混粘土　古墳時代前期から鎌倉時代に至る遺物を含んでいる
第6層　灰茶色細砂混粘土　上面では古墳時代前期・後期、鎌倉時代前期の遺構を検出している

第19図　第３次調査基本層序模式図

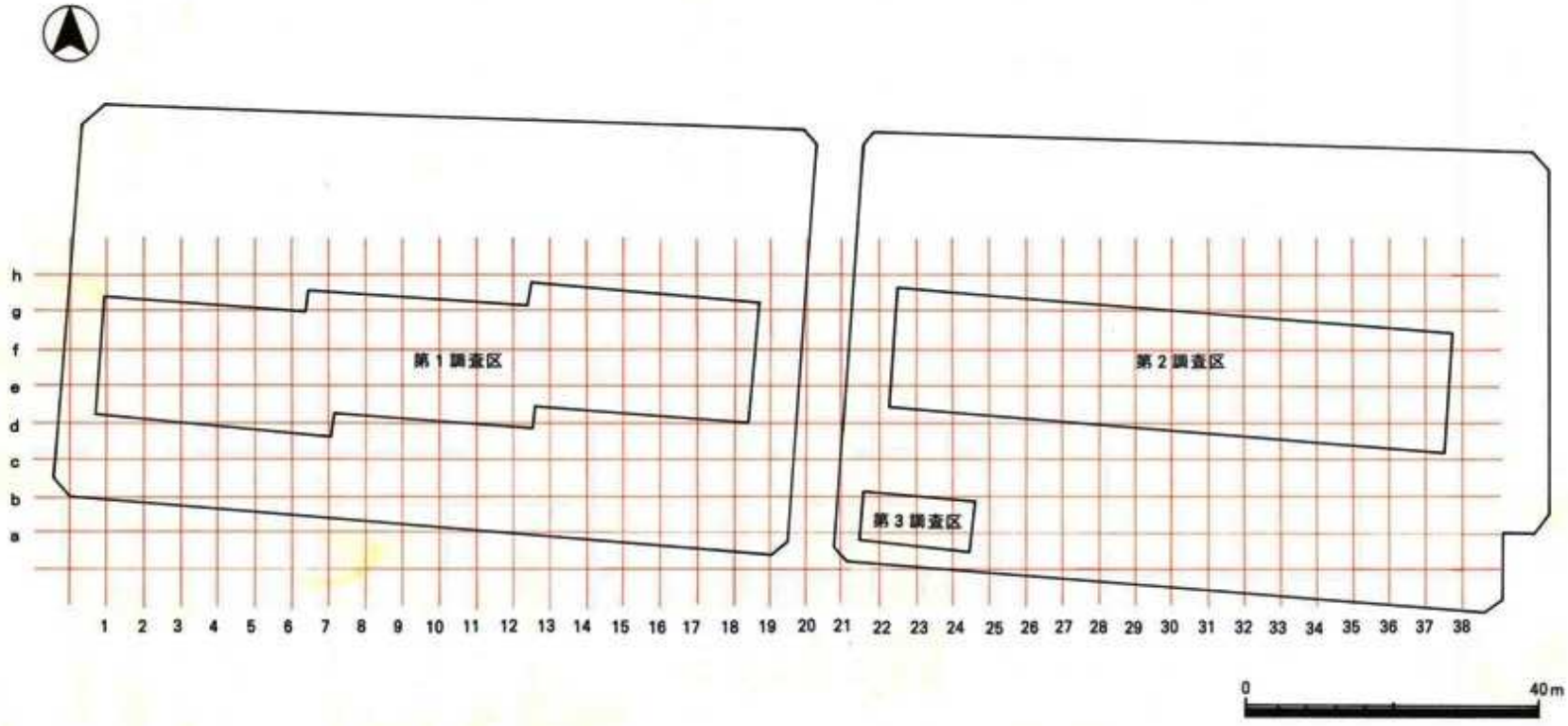
３．検出遺構と出土遺物

第１調査区では、現地表下0.92m（標高6.28m）に存在する第４層上面で土坑１基・溝39条検出した。また現地表下1.3m（標高5.9m）に存在する第６層上面で土坑３基・溝７条を検出した。

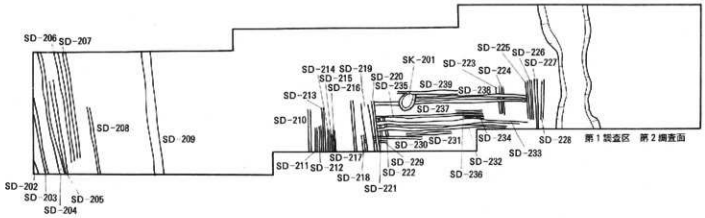
第２調査区では、現地表下1.22m（標高6.23m）に存在する第４層上面で井戸２基・溝２条を検出した。また現地表下1.37m（標高5.94m）に存在する第６層上面で古墳１基・溝３条・自然河道１条を検出した。

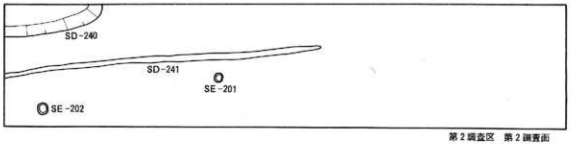
第３調査区では、現地表下0.82m（標高6.28m）に存在する第４層上面で小穴３個を検出した。また現地表下1.14m（標高5.96m）に存在する第６層上面で溝１条を検出した。

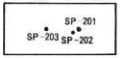
以下、各調査区ごとに検出遺構および出土遺物についての概要を記す。

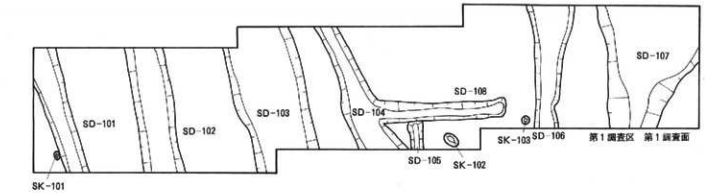


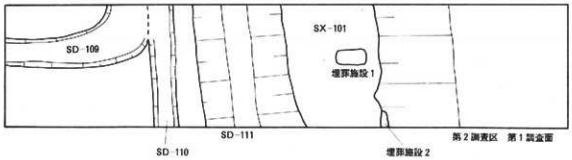
第20図　第3調査地区割図

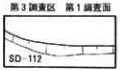












第21図 第3次調査遺構平面図

1）第1調査区

第1調査面

土坑（SK）

SK－101

調査区の西側で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈する。東西幅0.5m、南北幅0.6m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は茶褐色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－102

調査区のほぼ中央で検出した土坑で、上面の形状は楕円形を呈する。東西幅1.0m、南北幅1.9m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

SK－103

SK－102から東へ約7m地点で検出した土坑で、上面の形状はほぼ円形を呈する。径0.7m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰色シルト混粘土である。

溝（SD）

SD－101

調査区の西側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅3.5m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は茶褐色シルトである。溝内からは瓦器椀（1）が出土している。

SD－102

SD－101の東側で検出した溝で、検出長14m、幅5m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は上から灰色シルト混粘土、淡茶色粗砂、茶褐色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD－103

SD－102の東側で検出した溝で、検出長14m、幅5m、深さ0.3mを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂、灰色シルトである。溝内からは土師器、Ⅲ（2）が出土している。なお溝内には、足跡状遺構が多数残っていた。

SD－104

SD－103の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長16m、幅2.0～4.3m、深さ0.15mを測る。この溝はSD－108と合流している。内部堆積土は上から灰茶褐色細砂混粘土、暗茶色粘土である。溝内からは土師器の細片が少量出土している。

SD－105

SD－104の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅1.0～1.6m、深さ0.2mを測る。溝の北側はSD－108に切られている。内部堆積土は上から暗灰色シルト混

粘土、茶灰色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—106

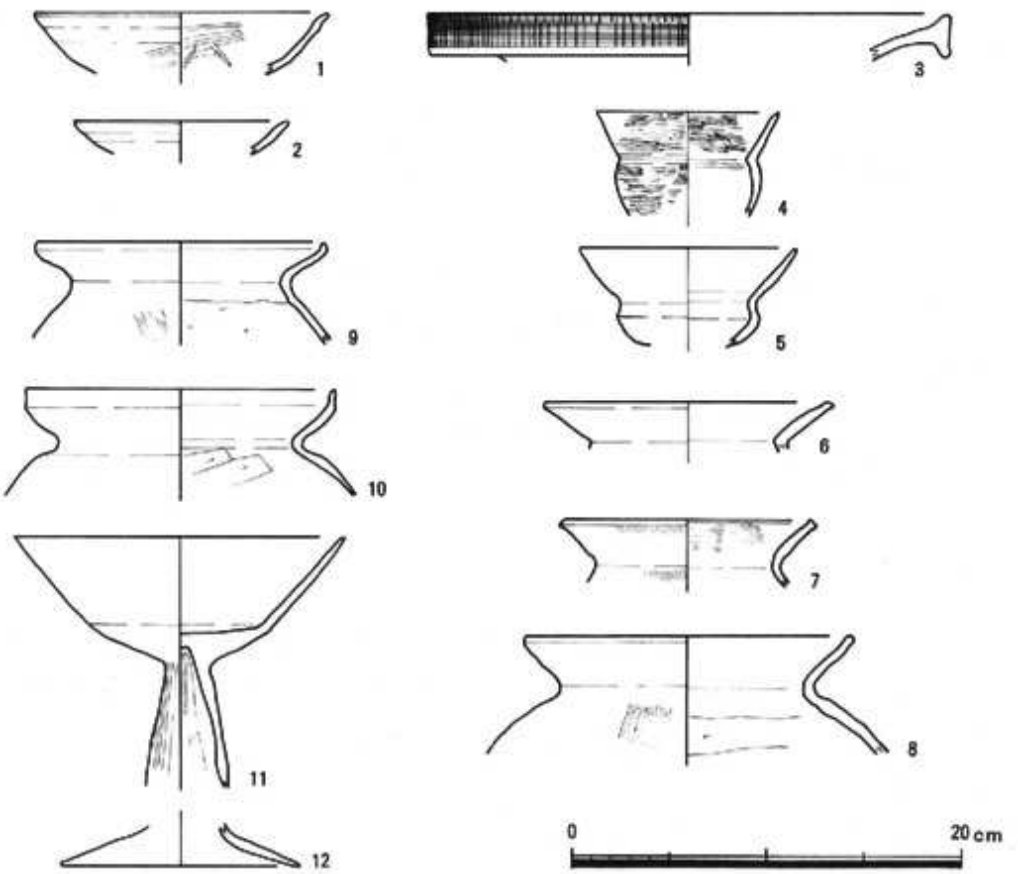
SD—105の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅1.7～5.0m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から灰茶色シルト混粘土、茶灰色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—107

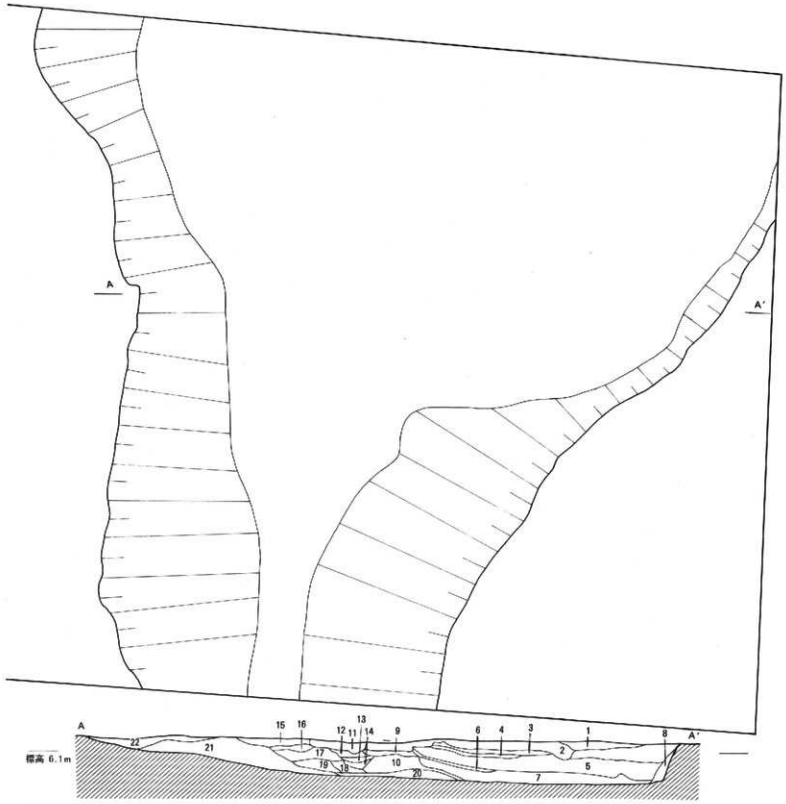
SD—106の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.3m、幅6.3～16.1m、深さ0.85mを測る。内部堆積土は粘砂・細砂・シルトを主体とする土層が複雑に堆積しており、比較的水流の激しい河道であった可能性が推察できる。溝内からは弥生時代中期の壺（3）、古墳時代前期〔布留式期〕小形壺（4・5）、甕（6～10）、高杯（11・12）の他、須恵器、土師器、瓦器の細片が少量出土している。

SD—108

SD—104東側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長16.5m、幅3.0m、深さ0.13mを測る。内部堆積土は茶褐細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。



第22図　第1調査区SD—101、SD—103、SD—107出土遺物実測図



第23図　第1調査区SD－107平断面図

第2調査面

土坑（SK）

SK—201

調査区のほぼ中央で検出した土坑で、土坑の北部はSD—239で切られている。上面の形状は楕円形を呈する。東西幅1.9m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂混粘土、茶灰色シルト混粘土である。土坑内からの遺物の出土はなかった。

溝（SD）

SD—201

調査区の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅3.5m、深さ0.15mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰青色シルト混粘土、淡茶色シルト混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—202

調査区の内側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.5m、東肩のみの検出で幅、深さは不明である。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—203

SD—202の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長11m、幅0.4m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰褐色シルト混粘土である。溝内からは瓦器、土師器の細片が少量出土している。

SD—204

SD—203の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅0.34m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からは瓦器、土師器の細片が少量出土している。

SD—205

SD—204の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長14m、幅0.29m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、灰茶色シルトである。溝の茶灰色細砂混粘土内から、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD—206

SD—205の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長11.5m、幅0.35m、深さ0.03mを測る。内部堆積土は茶灰色細砂混粘土である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD—207

SD—206の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.5m、幅0.48m、深さ0.06

mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色細砂である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出闘している。

SD—208

SD—207の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長13.5m、幅0.48m、深さ0.06mを測る。内部堆積土はは上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色細砂である。溝内からは、瓦器・土師器の細片が少量出土している。

SD—209

SD—208の東側で検出した。南北に伸びる溝で、検出長14m、幅1.54m、深さ0.22mを測る。内部堆積土は上層から茶灰色細砂混粘土、茶褐色シルト混粘土、茶灰色シルト混粘土、茶灰色細砂である。溝内からは、土師器の小皿（13・14）が出土している。

SD—210

SD—209の東側で検出した溝で、検出長5.6m、幅0.27m、深さ0.09mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—211

SD—210の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長3.0m、幅0.25m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—212

SD—211の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—213

SD—212の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長5.25m、幅0.15m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—214

SD—213の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.25m、幅0.26m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—215

SD—214の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長２m、幅0.17m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—216

SD—215の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長2.5m、幅0.3m、深さ0.07mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—217

SD—216の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長6.5m、幅0.22m、幅さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—218

SD—217の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—229と合流している。検出長22.5m、幅0.28m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—219

SD—218の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—229・SD—230と合流している。検出長6.25m、幅0.6m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—220

SD—219の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—229・SD—230・SD—232・SD—233・SD—235・SD—237と合流している。検出長6.0m、幅0.3m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—221

SD—220の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—230・SD—232・SD—233・SD—235と合流している。検出長2.5m、幅0.2m、深さ0.03mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—222

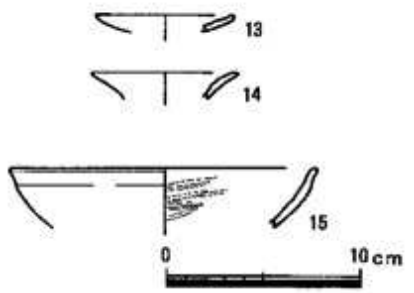
SD—221の東側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—230・SD—232・SD—233・SD—235と合流している。検出長3.5m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からは、瓦器の椀（15）が出土している。

SD—223

SD—222の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—237・SD—238と合流している。検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—224

SD—223の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—237・SD—238と



第24図　第1調査区SD—209・SD—222出土遺物実測図

合流している。検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—225

SD—224の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—237・SD—238と合流している。検出長5.3m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—226

SD—225の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.3m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—227

SD—226の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、SD—233と合流する。検出長5.8m、幅0.15m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—228

SD—227の東側で検出した。南北方向に伸びる溝で、検出長4.0m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—229

調査区の南部で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—218・SD—219・SD—220と合流している。検出長2.3m、幅0.2m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—230

SD—229の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—219・SD—220・SD—221・SD—222と合流している。検出長7.7m、幅0.3m、深さ0.06mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—231

SD—230の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—232と合流している。検出長8.3m、幅0.27m、深さ0.6mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—232

SD—231の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—219・SD—220・SD—221と合流している。検出長17.7m、幅0.26m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—233

SD—232の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—219・SD—220・SD—221・SD—227と合流している。検出長20.6m、幅0.3～0.6m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—234

SD—233の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長4.3m、幅0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—235

SD—234の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長12.5m、幅0.25m、深さ0.04mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—236

SD—235の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、検出長2.8m、幅0.3m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—237

SD—236の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—220・SD—223・SD—224・SD—225と合流し、SK—201を切っている。検出長19.5m、幅0.3m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—238

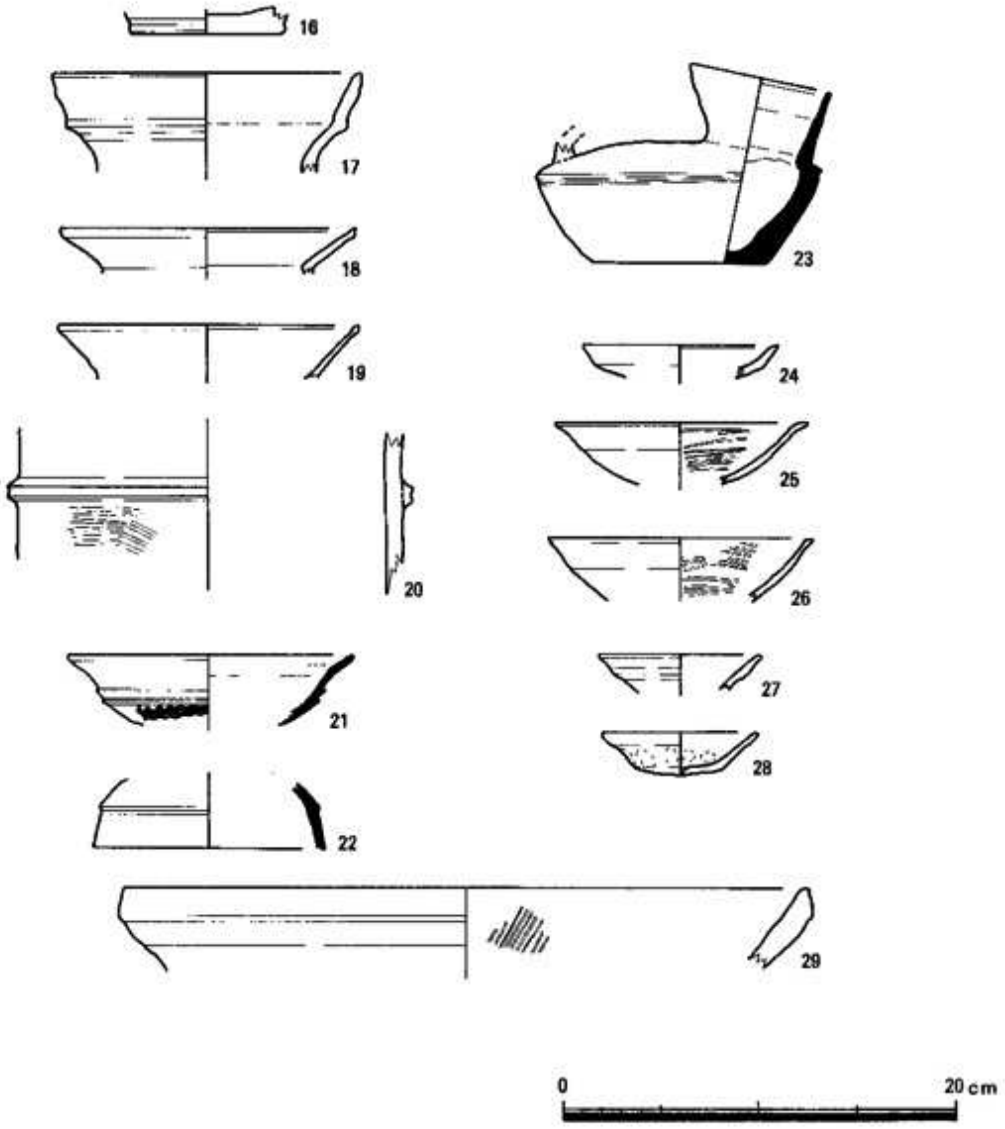
SD—237の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SD—223・SD—224・SD—225と合流し、SK—201を切っている。検出長12.2m、幅0.28m、深さ0.05mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

SD—239

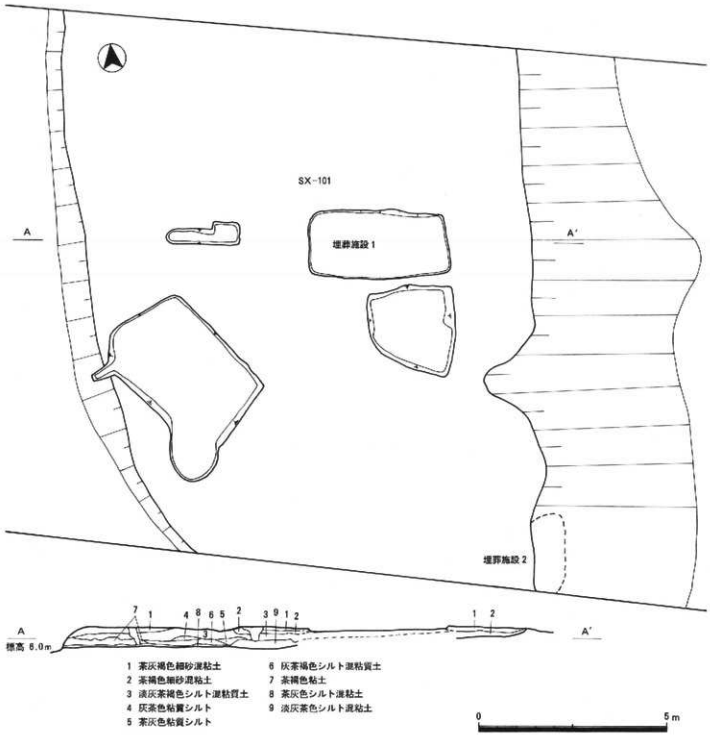
SD—238の北側で検出した。東西方向に伸びる溝で、SK—201を切っている。検出長7.8m、幅1.0m、深さ0.1mを測る。内部堆積土は灰茶色細粗砂混粘土である。溝内からの遺物の出土はなかった。

包含層出土遺物

第1調査区では第6層から弥生時代中期の壺（16）が、第5層から古墳時代前期〔庄内式期〕の壺（17）・甕（18・19）、円筒埴輪の破片（20）、須恵器の高杯（21）、杯蓋（22）、平瓶（23）、瓦器の小皿（24）、椀（25・26）、土師器の小皿（27・28）が、第4層から瓦質の擂鉢（29）が出土している。



第25図　第１調査区包含層出土遺物実測図



第26図　第２調査区ＳＸ－101平断面図

2）第2調査区

第1調査面

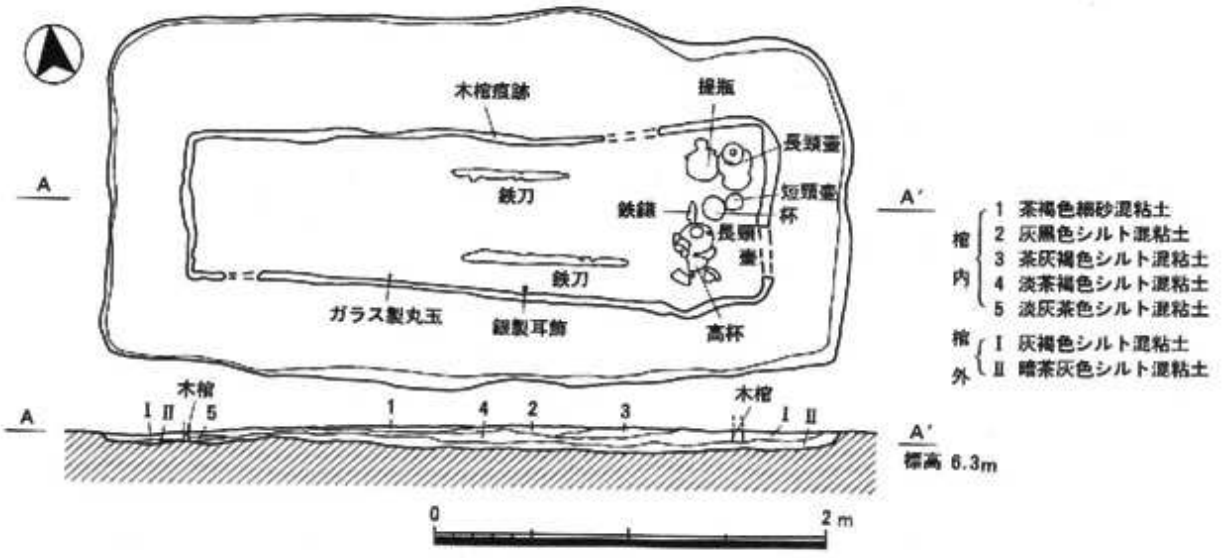
古墳（SX）

SX—101

第2調査区のほぼ中央で検出した。検出した規模は東西12m・南北13mを測る。墳丘の東側は自然河道（NR—101）、西側は溝（SD—111）によって削られているため本来の形は明確にできなかったが、検出した平面形状から墳丘は方形を呈すると思われる。また、墳丘は上部が中世以降に削り取られているため、高さは不明である。現状での高さは0.5mを測る。墳丘は下から淡灰茶色シルト混粘土、茶灰色シルト混粘土、茶褐色粘土、灰茶褐色シルト混粘質土、茶灰色粘質シルト、灰茶色粘質シルト、淡灰茶褐色シルト混粘質土、茶褐色細砂混粘土、茶灰褐色細砂混粘土が盛り上げられていた。

埋葬施設は、墳頂部のやや東寄りに1基（埋葬施設1）と南寄りに1基（埋葬施設2）の2基を検出した。埋葬施設1は木棺直葬、埋葬施設2は直葬である。

埋葬施設1は、主軸をほぼ東西に向けている。墓壙は、隅丸長方形であり、茶灰褐色細砂混粘土を凹字状に掘り込んでいる。墓壙の底はほぼ平坦である。墓壙の規模は東西幅3.8m、南北幅1.9m、深さ0.1mを測る。木棺は墓壙のほぼ中央に位置している。木棺の規模は内寸で長さ2.78m、東小口幅0.8m、西小口幅0.65mを測る。本来の高さは不明で、現状では底から0.06m程度残存しているのみであった。木棺内の東側からは、須恵器の蓋（30）、台付長頸壺（31・32）、短頸壺（33）、高杯（34）、提瓶（35）、土師器の杯（36）、鉄鏃（39・40）が出土



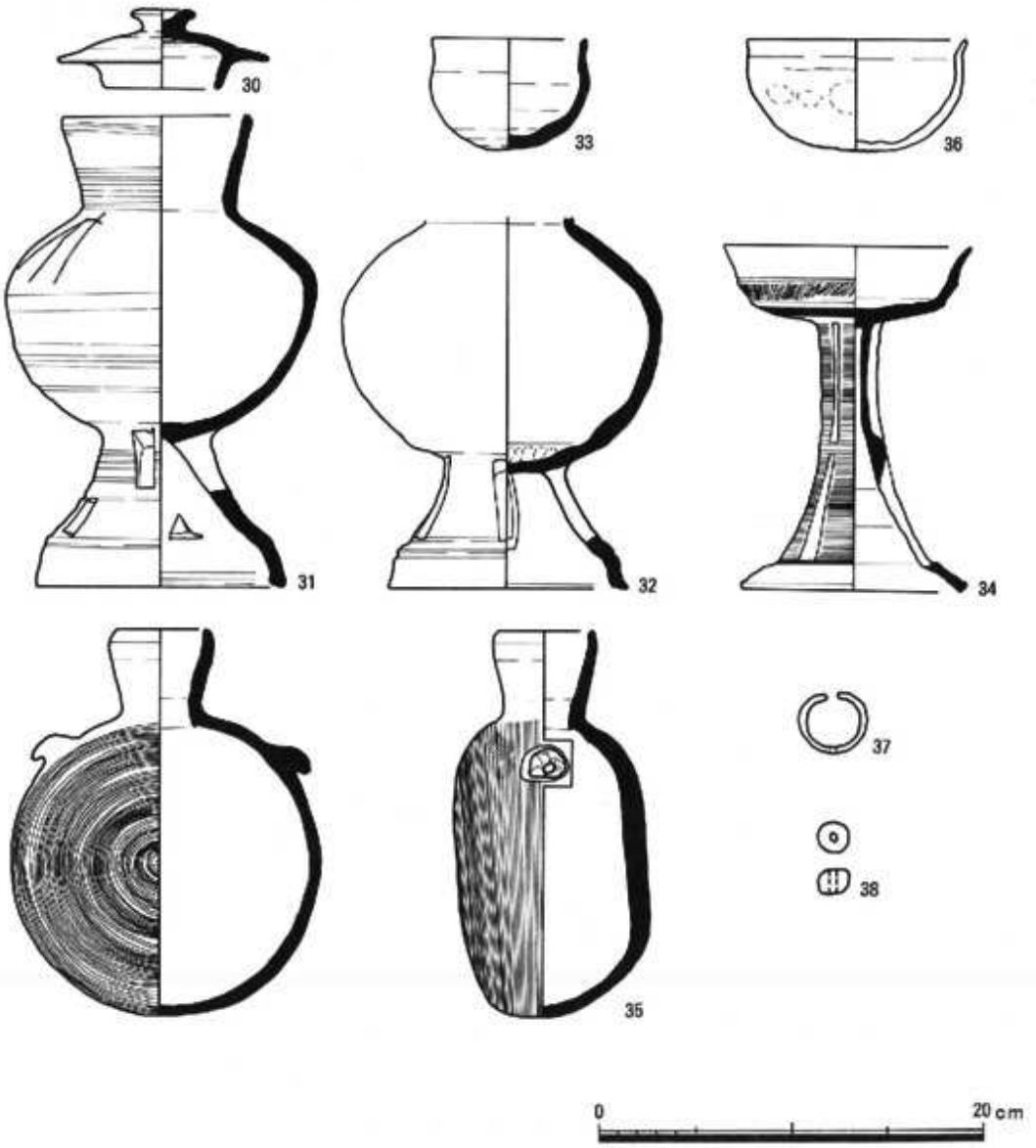
第27図　第2調査区SX—101埋葬施設1平断面図

出土している。また、中央の北側と南側からは鉄刀（41・42）が出土している。南側からは耳飾（37）、玉類〔丸玉〕（38）が出土している。人骨の検出はなかった。

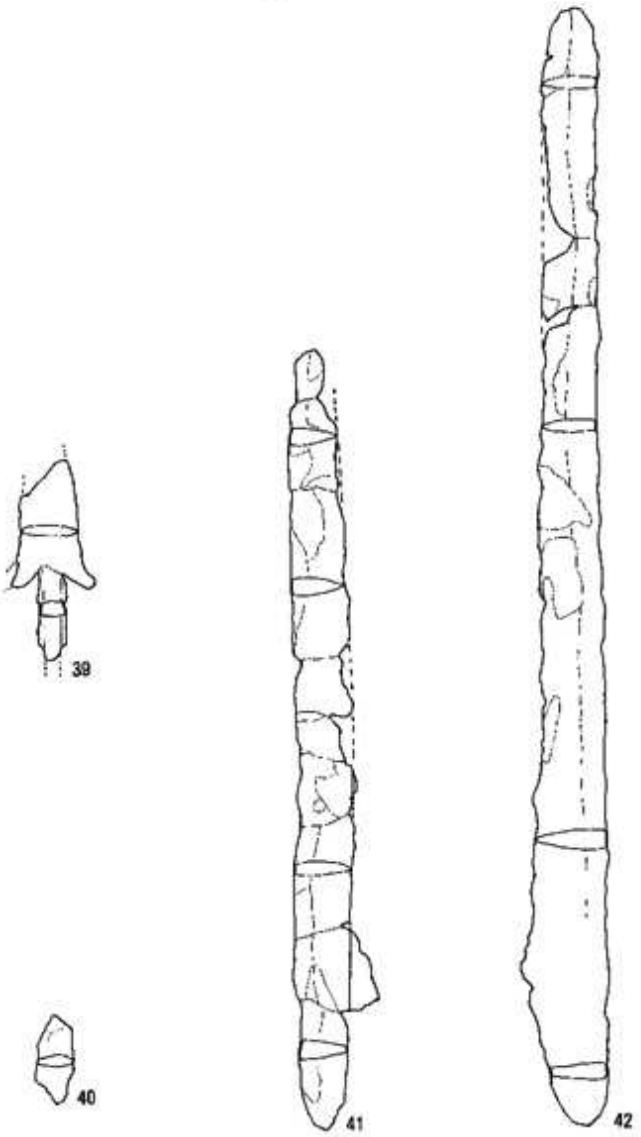
埋葬施設２は、主軸をほぼ南北に向けている。墓壙は現状で、東西幅0.65m、南北幅1.7m、深さ0.1mを測る。この埋葬施設は直葬で、人骨を検出した。人骨は腐蝕が激しく、かろうじて頭蓋骨等がわかる程度のものであった。この埋葬施設内からの遺物の出土はなかった。

この古墳の時期は、埋葬施設１から出土した須恵器の形式から六世紀末のものと思われる。

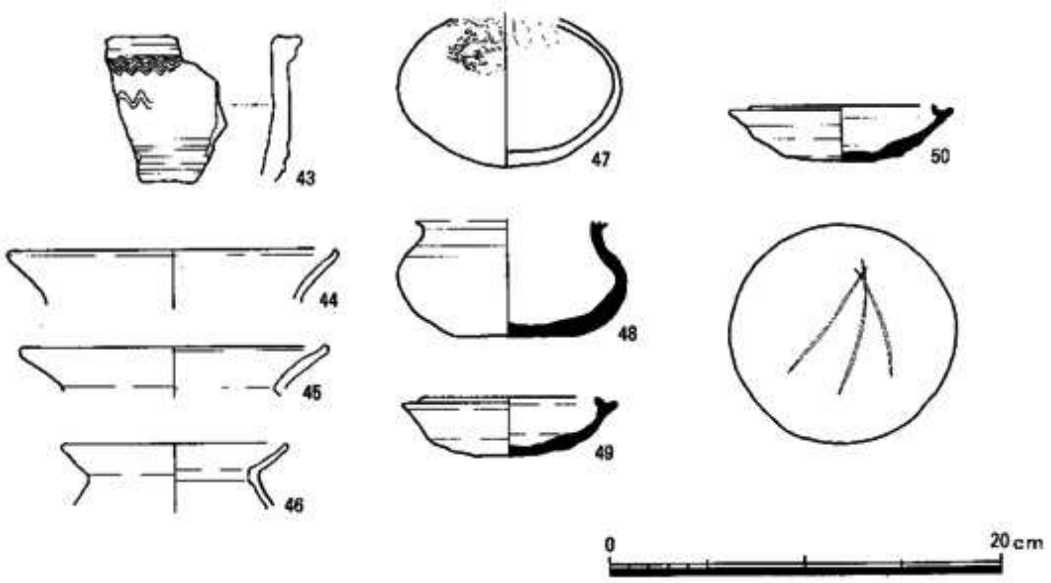
また、墳丘内の茶褐色細砂混粘土からは弥生時代中期の鉢（43）・古墳時代前期〔庄内式期〕の甕（44～46）、茶灰褐色細砂混粘土からは土師器の壺（47）、須恵器の杯（48～50）が出土した。



第28図　第２調査区ＳＸ－101出土遺物実測図１



第29図　第２調査区ＳＸ－101出土遺物実測図２（1／3）



第30図　第２調査区ＳＸ－101墳丘内出土遺物実測図

溝（ＳＤ）

ＳＤ－109

調査区の西側で検出した。東西方向に伸び、東側でＳＤ－110と合流している。検出長18ｍ・幅3.0ｍ・深さ0.25ｍを測る。内部堆積土は上層から茶灰色シルト混粘土・暗茶灰色細砂混粘土・暗灰色細砂・暗灰茶色細砂である。溝内からの遺物の出土はなかった。

ＳＤ－110

ＳＤ－109の東側で検出した。南北方向に伸び、北側でＳＤ－109と合流している。検出長13ｍ・幅3.0ｍ、深さ0.2ｍを測る。内部堆積土は上層から暗灰茶色細砂である。溝内からは遺物の出土はなかった。

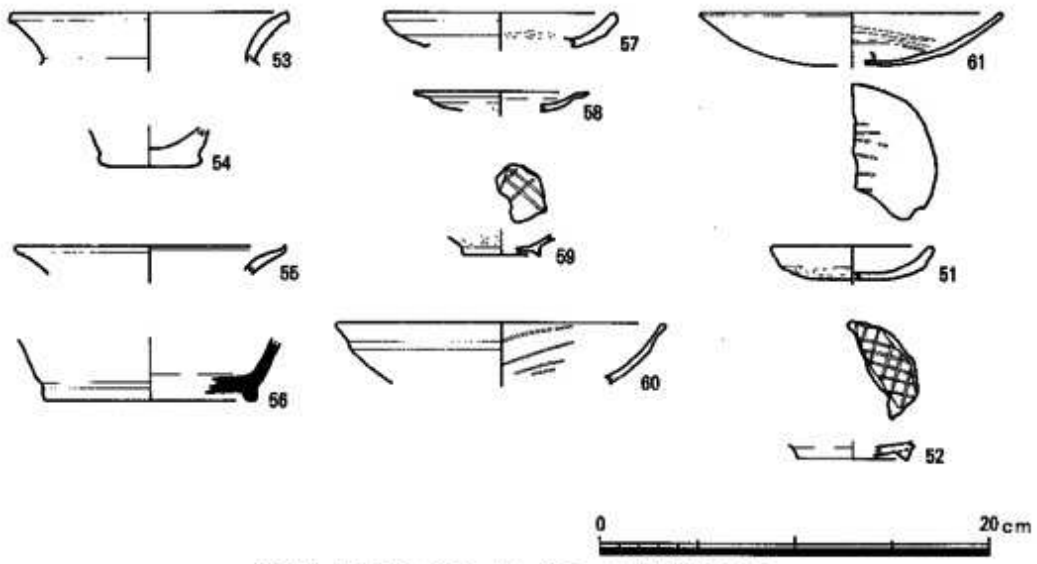
ＳＤ－111

ＳＤ－110の東側で検出した。検出長13ｍ・幅13ｍ・深さ0.3ｍを測る。内部堆積土は暗灰茶色細砂である。溝内からは、瓦器皿（51）・椀（52）が出土している。

自然河道（ＮＲ）

ＮＲ－101

ＳＸ－101の東側で検出した自然河道である。検出長は13ｍである。幅は河道の東肩が調査区外にあるため不明である。深さは1.1ｍ以上である。内部堆積土は粗砂、細砂を主体とした土層が複雑に堆積している。河道内からは弥生時代後期の甕（53・54）・古墳時代前期〔庄内式期〕の甕（55）・須恵器の杯身（56）・瓦器の椀（59～61）・土師器の皿（57・58）が出土している。



第31図　第２調査区ＳＤ―111・ＮＲ―101出土遺物実測図

第２調査面

井戸（ＳＥ）

ＳＥ―201

ＳＤ―241の南側で検出した素掘りの井戸で、上面の形状は円形を呈する。径1.35ｍ・深さ0.55ｍを測る。断面の形状は逆台形を呈しており、内部堆積土は上から、淡灰茶色細砂混粘土・灰色粗砂混粘土である。井戸内からは、土師器の皿（62）・瓦器の椀（63）が出土している。

ＳＥ―202

調査区の南西部で検出した木枠井戸で、上面の形状は円形を呈し、径1.6ｍを測る。井戸の深さは、井戸の下部が粗砂で、しかも湧水が激しいため、不明である。掘形の中央部に桶を３段重ねていた。桶は径0.7ｍ・高さ1.0ｍを測る。井戸側と掘形の間の堆積土は上から、灰色粘土・茶褐色細砂混粘土で、井戸側内の堆積土は、灰茶色細砂混粘土である。井戸内からは近世の遺物が少量出土している。

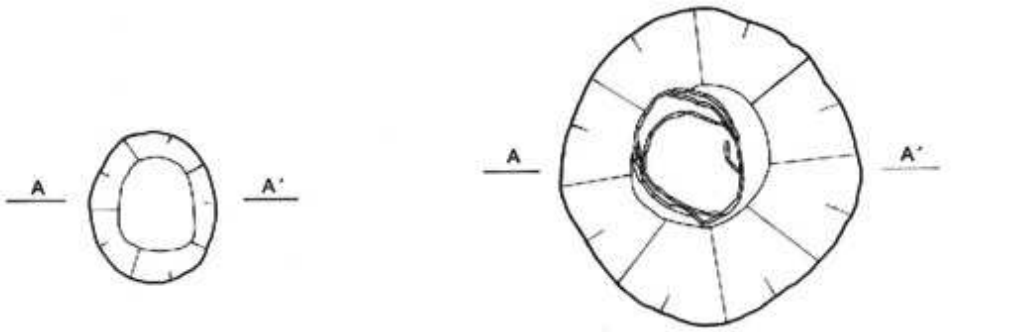
溝（ＳＤ）

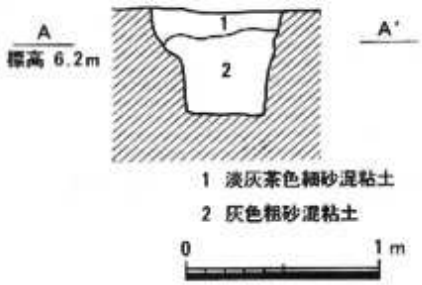
ＳＤ―240

調査区の北西側で検出した。幅は溝の北肩が調査区外にあたるため不明である。検出長12ｍ・深さ0.2ｍを測る。内部堆積土は上から茶灰色細砂混粘土・灰茶色シルト混粘土である。溝内からの出土遺物はなかった。

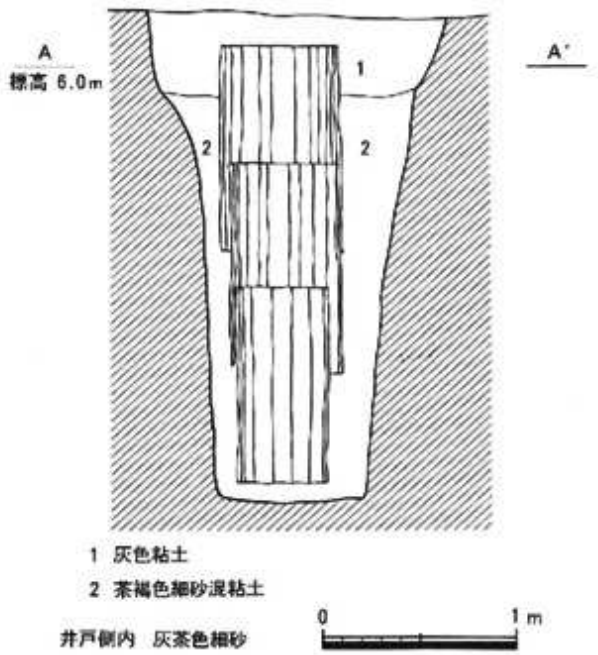
ＳＤ―241

ＳＤ―240の南で検出した溝で東西方向に伸びる。検出長42ｍ、幅0.5～0.9ｍ、深さ0.1

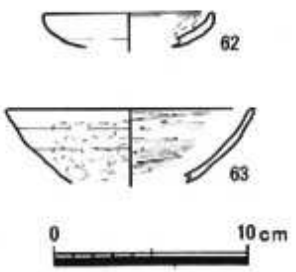




第32図　第２調査区ＳＥ―201平断面図



第34図　第２調査区ＳＥ―202平断面図



第33図　第２調査区ＳＥ―201出土遺物実測図

mを測る。内部堆積土は灰茶色粘土である。溝内からの出土遺物はなかった。

包含層出土遺物

第２調査区では第５層から弥生時代中期の壷（64）・高杯（65）、後期の壷（66）・甕と思われる底部（67～69）、古墳時代前期の鉢（70・71）、甕（72・73）、須恵器杯身（74～77）・器台（78）、土師器の小皿（79）、中皿（80）、瓦器の小皿（81）・椀（82）白磁の椀（83）が出土している。

3）第3調査区

第1調査面

溝（SD）

SD−112

調査区の南側で検出した。検出長13.5m、幅は溝の南肩が調査区外に広がっているため不明である。深さは0.3mを測る。内部堆積土は上層から灰茶色シルト混粘土、暗灰色細砂混粘土で溝内からは古墳時代前期［布留式期］の甕（84・85）が出土している。

第2調査面

小穴（SP）

SP−201

調査区のほぼ中央で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.28m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP−202

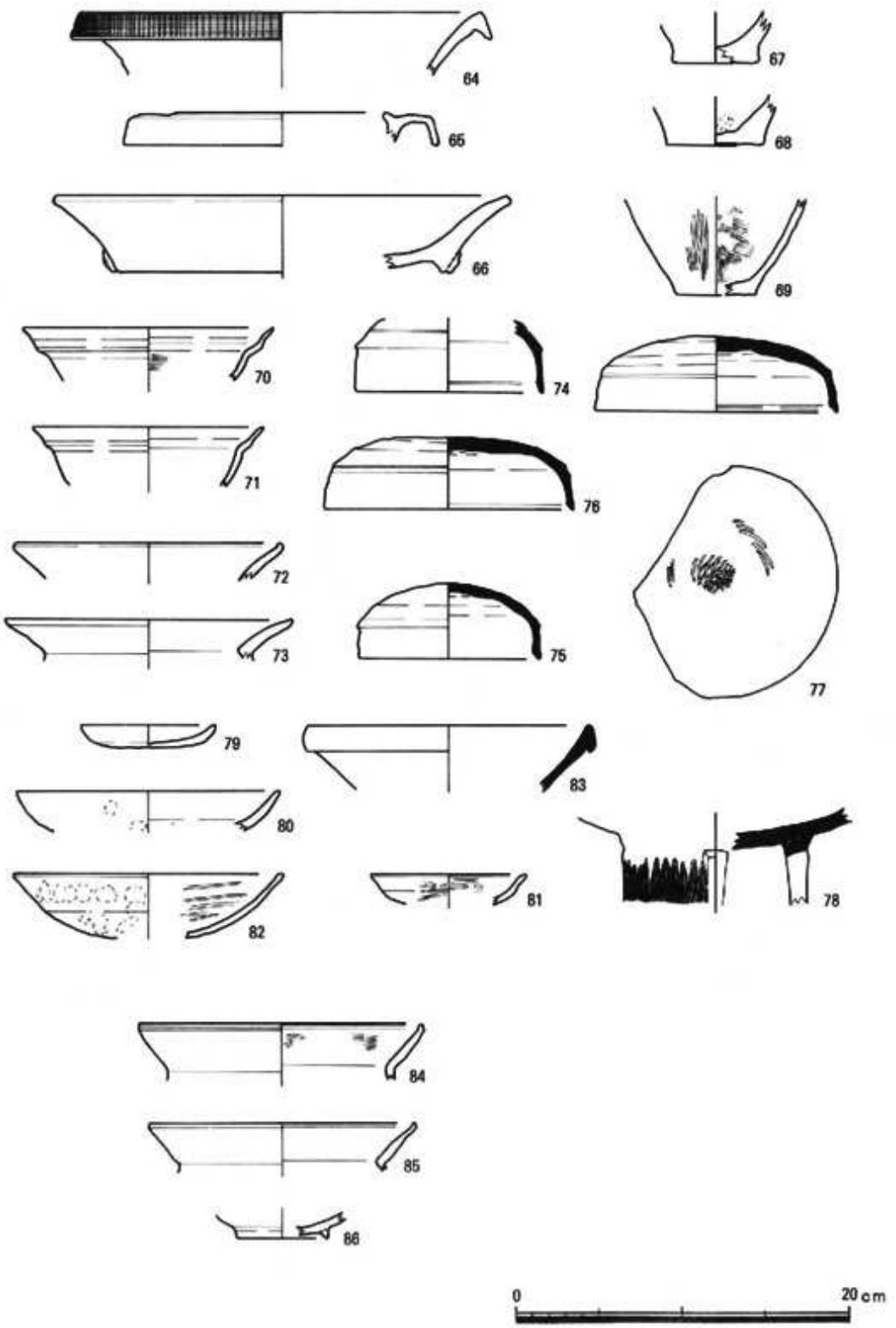
SP−201の西側で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.2m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

SP−203

SP−202の西側で検出した。上面の形状は円形を呈する。径0.26m、深さ0.2mを測る。内部堆積土は灰色粘土で、小穴内からの遺物の出土はなかった。

包含層出土遺物

第3調査区では第5層から瓦器の椀（86）のほか、土師器の細片が少量出土している。



第35図　第2調査区包含層・第3調査区ＳＤ―112、包含層出土遺物実測図

第４章　出土遺物観察表

第２次調査
ＳＤ－101

遺物番号 図版番号	器種	cm 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 六	土師器 壺	口径 器高	9.7 8.8	「く」の字状の縁をもち短く外反し、端部を丸くおさめる口縁部。体部は球形で、胴部の最大径が口径を上まわる。口縁部内面横方向、外面縦方向のハケ目を施す。体部外面は肩部に縦方向のハケ目をつけ、その下から底部まで乱方向のハケ目を施し、内面はハケ目の上をナデている。	淡橙色	密	良好	
2	土師器 壺		---	口縁欠損、体部は球形、体部外面は肩部に縦方向のハケ目をつけ、その下から底部まで乱方向のハケ目を施す。内面はナデ。	淡黒褐色	密	良好	
3 六	土師器 壺	口径	7.8	短く外反し、端部は丸くおさめる口縁部。体部はやや丈高の球形。胴部の最大径が口径を上まわる。体部内外面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	粗 1㎜程度の石英を多く含む	良好	
4 六	土師器 小型壺		---	口縁端部欠損。球形の体部。体部、口縁部内外面ナデ。	淡灰褐色	密	良好	
5 六	土師器 高杯	口径 器高 裾径	18.7 12.6 10.5	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内彎しながらひらき、端部は更に外方にひらく。端部は丸くおわる杯部。柱状部からなめらかに裾部がひらく、端部は丸く終わる脚部。柱状部に３孔を穿つ。杯部内面ナデ、外面ハケ目後ナデ。脚部内面ハケ目、外面ナデ。	淡橙色	密	良好	
6 六	土師器 高杯	口径 器高 裾径	17.5 12.3 11.2	形態、調整ともに６に似る。 脚部内面にしぼり目が残る。	淡灰褐色	密	良好	
7 六	土師器 高杯	口径 器高 裾径	18.5 13.0 11.2	形態、調整ともに６に似る。	淡橙色	密	良好	
8	土師器 高杯	口径	17.6	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内彎しながらひらく口縁部。端部は丸く終わる。内面ナデ、外面ハケ目。	茶褐色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 口径 器高 底径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9 六	土師器 高杯	口 径 17.4	水平に伸びる底部から角度をかえて、やや内彎しながらひらく、端部は尖り気味に丸く終わる。内面ナデ、外面ハケ目。	灰褐色	密	良好	
10	土師器 高杯	口 径 18.8	なめらかに外反しながら開く口縁部。端部は丸く終わる。内外面ともヨコナデ。	淡灰褐色	密	良好	
11 六	土師器 高杯	口 径 23.0 器 高 13.0 裾 径 15.2	水平に大きく開く底部から稜を残し、外反する口縁部。端部は面をもつ。柱状部からなめらかに裾部がひらく脚部。柱状部に3孔を穿つ。杯部内面横方向のハケ目後方射状のヘラミガキ。外面口縁部ヘラミガキ。口縁端部ヨコナデ。底面ハケ目後ヘラミガキ。脚部内面しぼり目。裾面横方向のハケ目。	乳灰褐色	密	良好	
12	土師器 高杯	口 径 20.2	水平に大きく開く底部から稜を残し、外反する口縁部。端部は更に外方へ向く。端部は丸く終わる。内外面とも横ナデ。	淡灰褐色	密	良好	
13 七	土師器 高杯	口 径 19.6	水平にひろがる底部から、段をつくり外彎しながら開く口縁部。内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	密	良好	
14	土師器 高杯	裾 径 12.0	柱状部からなめらかに裾部がひらく。端部は面をもつ。内面しぼり目。横方向のハケ目。外面ナデ。	灰茶褐色	密	良好	
15 七	土師器 甕	口 径 15.8	口縁部は内面に稜をもちそのまま外反する。端部は内方に肥厚し、内傾する。体部は長胴形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面ハケ目。体部上位に斗痕文。	淡灰褐色	密	良好	
16 七	土師器 甕	口 径 15.0 器 高 25.0	口縁部は内彎しながら開く。端部は内方に肥厚し、内傾する。体部は長胴形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指頭圧成形中位ヘラケズリ、上位指頭ナデ。外面ハケ目。	淡灰褐色	密	良好	
17 七	土師器 甕	口 径 12.1	口縁部は内彎しながら開く。端部は内方に肥厚し、内傾する。体部は球形である。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指頭圧成形、中位ヘラケズリ、上位指頭ナデ、外面ハケ目。	淡茶褐色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	cm 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
18 七	土師器 甕	口径	13.2	口縁部は内彎しながら開く。端部は内方に肥厚し、内傾する。体部は球形である。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面中位ヘラケズリ、上位指頭ナデ。外面ナデ。	淡灰褐色	密	良好	
19	土師器 甕	口径	13.3	口縁部は内彎しながら開く。端部は内方に肥厚し、内傾する。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面ハケ目。体部内面に圧痕文。	淡灰褐色	密	良好	
20 七	土師器 甕	口径	13.1	口縁部は外反する。端部は丸く終わる。体部は球形。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下位指頭圧痕あり、中位ヘラケズリ、上位指頭ナデ。	淡灰褐色	密	良好	
21 七	土師器 甕	口径	12.7	口縁部はそのまま外反する。端部は内方へつまみ上げ気味に丸く終わる。体部は球形。口縁部内面横方向のハケ目、外面縦方向のハケ目体部内面下位ナデ、中位から上位にかけてヘラケズリ。外面ハケ目。	淡灰褐色	密	良好	

SD−201

遺物番号 図版番号	器種	cm 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
22 七	土師器 椀	口径	17.6	斜上方へ内彎して伸びる体部からわずかに外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。指おさえ後体部ナデ。口縁部ヨコナデ。ヘラミガキは内面粗い横方向。見込み平行線状のヘラミガキ。	黒灰色	やや粗	良好	

第2調査区　包含層

遺物番号 図版番号	器種	cm 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
23	弥生式土器 壺	底径	3.3	突出する平底。体部外面タタキ目、内面ヘラによる圧痕あり。底部外面指頭ナデ。	淡茶褐色	密	良好	
24	弥生式土器 壺	底径	4.0	丸味のある体部。突出する平底。体部内外面ナデ。底部外面指頭ナデ	淳灰褐色	密	良好	
25 八	土師器 甕	口径	16.6	丸味のある体部から頸部でくの字に曲がり、外反する口縁部に至る。口縁端部は上方へつまみ上げ尖り気味に終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面タタキ目。	淡黒褐色	粗 1mm程度の石英、雲母含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種	口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26 八	土師器	口 径 10.0	体部は扁球形。くの字状に外反し端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面ハケ目。	淡灰褐色	粗 1㎜程度の石英含む	良好	
27	土師器 小型壺	口 径 9.2	球形の体部から外反する口縁部に至る。口縁端部はややつまみ上げ気味に丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラによるナデ、外面ナデ。	淡黒褐色	密	良好	
28 八	土師器 高杯	口 径 17.3	丸味のある底部からゆるやかに外反しながらひらき、端部は尖って終わる。口縁部内面ヨコナデ、外面ハケ目の後指頭ナデ。底部内面ヘラナデ。外面ハケ目。	茶褐色	密	良好	
29 八	土師器 高杯	脚 径 10.4	斜めに拡がる柱状部から外側にひらく裾部で端部は面をもつ。柱状部外面ヘラケズり。内面しぼり目。裾部内面布目圧痕、外面ナデ。ハケ目。	淡灰褐色	密	良好	
30	土師器 甕	口 径 15.4	内彎気味に上方にのびる端部は内側に肥厚する。内外面ともヨコナデ。	淡橙色	密	良好	
31	土師器 甕	口 径 13.2	体部からくの字に曲がり、外反して伸びる口縁部。口縁部内面横方向のハケ目、外面縦方向のハケ目。体部内面指頭ナデ、外面ハケ目。	淡灰褐色	粗 石英含む （1㎜～3㎜程度）	良好	
32	瓦器 椀	口 径 14.0	外反し丸く終わる口縁部。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面横方向のヘラミガキ、外面指頭圧痕残存。	黒灰色	密	良好	

SK－101

遺物番号 図版番号	器種	口径 法量 器高 脚径	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33 八	土師器 高杯	口 径 13.2 器 高 10.9 脚 径 9.8	浅い半球形の杯部。口縁部は直立し、端部は丸く終わる。脚裾部は柱状部から丸く屈曲し、斜外方へ開く。端部は面をもつ。口縁部・杯底部内外面ナデ、脚部内面柱状部にしぼり目が残る。裾部内面指おさえ。	茶褐色	粗	良好	

SD－102

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34	土師器 小型壺	口径 10.6	内彎気味に伸びる口縁部。端部は内方つまんで丸く終わる。内外面ともヨコナデ。	乳茶色	やや粗	良好	
35	土師器 高杯	脚径 10.2	柱状部からゆるやかにひろく脚部。柱状部内面しぼり目が残る。脚部内面ハケ目。	淡茶色	やや粗	良好	

SK－201

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
36	土師器 小皿	口径 8.2	丸く立ち上がり、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。外面底部ナデ、口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ。	乳茶色	密	良好	

SK－202

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
37	土師器 小皿	口径 8.0	丸く立ち上がり、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	密	良好	
38	土師器 小皿	口径 9.2	やや丸味をもった体部から、丸く立ち上がり斜上方へやや内湾しながら伸び口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡黒灰色	密	良好	

SK－203

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
39 八	瓦器椀	口径 13.8	外上方へ直線的に伸びる体部から角度を変えて上外方へ直線的に伸びる口縁部に至る。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ、口縁部内外面ナデ。	灰黒色	密	良好	遺振編年 Ⅲ－3 口径、器高調整から見て

SK－204

遺物番号 図版番号	器種	口径 器高 底径 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
40	土師器 中皿	口径 13.2	底部から丸く立ち上がり、斜上方へやや内彎しながら伸びる口縁部に至る。端部は尖り気味に終わる。体部内外面ナデ、口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	密	良好	
41	瓦器 小皿	口径 11.2	外反気味に伸び、端部は尖り気味に終わる。体部内外面ともヘラミガキ。口縁部内外面ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	

SD－202

遺物番号 図版番号	器種	口径 器高 底径 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
42 八	瓦器 椀	口径	斜上方へ内彎して伸びる体部から口縁部へ至る。端部は丸く終わる。体部内面粗い横方向のヘラミガキ。外面指おさえ後ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰黒色	密	良好	
43	瓦器 椀	高台径 5.8	底部中央が少しもり上がった後徐々に内彎して立ち上がる。高台は断面逆三角形で「ハ」の字形に付く。高台周囲ヨコナデ、内面平行線状ヘラミガキ。	黒灰色	密	良好	
44	瓦器 椀	高台径 5.0	水平な底部から徐々に内彎して立ち上がる。高台は断面逆三角形で「ハ」の字形に付く。高台周囲ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰黒色	密	良好	

第3調査区　包含層

遺物番号 図版番号	器種	口径 器高 底径 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
45	弥生式土器 壺	口径 16.2	外反する口縁部。端部は下方につまみ、面をもつ。内面ヨコナデ、外面ヘラミガキ。	乳茶色	粗	良好	
46	弥生式土器 脚付鉢	口径 14.0 器高 8.45	半円形の体部、口縁部は丸く終わる。脚部はゆるやかにひらく。内外面ともナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
47 九	弥生式土器 高杯	— —	平らな底からゆるやかにひらく杯部。柱状部からなめらかに裾部がひらく。杯部内面ナデ外面ヘラミガキ。柱状部内面しぼり目が残る外面ヘラミガキ。	茶褐色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	口径 底径 器高 (cm) 法量	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
48	弥生式土器 壺	口 径16.0	外上方へひらく口縁部、端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ、外面タタキ目。	淡灰灰色	密	良好	
49	弥生式土器 甕	口 径16.0	外反した後、屈曲して再び外反する受口状の口縁部、内外面ともヨコナデ。	淡茶褐色	粗	良好	
50	弥生式土器 台付甕	底 径 9.4	下外方に伸びる。端部は丸く終える。内面板状工具によるナデ、外面ナデ。接合痕が残る。	茶褐色	やや粗	良好	
51	弥生式土器 壺	底 径 4.8	底面は少しくぼむ。突出する平底。内面板状工具によるナデ、外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
52	弥生式土器 甕	底 径 3.6	外底面はくぼむ。突出する平底。内面はハケナデ、外面タタキ目。	淡灰茶色	やや粗	良好	
53 九	弥生式土器 甕	底 径 4.0	突出する平底、内面ハケ目、外面タタキ目。	暗茶褐色	粗	良好	
54 九	土師器 甕	口 径15.6	体部から「く」の字に折曲し外反する口縁部端部は上方へつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。外面タタキ目後ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
55	土師器 甕	口 径11.4	内彎気味に上外方へひろがる。内面横方向のハケ目。外面ヨコナデ。	淡灰茶色	粗	良好	
56 九	土師器 鉢	口 径13.3	上外方へひろがる。内面斜方向のヘラミガキ外面ヨコナデ。	茶褐色	粗	良好	
57 九	土師器 小型鉢	口 径 9.3 器 高 10.3	球形の体部から「く」の字に屈折し、内彎気味にひらく口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ハケ目。内面ヘラケズリ。	淡茶色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
58	土師器 高杯	口径 19.8	外上方にひらく。端部は丸く終わる。内面横方向のハケ目、外面ナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
59	土師器 高杯	脚径 11.4	柱状部から裾部は「く」の字状に屈折してひらく。端部はくぼむ面をもつ。柱状部に3孔を穿つ。柱状部内面しぼり目が残る。外面ナデ、裾部内外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
60	土師器 甕	口径 13.8	口縁部は外反する。端部はわずかに内方に肥厚する。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ。外面ヨコナデ。	淡茶色	やや粗	良好	
61 九	土師器 甕	口径 16.8	内面に鈍い稜をもって外反し、端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ。外面ハケ目。	淡灰茶色	粗	良好	
62	土師器 甕	口径 16.8	外反する口縁部。端部は上方につまみ上げ気味で丸く終わる。内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	粗	良好	
63	須恵器 高杯	脚径 10.4	脚部はゆるやかに外へひらく。端部は尖り気味に丸く終わる。外面直線文、内面回転ナデ。	灰色	密	良好	6C前 (TK 4)
64	須恵器 壺	口径 13.5	内彎する口縁部で、内傾する口端面をもつ。端面は外へわずかにふくれる。体部に耳をつける。口縁部内外面回転ナデ、体部内面円形タタキ、外面平行タタキ後回転ナデ。	灰色	密	良好	
65 九	須恵器 杯身	口径 11.2	平らに近い底部から斜上方へ内彎して受部に至る。受部は外上方へ尖り気味に終わる。立ち上がり部は上内方へ直線的に伸び、口縁端部は丸く終わる。外面受部端より1.8cm以下回転ヘラケズリ。その他回転ナデ。	淡灰色	密	良好	
66	須恵器 杯身	口径 11.5	丸味のある底部から斜上方へ内彎して受部に至る。受部は丸く終わる。立ち上がり部は上内方へ伸び、口縁端部は丸く終る。外面受部端より1.0cm以下回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	灰色	密	良好	
67	須恵器 杯身	口径 10.5	平底の底部から斜上方へ内彎して受部に至る。受部は外上方へ尖り丸く終わる。立ち上がり部は上内方へ伸び、端部は尖り気味に終わる。外面受部端より1.5cm以下回転ヘラケズリ、その他回転ナデ。	淡灰色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
68	須恵器 杯蓋	口径 10.0 器高 3.1 つまみ径 7.8	丸い天井部から器厚を減じながら内彎して下りロ縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内面に断面三角形のかえりをもつ。天井部外面に擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面回転ヘラケズリ、つまみナデ、内面回転ナデ。	淡灰色	密	良好	
69 九	須恵器 杯	口径 22.8 器高 2.4	平らな底部から内彎ぎみに立ち上がる口縁部。端部は面をもつ。内外面回転ナデ。	淡灰色	密	良好	
70	土師器 杯	口径 12.0 器高 2.5	平らな底部から外上方へ伸びる口縁部。端部は尖りぎみに丸く終わる。内外面ナデ。	淡乳茶色	密	良好	
71	土師器 高杯		九角形の脚柱部、内面ナデ、外面ヘラミガキ。	淡赤色	密	良好	
72	土師器 羽釜	口径 26.4	ほぼ垂直に伸びる体部、斜上方へ外反する口縁部である。鍔はわずかに外上方へ伸び丸く終わる。体部内面指頭ナデ、外面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶色	粗	良好	

SK－102

遺物番号 図版番号	器種	法量 口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
73	土師器 小型壺	口径 10.2	球形の体部から「く」の字に曲がる口縁部。口縁部内面ハケ目、外面ヨコナデ。体部内外面ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
74 一〇	土師器 壺	口径 13.8	「く」の字に外反する口縁部。内面ヨコナデ、外面ハケ目、体部内面ナデ、外面ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
75 一〇	土師器 壺	口径 15.1	外反し角度をかえ、直上へ伸びる口縁部。口縁端部は丸く終わる。内面ヨコナデ、外面ヨコナデ。	淡茶色	密	良好	

SP－137

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
76 一〇	上師器 小型壺	口径 9.8	丸味のある体部から外反し、一度屈曲をかえ上外方へ伸びる口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面下方指頭ナデ上方ナデ、外面下方ハケ目、上方ナデ。	茶色	粗	良好	

第4調査区包含層

遺物番号 図版番号	器種	cm 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
77 一〇	弥生式土器 壺	口径 15.4	直立ぎみに伸びる頸部から上外方へ伸びる口縁部。口縁端部は下方へつまみ出をもつ。口縁部、頸部内外面ヨコナデ。口縁胴面に竹管円形押左文を施す。	淡茶褐色	やや粗	良好	弥生時代後期
78 一〇	弥生式土器 壺	口径 13.4	上外方へひろがる頸部から外反する口縁部に至る。口縁端部は斜下方に伸びる面をもつ。口縁部、頸部内外面ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	弥生時代後期
79 一〇	弥生式土器 壺	底径 4.1	突出する半球の底部。内面ハケ目、外面ナデ。	淡茶色	密	良好	
80	弥生式土器 壺	底径 6.0	突出する平底の底部。内面ヘラによる工具痕あり。外面ナデ。	淡茶色	粗	良好	
81	弥生式土器 壺	底径 3.6	突出しない平底の底部。内面ヘラによる工具痕あり、外面ナデ。	淡乳茶色	密	良好	
82	弥生式土器 壺	底径 3.5	突出する半球の底部。内外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
83	弥生式土器 壺	底径 3.6	平らにひらく体部。底部は突出し、底面はくぼむ。内外面ナデ。	茶色	やや粗	良好	
84 一〇	弥生式土器 壺	底径 4.6	突出ぎみの底部。底面はくぼむ。内外面指頭ナデ。	暗灰茶色	粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
85	弥生式土器 甕	底	径 3.7	突出ぎみの底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面ナデ。	乳茶色	密	良好	
86	弥生式土器 甕	底	径 4.5	突出する底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面ナデ。	茶褐色	密	良好	
87 一〇	弥生式上器 鉢	口	径 24.8	ゆるやかに外上方へひろがる体部から「く」の字に外反ぎみに立ち上がる口縁部に至る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶色	やや粗	良好	
88	弥生式上器 高杯	口	径 24.8	平たくひらく体部から外反する口縁部。内外面ともヨコナデ。	淡黄茶色	やや粗	良好	
89	弥生式上器 甕	口	径 14.7	外反する口縁部。端部は上方につまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面指頭ナデ。	茶褐色	粗	良好	
90 一一	弥生式土器 甕	口	径 18.0	やや張りのある体部から「く」の字に屈曲し外反ぎみに立ち上がる口縁部。口縁端部は上方へつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ハケ目、外面タタキ目。	淡茶色	やや粗	良好	
91 一一	弥生式土器 甕	底	径 2.8	突出ぎみの底部。底面はくぼむ。内面ヘラによる工具痕あり。外面タタキ目。	茶褐色	やや粗	良好	
92 一一	弥生式土器 甕	底	径 3.1	突出する底部。底面はくぼむ。内面ハケ目。外面タタキ目。	灰茶色	やや粗	良好	
93	弥生式土器 甕	底	径 4.0	突出する底部。底面はくぼむ。内面ハケ目。外面タタキ目。	淡茶色	やや粗	良好	
94	弥生式土器 甕	底	径 3.8	突出する底部。底面はくぼむ。内面ナデ。外面タタキ目。指跡ナデ。	茶褐色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
95 一 一	弥生式土器 甕	底 径 2.2	突出する平底の底部。内面ナデ。外面タタキ目、指頭ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
96	弥生式土器 甕	底 径 3.6	突出する平底の底部。内面ナデ。指頭ナデ。外面タタキ目。	茶褐色	粗	良好	
97 二 一	弥生式土器 甕	底 径 2.7	突出しない平底の底部。内面ナデ。外面タタキ目。	淡乳茶色	粗	良好	
98 一 一	土師器 鉢	口 径 15.4	平らな体部から水平近く外反し、角度をかえ外彎してひらく口縁部。端部は尖りぎみに終わる。内外面ヘラミガキ。	茶色	密	良好	
99 一 一	土師器 器台	裾 径 10.1	「ハ」の字にひらく裾部。内面ハケ目、指頭ナデ。外面ヘラミガキ。	淡茶色	密	良好	
100	土師器 甕	口 径 18.1	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ナデ。外面ハケ目。	茶褐色	粗	良好	
101	土師器 甕	口 径 18.2	外反する口縁部。端部は丸く終わる。内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	粗	良好	
102	土師器 甕	口 径 17.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
103 一 一	土師器 甕	口 径 17.6	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。端面はやや窪む。内外面ヨコナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
104	土師器 甕	口 径 15.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げる。内面ハケ目。外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 底径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
105	土師器 甕	口 径14.0	外反する口縁部。端部はつまみ上げ丸味をもって終わる。内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	やや粗	良好	
106	土師器	口 径 15.2	外反する口縁部。端部は尖り気味に終わる。内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
107	土師器 巻	口 径23.6	外反して水平近くにひらいた後、角度をかえ外反する口縁部。端部は丸く終わる。内外面ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	
108	土師器 鉢	口 径12.8	丸味のある体部から「く」の字に屈曲し内彎気味に立ち上がる口縁部。口縁部内面ハケ目外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ目。	茶褐色	密	良好	
109	土師器 鉢	口 径13.0	扁球形の体部。外上方へひらく口縁部。口縁部内面ハケ目、外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面ハケ目。	淡乳茶色	粗	良好	
110	土師器 甕	口 径13.8	丸味のある体部からやや内彎して立ち上がる口縁部。端部は丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ハケ目。	淡乳茶色	やや粗	良好	
111	土師器 甕	口 径13.6	外反する口縁部。端部は丸くつまみ上げる。口縁部内面ハケ目。外面ヨコナデ。体部内面ハケ目のち指頭ナデ。外面ハケ目。	乳茶色	密	良好	
112	須恵器 杯身	口 径14.7	内傾して立ち上がる口縁部。受部は水平にひらく。口縁部、受部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。外面下半回転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	

第３次調査

ＳＤ－101

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	瓦器 椀	口 径15.0	上外方へ直線的に伸びる体部から器肉を減じて上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は尖りぎみに終わる。体部内外面ヘラミガキ、口縁部内外面ヨコナデ。	灰黒色	密	良好	

ＳＤ－103

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
2	瓦器 小皿	口 径10.8	上外方へ直線的に伸びる口縁部。口縁部内外面ともヨコナデ。	黒灰色	密	良好	

ＳＤ－107

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
3 二三	弥生式土器 壺	口 径26.8	水平近くにひらく口縁部。端部は上下方に肥厚する。口縁部内外面ヨコナデ。端面に擬状文を施す。	茶褐色	粗	良好	第Ⅲ様式
4 二三	土師器 小型壺	口 径9.4	扁球形の体部。口縁部は外上方にひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヘラミガキ。体部内面ナデ、外面ヘラミガキ。	茶色	密	良好	
5 二三	土師器 小型壺	口 径11.0	扁球形の体部。口縁部は外上方へ少し内彎しながらひらく。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。	淡茶灰色	精	良好	
6	土師器 甕	口 径14.2	外反する口縁部。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	やや粗	良好	
7 二三	土師器 甕	口 径12.6	外反する口縁部。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面ハケ目。体部内面ヘラミガキ、外面ハケ目。	淡茶色	粗	良好	
8 二三	土師器 甕	口 径16.6	内彎する口縁部。端部は外傾する丸味のある面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ハケ目。	淡乳茶色	粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9	土師器 甕	口	径 14.6	内彎ぎみにひらく口縁部。端部は上方へ突りぎみにつまむ。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラケズリ、外面ハケ目。	淡灰茶色	やや粗	良好	
10 二三	土師器 甕	口	径 15.8	外反ぎみにひらいた後角度をかえ上方へのびる口縁部。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	乳茶色	粗	良好	
11	土師器 高杯	口	径 17.0	水平な杯底部から上外方へひらく。柱上部は中位で張らみをもつ。杯部内外面ナデ。柱状部内面しぼり目が残る。外面ヘラミガキ。	茶褐色	密	良好	
12	土師器 高杯	脚	径 12.2	柱状部から角度をかえてひらく脚部。内外面ナデ。	茶褐色	密	良好	

SD—209

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
13	土師器 小皿	口	径 7.0	平担な底部から外上方へ立ち上がり口縁部に至る。端部は丸く終わる。口縁部、体部内外面ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	
14	土師器 小皿	口	径 7.6	やや外反しながら立ち上がる口縁部。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	密	良好	

SD—222

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
15	瓦 硯	口	径 15.6	上方向へ直線的に伸びる口縁部。端部は尖りぎみに丸く終わる。体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。口縁部内外面ともにヨコナデ。	灰黒色	密	良好	

第1調査区　包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
16	弥生式土器 壺	底 径 7.5	突出する平底。底部内外面ナデ。	淡褐色	やや粗	良好	
17	土師器 壺	口 径 15.6	外反して立ち上り、内外面に明瞭な段をなして内彎ぎみにひらく口縁部。	淡灰茶色	やや粗	良好	
18	土師器 甕	口 径 15.0	外反する口縁部。端部は上方へ尖りぎみにつまむ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	やや粗	良好	
19	土師器 甕	口 径 15.2	外反する口縁部。端部は上方へ丸くつまむ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰褐色	やや粗	良好	
20	円 錘 埴輪	— タガ径 20.6	台形のタガ。内面ナデ。外面横・ナナメ方向のハケ目。	淡黄色	やや粗	良好	
21	須恵器 高杯	口 径 14.5	内彎し、角度をかえ外反する杯部。外面に波状文と2条のつまみ出し凸帯を施す。	灰色	密	良好	
22	須恵器 杯蓋	口 径 11.6	丸味のある天井部。口縁端部は内傾する凹面をもつ。外面に稜がある。	淡灰色	密	良好	
23 二三	須恵器 平瓶	口 径 7.2 器 高 10.3	天井部にふくらみをもち、底部は平たい平瓶である。口縁部は外上方へひらく。器体は肩部および底部と胴部との境界に稜を有し、稜線部には凹線をめぐらす。	灰色	密	良好	
24	瓦器 小皿	口 径 10.0	口縁部は外反する。端部は尖りぎみに終る。底部は平らである。内外面ナデ。	灰黒色	密	良好	
25	瓦器 椀	口 径 12.8	内彎ぎみに立ち上り端部は外反する口縁部に至る。端部は尖る。内面ヘラミガキ。外面ナデ。	灰黒色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
26	瓦器 椀	口径	13.4	内彎し立ち上り外上方へひらく口縁部へ至る。端部は尖りぎみに終る。内面ヘラミガキ。外面指頭圧成形後ナデ。	黒灰色	密	良好	
27	土師器 小皿	口径	8.2	上外方へひらく。端部は丸く終る。内外面ヨコナデ。	茶灰色	密	良好	
28 図版	土師器 小皿	口径 器高	8.0 2.1	平担な底部から外反しながらひらき、口縁は肥厚する。口縁部内外面ヨコナデ、底部指頭圧成形後ナデ。	淡茶色	密	良好	
29	瓦質 擂鉢	口径	34.8	上外方へひらく口縁部。外面ヘラケズリ。内面には9本一単位の擂目が入る。	灰黒色	やや粗	良好	

SX−101

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
30 図版	須恵器 蓋用蓋	口径	5.8	平坦に近い天井部。かえりは内傾している。天井部には中央がくぼむつまみがある。天井部外面回転ヘラケズリ、内面同転ナデ。かえりおよびつまみ部回転ナデ。	灰色	密	良好	
31 図版	須恵器 長頸壺	口径 器高 最大径	9.4 24.8 12.7	体部は肩がはった偏球形である。口縁部は上外方にひらく。脚部は斜下方に伸び裾でやや内彎する。裾端部はくぼむ面をもつ。口縁部内外面回転ナデ。体部内面回転ナデ。外面上位回転ナデ、下位回転ヘラケズリ。脚部内外面回転ナデ。脚部に長方形と二角形の透しを三方に有している。体部上位外面にヘラによる沈線文が2ケ所施されている。	灰色	密	良好	
32 図版	須恵器 長頸壺	裾径	12.2	体部は球形である。脚部は斜下方に伸び裾でやや内彎する。裾端部は面をもつ。体部内面下部指頭圧成形、上部回転ナデ。脚部内外面回転ナデ。脚部に長方形の透しを四方に有している。	灰色	密	良好	
33 図版	須恵器 短頸壺	口径 器高	7.9 5.8	半球形に近い体部から直立ぎみに立ち上る口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内外面回転ナデ、体部内面回転ナデ、外面上位回転ナデ、下位回転ヘラケズリ。	灰色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
34 図版二	須恵器 高杯	口径 12.8 器高 18.1 裾径 11.5		杯部は基部より上外方に伸び外傾ぎみに立ち上り、口縁部で外反する。端部は尖る。杯口縁部外面に列点文を施し、その上下に一条の凹線をめぐらす。脚部は基部よりやや内傾した後、ゆるやかに下外方へ伸び端部近くで内彎する。端部は丸味のある面である。脚部には2段3方透しを有し、中央に二条の凹線をめぐらす。杯部外面底部回転カキ目、内面回転ナデ、脚部内面上位シボリ目下位回転ナデ、外面上位回転カキ目、下位回転ナデ。	灰褐色	やや粗	良好	
35 図版二	須恵器 壺瓶	口径 4.8 器高 20.3		口縁部は口頸基部より内彎ぎみに立ち上り、外反する。端部は尖る。体部に一対のカギ状把手がある。体部は回転カキ目、口頸部は回転ナデ。	暗灰色	やや粗	良好	
36 図版二	土師器 杯	口径 11.4 器高 5.9		平底な底部。内彎ぎみに立ち上がる体部から外反する口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶色	需	良好	

SX－101　墳丘内

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
43 図版二五	弥生式土器 鉢			垂直近くに伸びる口縁部。口縁端部に1条、口縁部下位に2条の凹線文を施す。外面に波状文。	茶褐色	やや粗	良好	第Ⅲ様式
44	土師器 甕	口径 16.6		外反する口縁部。端部は上方に尖る。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
45	土師器 甕	口径 15.4		外反する口縁部。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
46	土師器 甕	口径 11.2		内彎しながら立ち上がる口縁部。端部は丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
47	土師器 甕			体部上半に最大径をもつ。底部は丸味がある。体部内面上位指頭圧成形、下位ナラ、外面上位ヘラミガキ、下位ナラ	茶褐色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼土	備考
48 二五	須恵器 短頸壺		体部は最大径を上半にもち肩がはる。底部は平らである。口縁部は欠損している。	淡灰色	やや粗	良好	
49 二五	須恵器 杯身	口 径 8.8	立ちあがりは短くやや内傾する。端部は丸く終る。受部はやや外上方に伸び丸く終る。底部は平坦である。内面同転ナデ、外面上位回転ナデ。下位同転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	
50 二五	須恵器 杯身	口 径 9.2	立ちあがりは短く内傾ぎみに直立して伸び尖りぎみに終る。受部はやや外上方に伸び丸く終る。内面同転ナデ。外面上位回転ナデ、下位回転ヘラケズリ。外面底部に三本の線刻を施している。	灰色	やや粗	良好	

SD－111

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼土	備考
51	土師器 小皿	口 径 8.2 器 高 1.8	底部から丸く立ち上がり、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する丸みのある面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面指頭圧成形。内面にヘラミガキによる平行線がある。	乳灰茶色	密	良好	
52	瓦器 椀	高台径 5.6	平坦な底部に断面逆二角形の高台が垂直に付く。見込み格子状ヘラミガキ、底部外面、高台部ナデ。	黒色	密	良好	

NR－101

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼土	備考
53	弥生式上器 甕	口 径 14.0	上外方へ外反する口縁部。端部は面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	密	良好	
54	弥生式土器 壺	底 径 5.2	突出する平底。内外面ナデ。	灰茶色	やや粗	良好	
55	土師器 甕	口 径 14.0	斜上方へ外反する口縁部。端部は上方へつまみ尖る。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	密	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
56	須恵器 杯身	高台径 10.8	「八」の字にひらく高台部。平坦な底部から上外方へ直線的に伸びる。高台は貼り付けている。内外面回転ナデ。	灰色	密	良好	
57 二五	土師器 小皿	口径 11.8	斜上方へ内湾ぎみに伸びる口縁部。端部は丸味をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、底部内面指頭圧成形、外面ナデ。	淡茶褐色	密	良好	
58	土師器 小皿	口径 9.0	平らに近い底部から斜上方へ立ち上がって外反し、ほぼ水平に伸びる口縁部に至る。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	茶色	密	良好	
59	瓦器 椀	高台径 3.9	平坦な底部に断面逆三角形の高台が「八」の字形に開いて付く。見込み格子状のヘラミガキ、底部外面、高台部ナデ。	灰白色	密	良好	
60	瓦器 椀	口径 16.8	斜上方へ内彎しながら伸びる体部からわずかに外反する口縁部に至る。端部は丸い。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラミガキ、外面ナデ。	灰黒色	密	良好	
61	瓦器 椀	口径 15.4	外上方へ内彎して伸びる体部からわずかに外反する口縁部に至る。端部は丸い。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラミガキ、外面指頭圧成形。	黒灰色	密	良好	

SE－201

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 - 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
62	土師器 小皿	口径 8.6	平坦な底部から外上方へひらく口縁部。端部は尖りぎみに終る。内外面ナデ。	淡茶灰色	密	良好	
63	瓦器 椀	口径 12.6	上外方へ内彎して伸びる口縁部。内面ヘラミガキ、外面指頭圧成形後ナデ。	淡灰黒色	密	良好	

第2調査区　包含層

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
64 二五	弥生式土器 壺	口	径24.1	斜上方へ外反して伸びる口縁部。端部は下方に垂下し外傾する面をもつ。口縁部内外面ヨコナデ、口縁端部には鋸状文を施している。	淡茶色	やや粗	良好	
65	弥生式土器 高杯	口	径13.3	水平に広がった口縁部端が垂下する。口縁部内端に凸線を巡らす。口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	密	良好	
66 二五	弥生式土器 壺	口	径27.0	水平にひらいた後外上方へ伸びる口縁部。口縁部内外面ヨコナデ、外面に円形浮文を施す。	淡茶褐色	やや粗	良好	
67	弥生式土器 甕	底	径4.8	突出する平底である。内面ハケ目のちナデ、外面ナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
68	弥生式土器 甕	底	径5.7	突出する平底である。内面指頭圧成形、外面ナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
69 二六	弥生式土器 甕	底	径4.6	突出する平底である。内面ハケ目、外面ヘラミガキ。	暗褐色	密	良好	
70	土師器 鉢	口	径15.1	上外方へ内彎して伸びる体部。口縁部は水平近く外反した後、角度をかえ外彎してひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ハケ目、外面ヨコナデ。	茶褐色	密	良好	
71	土師器 鉢	口	径15.9	上外方へ内彎して伸びる体部。口縁部は水平近く外反した後、角度をかえ外反ぎみにひらく。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	茶褐色	密	良好	
72	土師器 甕	口	径15.6	外上方へ外反ぎみに伸びる←口縁部。端部はつまみ上げぎみに丸く終る。口縁部内外面ヨコナデ	灰茶色	やや粗	良好	
73	土師器 甕	口	径17.2	外上方へ外反して伸びる口縁部。端部はつまみ上げる。口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	やや粗	良好	

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74	須恵器 杯蓋	口径 11.3	丸味のある天井部。口縁部と天井部の界に稜がある。内外面回転ナデ。	灰色	密	良好	
75 二六	須恵器 杯蓋	口径 10.9 器高 4.5	平らに近い天井部から鈍い稜をもって口縁部がほぼ垂直に下る。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面稜直上まで回転ナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	灰色	密	良好	
76 二六	須恵器 杯蓋	口径 14.9 器高 4.3	丸味のある天井部。口縁部と天井部の界に稜がある。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面稜直上まで回転ナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。	暗灰色	密	良好	
77 二六	須恵器 杯蓋	口径 14.6 器高 4.5	平らに近い天井部から鈍い稜をもって口縁部が下外方に下る。口縁端部は凹面をなす。内面全体及び外面稜直上まで回転ナデ。天井部外面回転ヘラケズリ。天井部内面に同心円文タタキ目を施す。	淡灰色	密	良好	
78	須恵器 器台		台部底面は平らに近い。脚部は下外方にやや垂直ぎみにひらく。脚部外面に波状文を施す脚部には長方形の透しを四方施している。	暗灰色	密	良好	
79 二六	土師器 小皿	口径 8.0	平らな底部から上外方へひらく口縁部に至る。口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	灰茶色	密	良好	
80	土師器 中皿	口径 15.8	斜上方へ直線的にひらく口縁部、端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ、底部内面ナデ、外面指頭圧成形。	淡茶褐色	密	良好	
81	瓦器 小皿	口径 9.2	平らに近い底部から外反する口縁部である。端部は丸い。口縁部内外面ヨコナデ。底部内外面ヘラミガキ。	灰黒色	密	良好	
82 二六	瓦器 鍋	口径 16.1	内彎ぎみに伸びる体部。口縁端部は丸く終る。内面ヘラミガキ、外面指頭圧成形。	暗灰色	密	良好	
83 二六	白磁 椀	口径 16.8	斜上方へ内彎ぎみに伸びる口縁部に至る。口縁部は外へ大きく折返し玉縁状の口縁を呈する。	乳灰色の釉	緻密	堅緻	

第3調査区　ＳＤ－112

遺物番号 図版番号	器種	(cm) 法量	口径 器高	形態・製作等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
84	土師器	口径 17.0		上外方へ外反しながらひらく口縁部。端部は上方へ尖る。口縁部内面ハケ目、外面ヨコナデ。	茶褐色	やや粗	良好	
85	土師器	口径 16.9		斜上方に直線的に伸びる。端部は尖る。口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	やや粗	良好	
86	瓦	高台径 5.3		平らに近い底部。断面逆三角形の高台をハの字形につける。	灰黒色	密	良好	

第5章　ま　と　め

第2次調査

調査の結果、古墳時代前期と鎌倉時代の遺構・遺物を検出した。

古墳時代前期の遺構は、第2調査区で検出したSD－101や第4調査区で検出した小穴群などがある。検出面は第5層上面で、時期は、布留式期の新しい段階である。第5層は、弥生時代の後期から古墳時代の初頭にかけての大きな流路の堆積土で、粗砂や礫が主であり、北または北西流していると言われている。[註1]この流路が埋没した後の布留式期の居住域があることが今回の調査でわかった。

鎌倉時代は溝や土坑の検出があった。当調査地の南東に近隣している大阪府教委昭和58年度調査地では中世以降の鋤溝を検出しており当地域一帯が生産の場であったといわれている。[註2]おそらく、当調査地も、生産域であったと思われる。

第3次調査

調査の結果、古墳時代前期・後期、鎌倉時代後期、近世の遺構・遺物を検出した。

第1・2調査区の第2調査面で検出した東西方向・南北方向に細長く伸びる溝は、中世の鋤溝である。大阪府教委昭和58年度調査では中世以降のスキ溝を検出しており、[註3]今回の調査地も生産域であったことがわかった。

第2調査区の第1調査面で検出した古墳は、古墳時代の後期（6世紀後葉）に比定されるもので、河内平野低地部で検出された古墳の中では新しい古墳である。平野部では、昭和49年に長原遺跡で古墳が確認されて以来、古墳時代前期から後期中葉に至る古墳が巨摩廃寺遺跡[註4]（方墳　5世紀末～6世紀初）、山賀遺跡[註5]（方墳　6世紀中）、萱振遺跡[註6]（方墳　4世紀初）、美園遺跡[註7]（方墳　4世紀初）等で検出されている。6世紀の古墳については、中葉に山賀遺跡で検出した古墳が築造されるのを最後に、平野部では古墳の築造は停止すると考えられていた。しかし、今回の調査により6世紀後葉まで築造していることが明らかになった。この時期には、八尾市域では生駒山地西麓（高安古墳群）に多くの古墳が群集して築造されている。この時期平野部で検出された今回の古墳は、河内平野低地部の6世紀代の古墳を考える上で重要な資料である。また平野部の集落との関係、西麓部の群集墳との関係を明確にする一つのてがかりになる資料である。

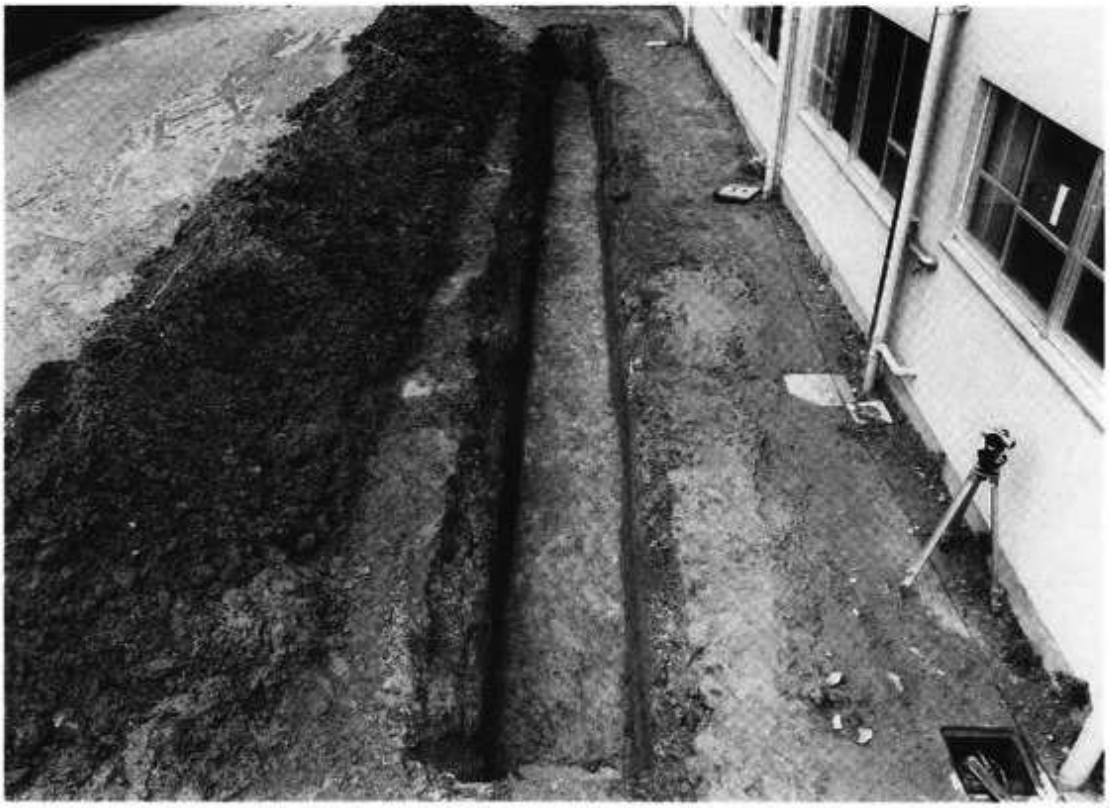
註1　大阪府教育委員会：萱振遺跡現地説明会資料」

註2　大阪府教育委員会『萱振遺跡発掘調査概要・II』1986

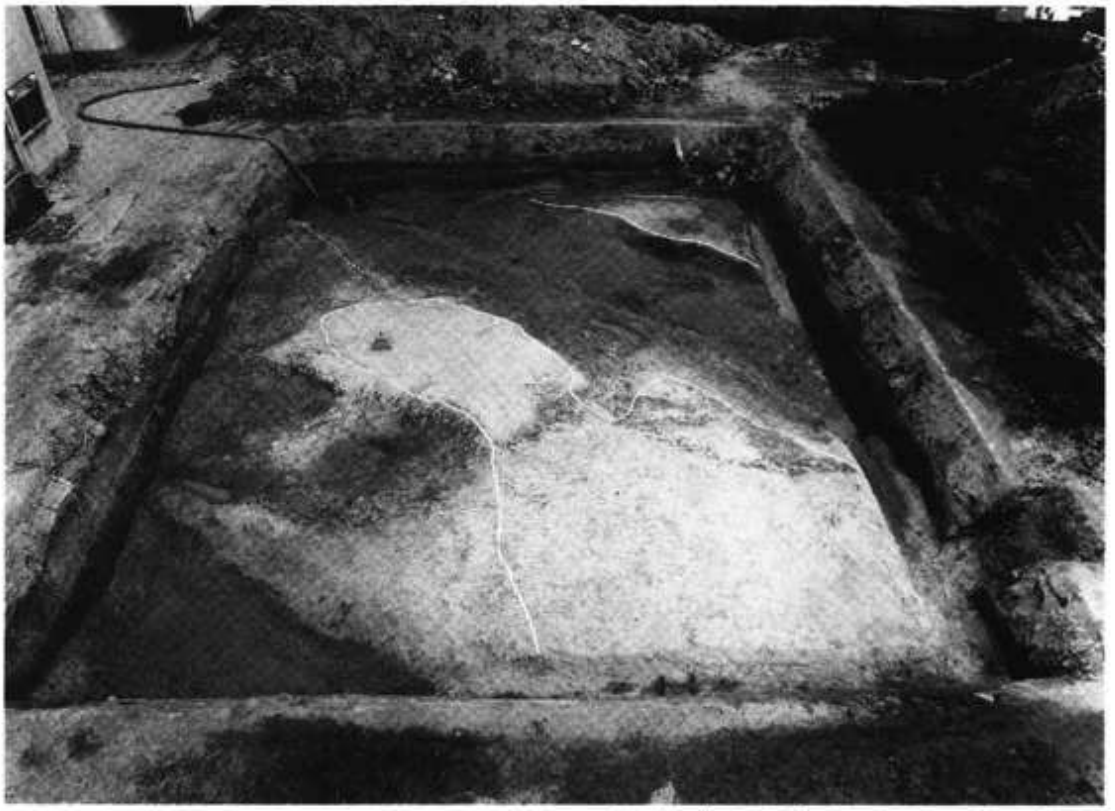
註3　前掲註2

註4　長原遺跡調査会『長原遺跡発掘調査Ⅰ 資料編』1976
（財）大阪文化財センター『長原』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1978
註5　（財）大阪文化財センター『巨摩・瓜生堂』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1981
註6　（財）大阪文化財センター『山賀（その2）』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1983
註7　大阪府教育委員会『豊能遺跡現地説明会資料Ⅰ』1984
註8　（財）大阪文化財センター『美園』近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　1985

図　　版



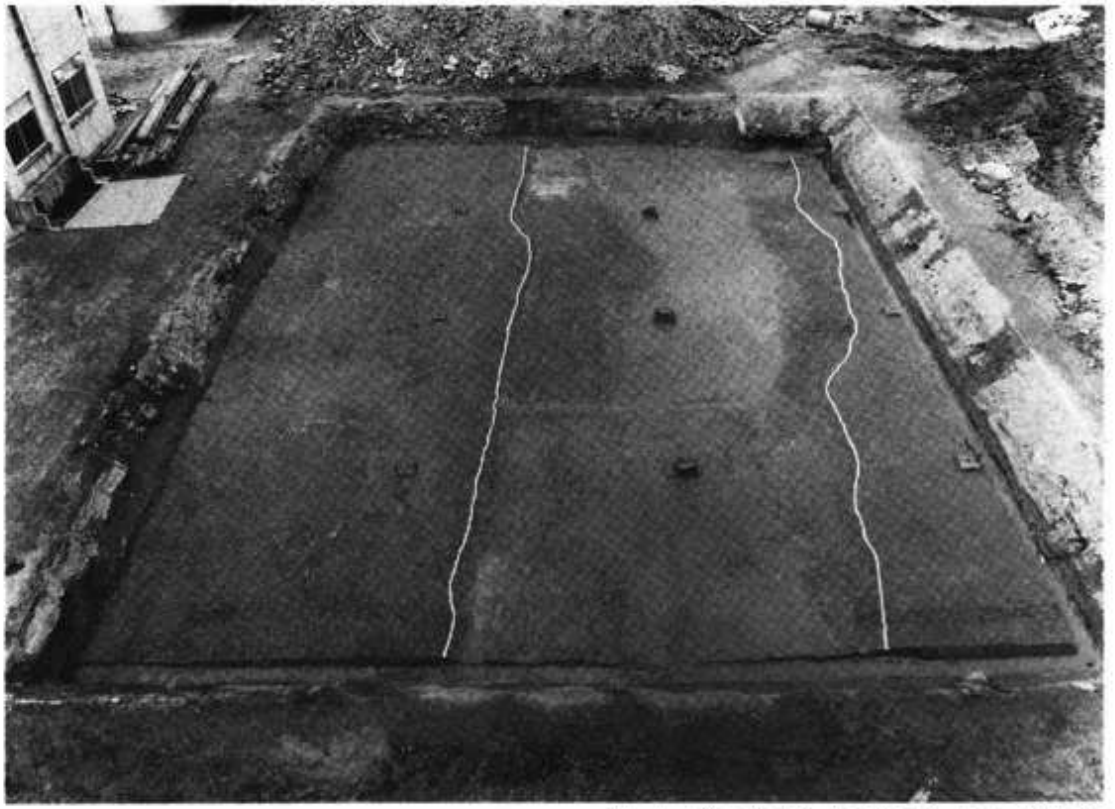
第２次調査第１調査区　全景（西から）



同　上　第２調査区　第１調査面　全景（南から）

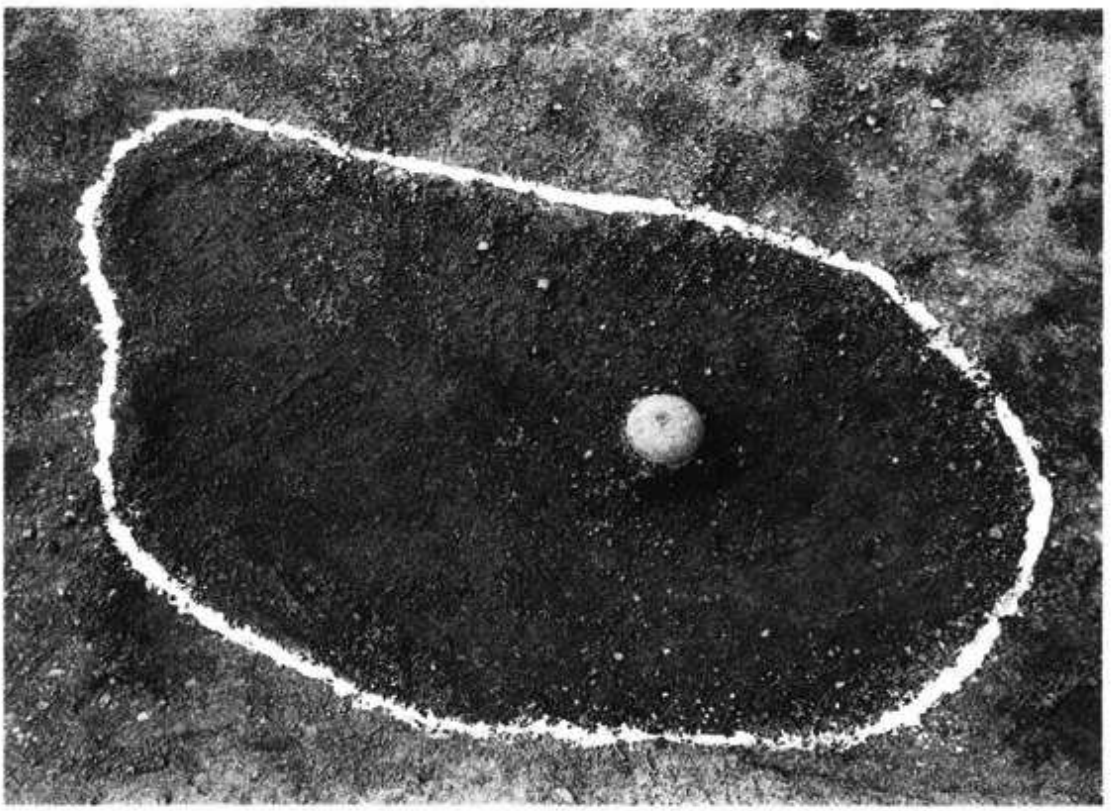
図版二

第2次調査第2調査区　SD－101 遺物出土状況（南から）



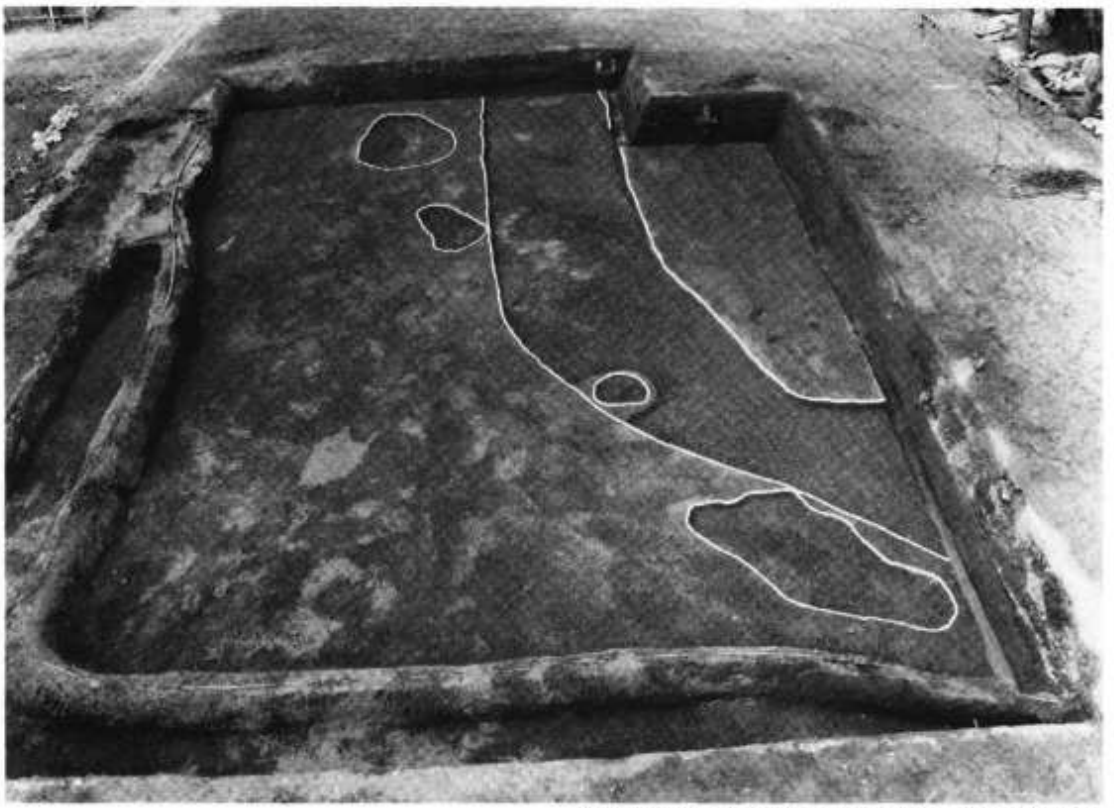
同　上　第2調査区　第2調査面　全景（南から）

第２次調査第３調査区　第１調査面　全景（南から）



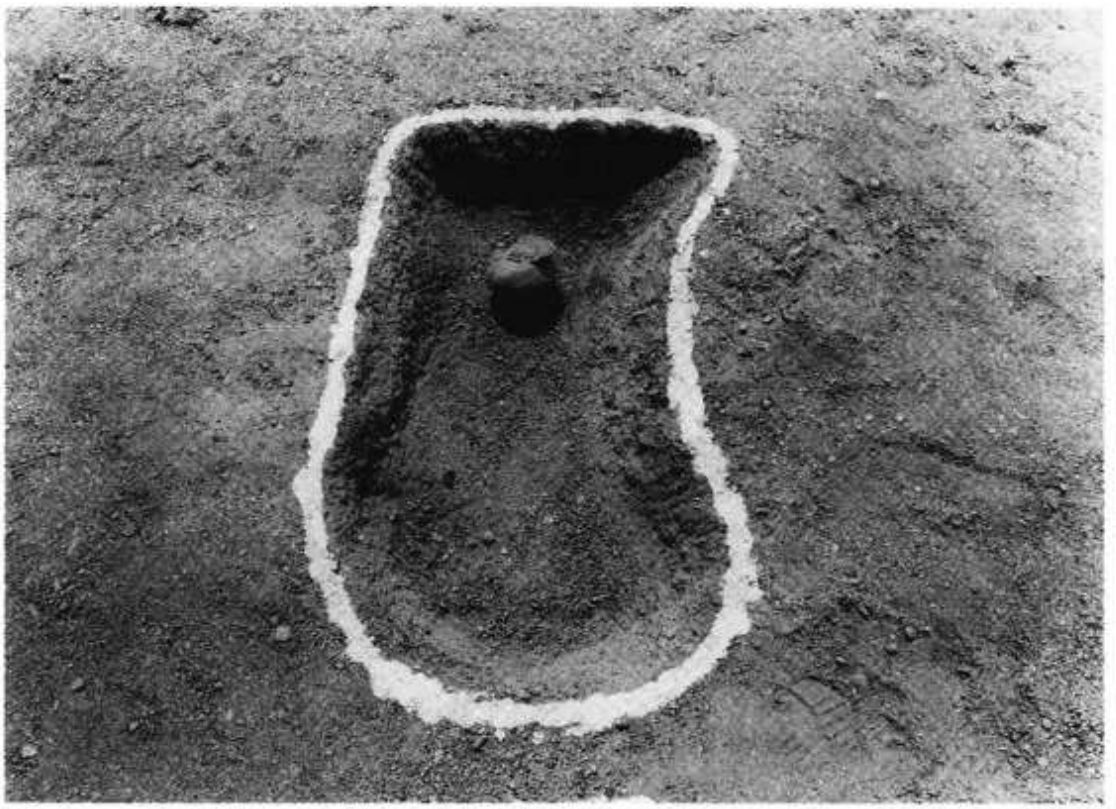
同　上　第３調査区　ＳＫ－101（南から）

図版四



第２次調査第３調査区　第２調査面　全景（南から）

同　上　第４調査区　全景（東から）



第２次調査第４調査区　ＳＰ－137（東から）

同　上　第４調査区ＳＰ－137　遺物出土状況（東から）

図版六

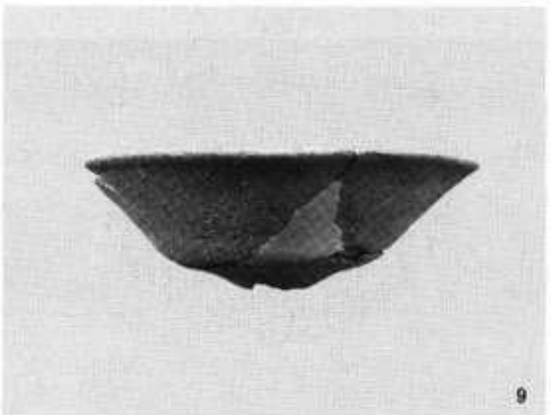
1

6

3

7

4


9

5

11

第2次調査　SD－101

13

15

16

17

18

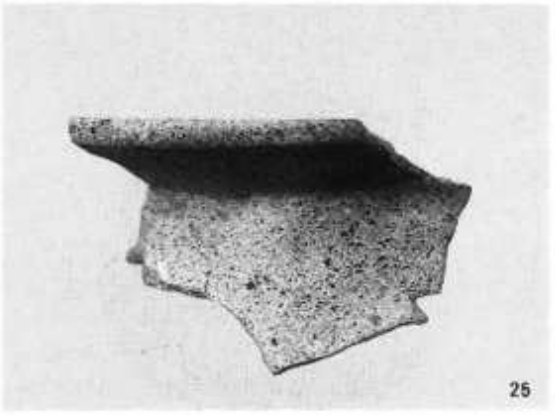
20

21

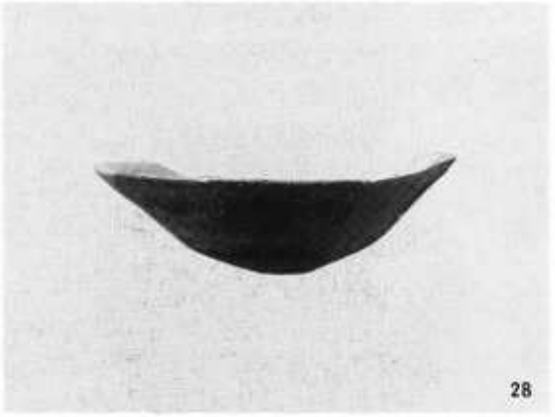
22

第２次調査　ＳＤ－101・ＳＤ－201

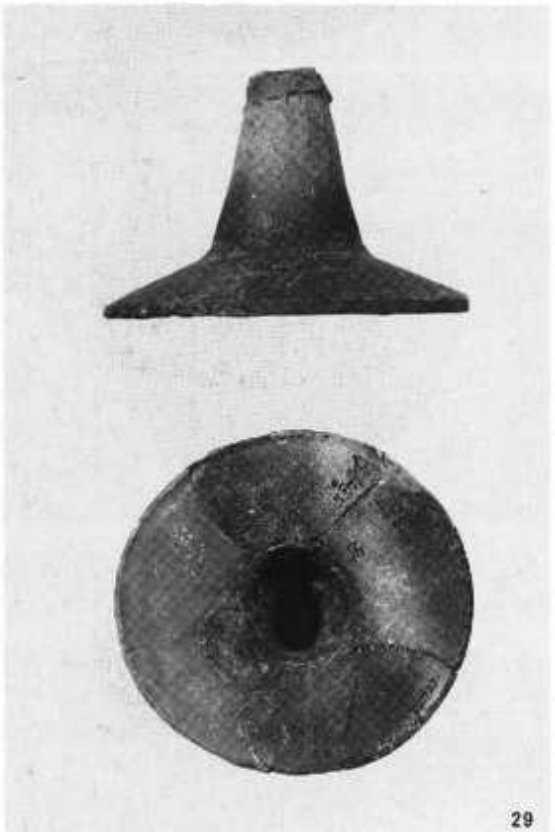
図版八

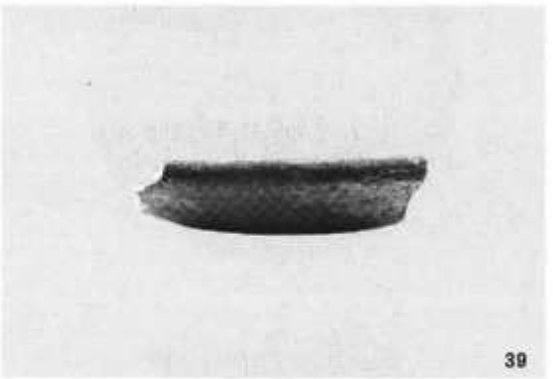

25

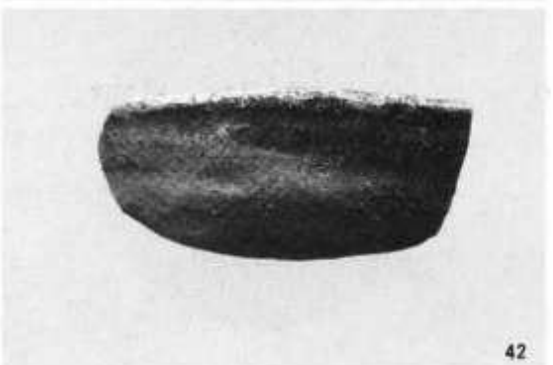
26


28

33

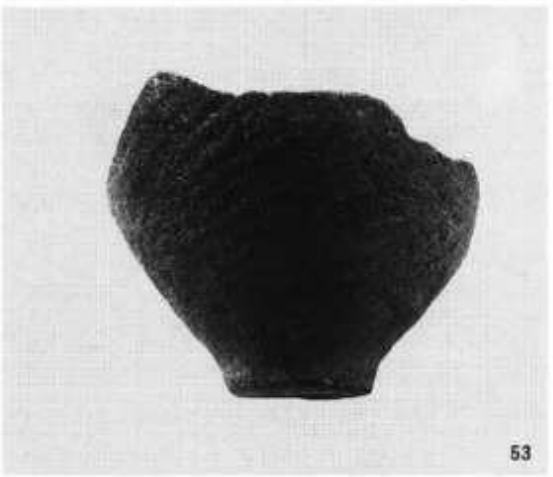

29

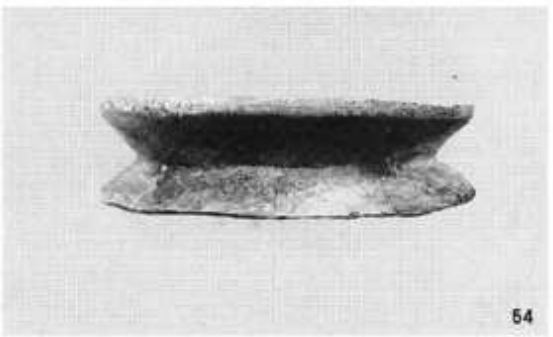

39


42

第2次調査　包含層・SK—101・SK—203・SD—202

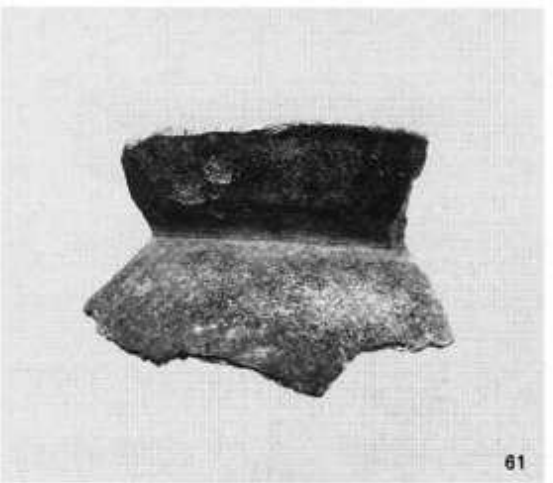
47


53

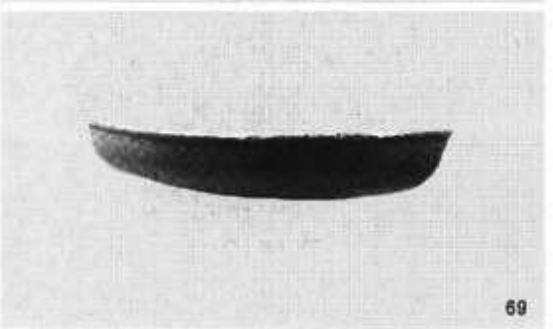

54

56

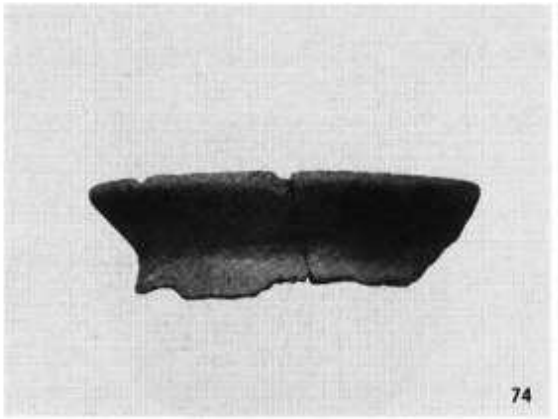
57


61

65


69

第２次調査　包含層


74

78

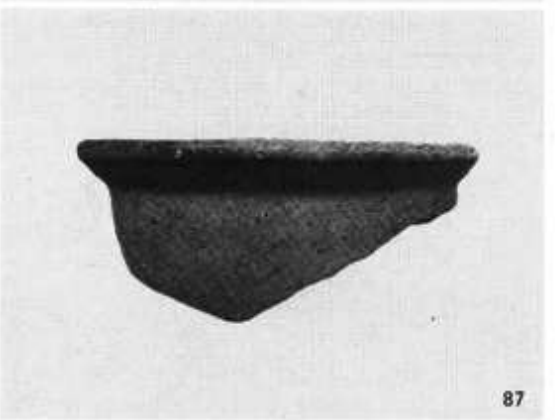
75

79

76

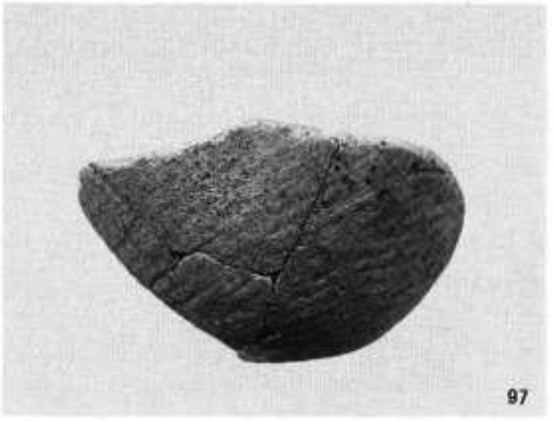
84

77


87

第2次調査　SK−102・SP−137・包含層

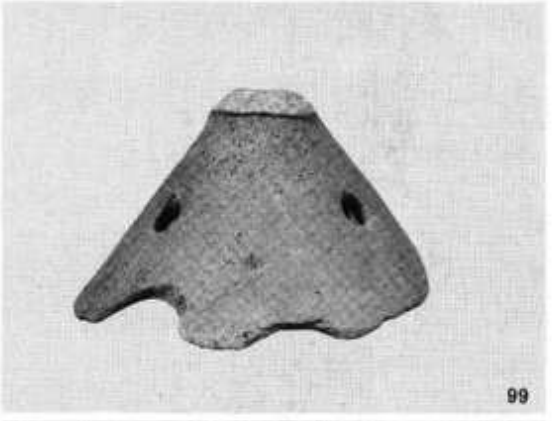
90

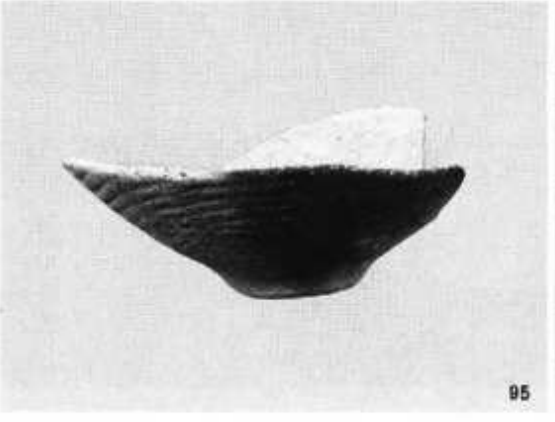

97

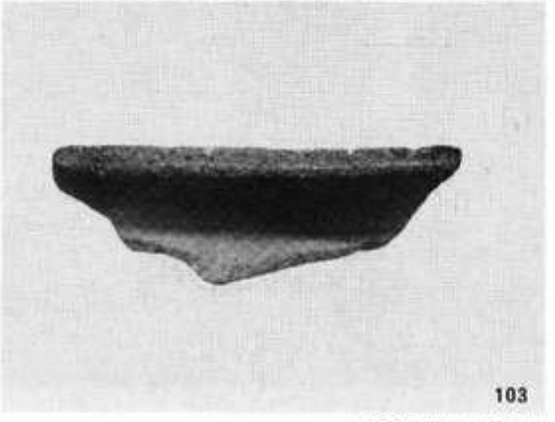
91

98

92


99


95

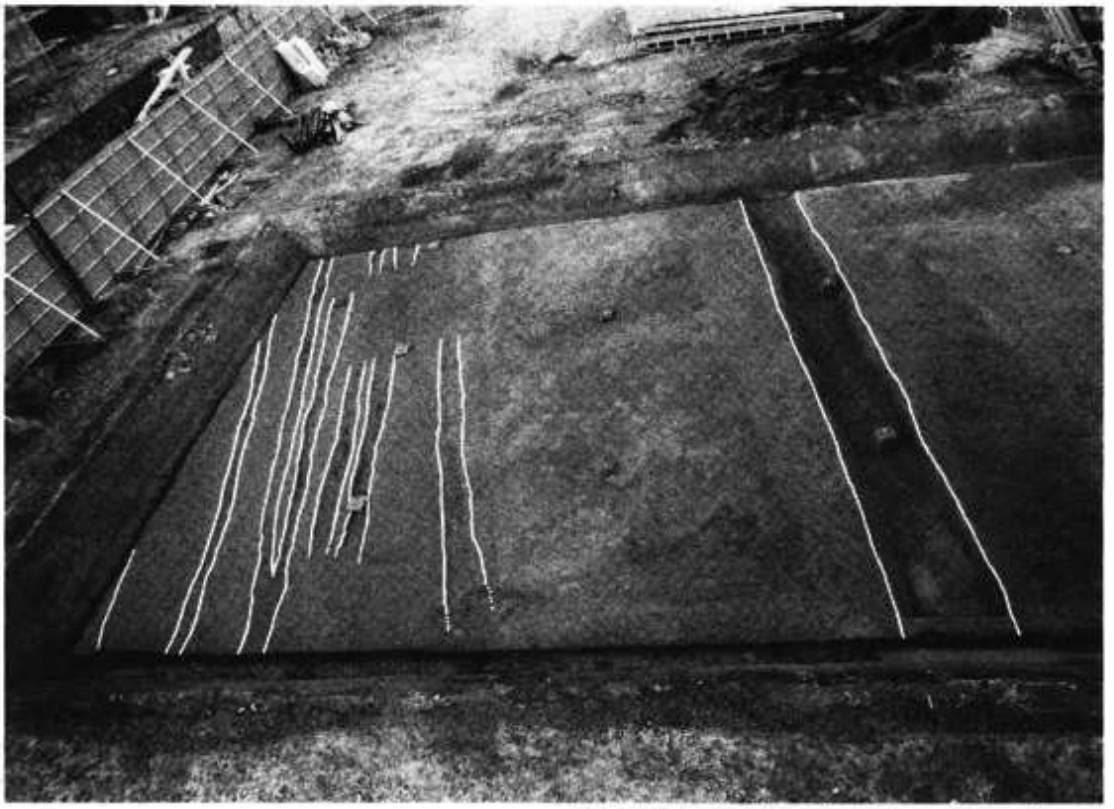

103

第２次調査　包含層

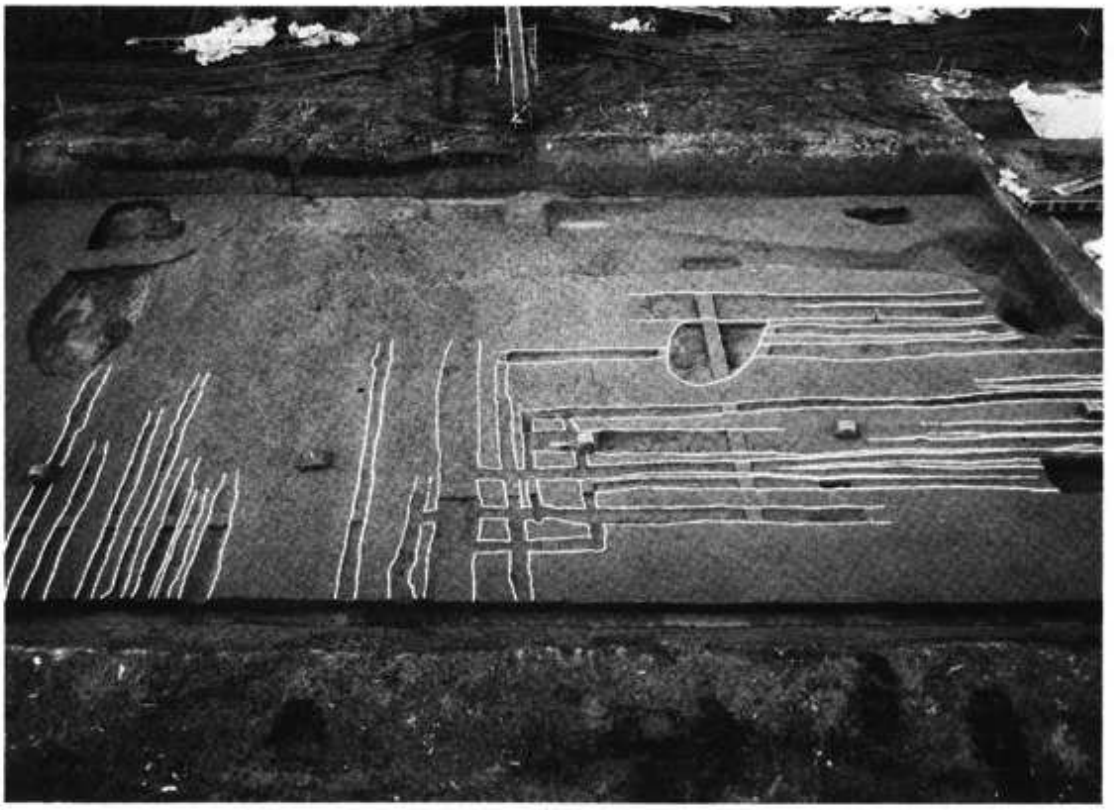
図版一三

第3次調査　第1調査区第1調査面　全景

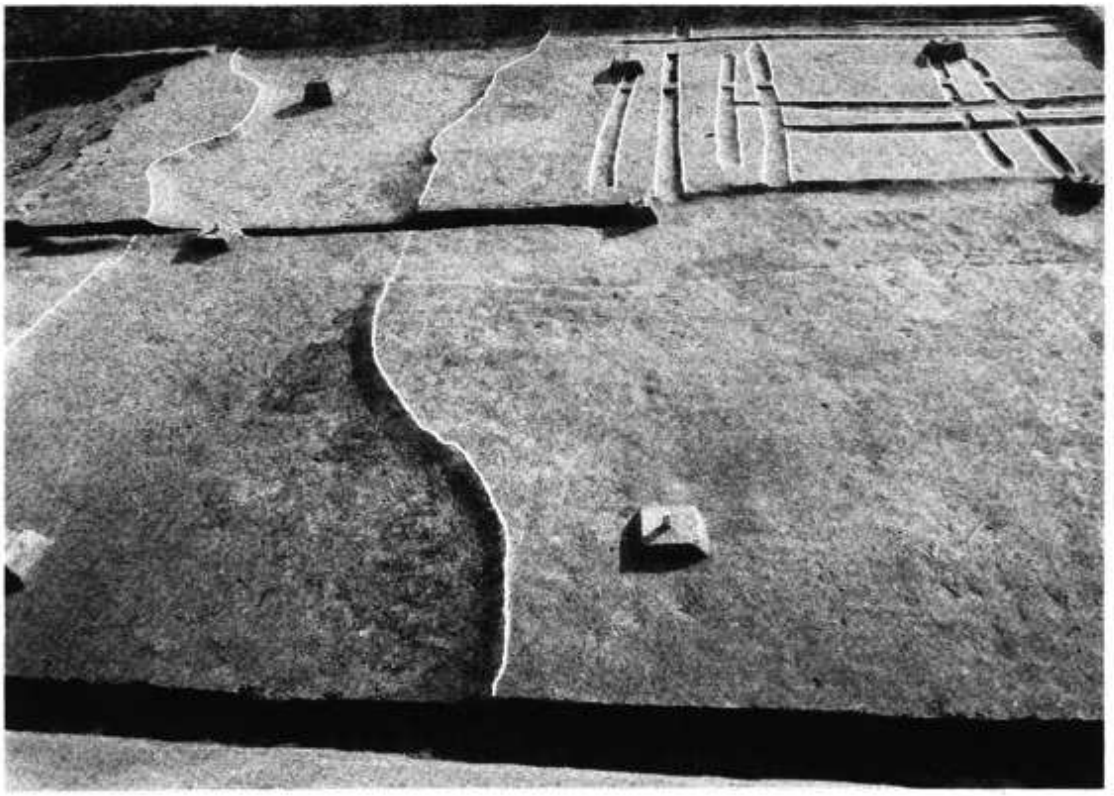
第3次調査第2調査区・第3調査区　第1調査面　全景



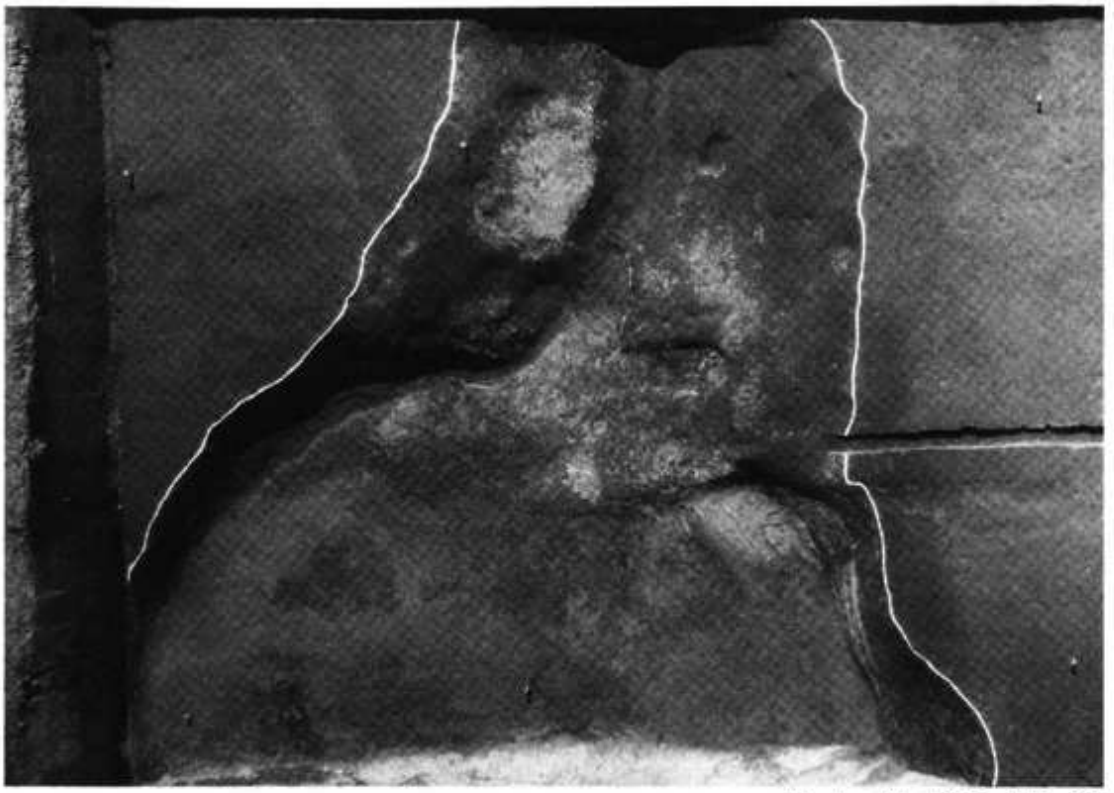
第３次調査第１調査区　第２調査面　全景１（南から）



同　上　２（南から）



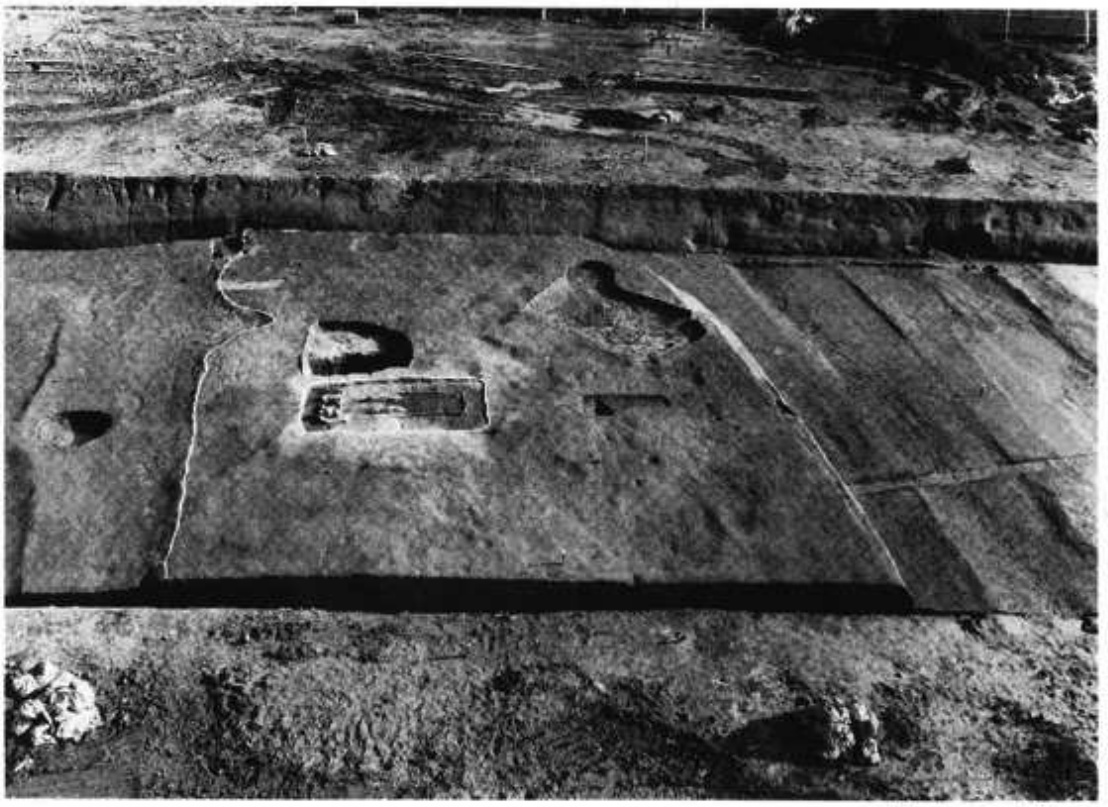
第３次調査第１調査区　第２調査面全景３（北から）



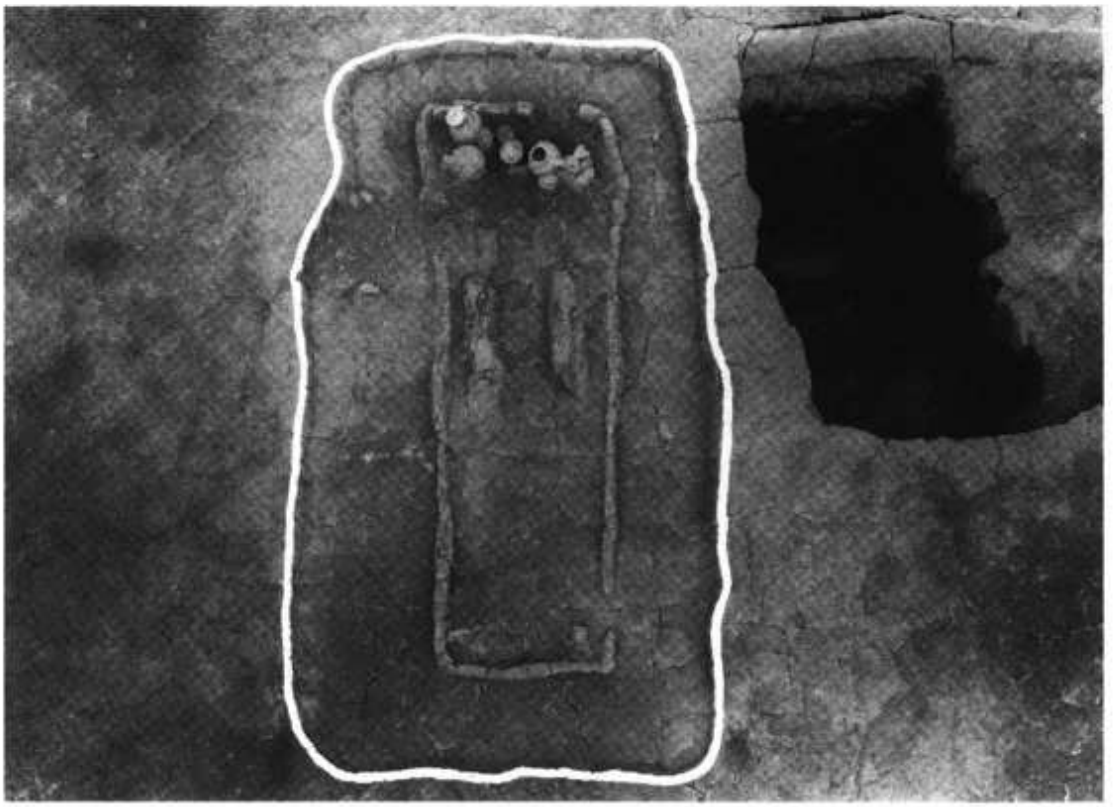
同　上　第１調査面　ＳＤ－107

図版一六

第3次調査第2調査区　SX－101全景1

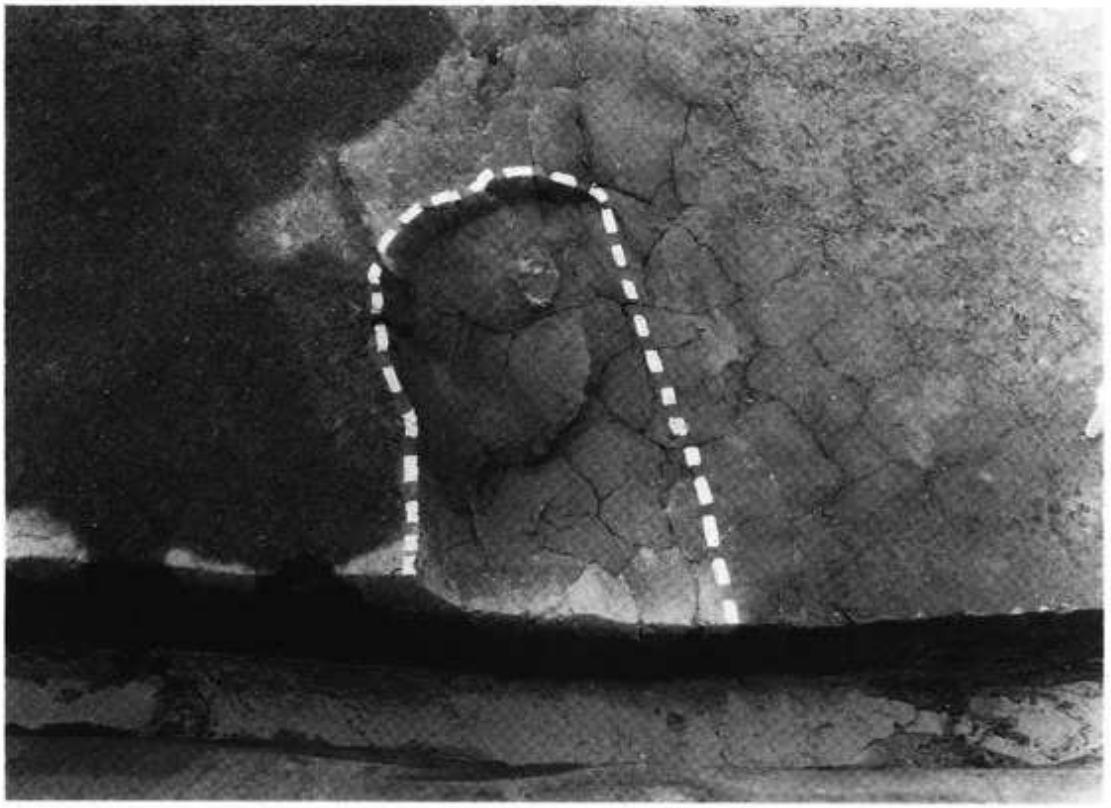


同　上　2（北から）



第3次調査第2調査区　SX－101 埋葬施設1（西から）

同　上　遺物出土状況（東から）



第３次調査第２調査区　ＳＸ－101 埋葬施設２（南から）

同　上　ＳＸ－101 墳丘内遺物出土状況（西から）

第３次調査第２調査区　第２調査面　全景１（南から）

同　上　２（南から）

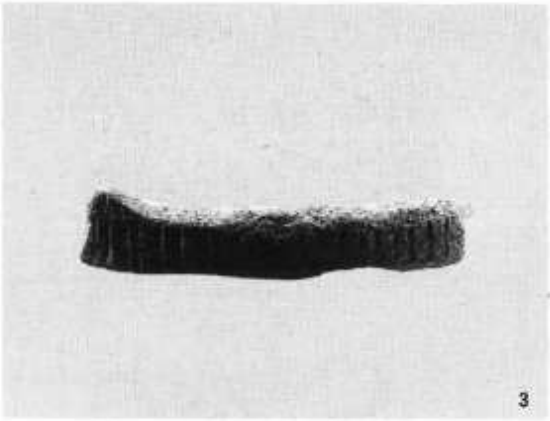
第３次調査第２調査区　第２調査面　全景３（南から）

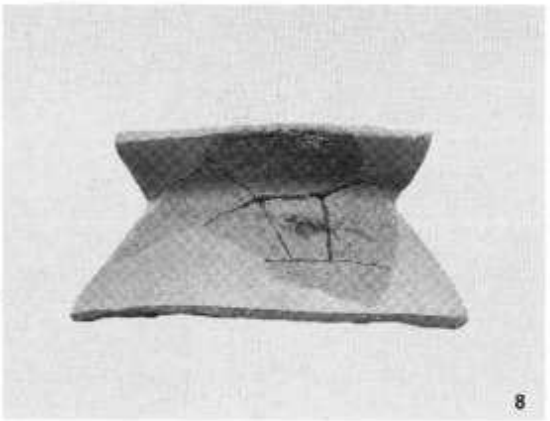
第２調査区　ＳＥ－101（東から）

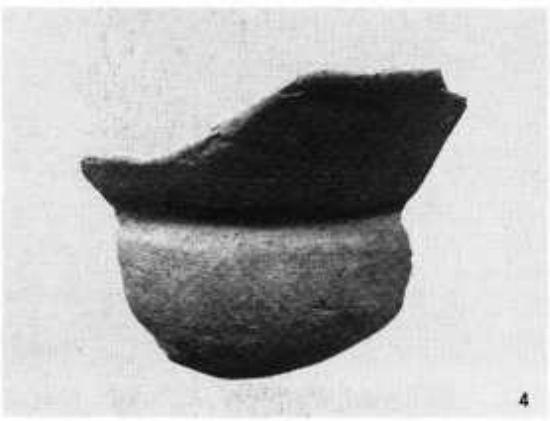
第３次調査第２調査区　ＳＥ－202（南から）

第３調査区　第２調査面　全景（東から）

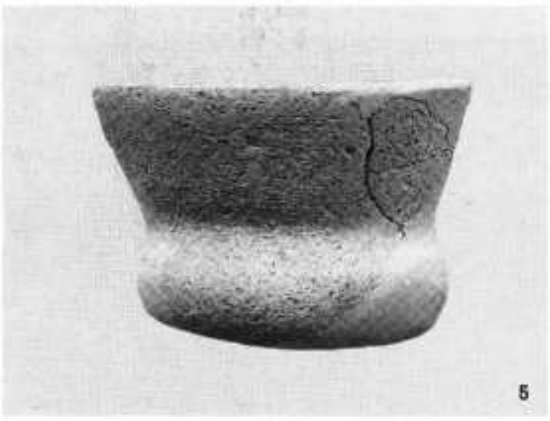
図版二二


3

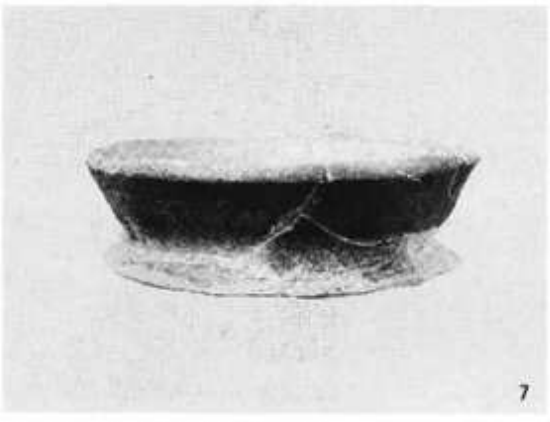

8

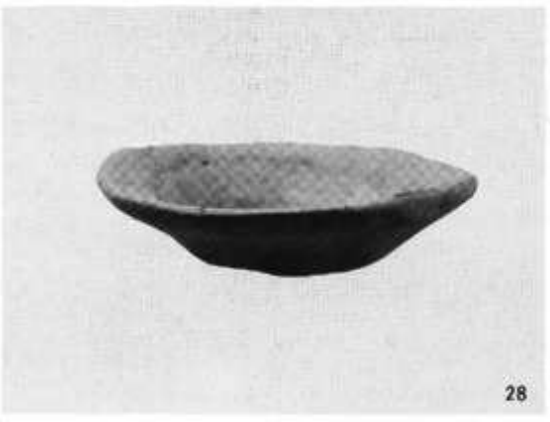

4

10


5

23


7


28

第3次調査　SD—107・包含層

30

36

31

33

32

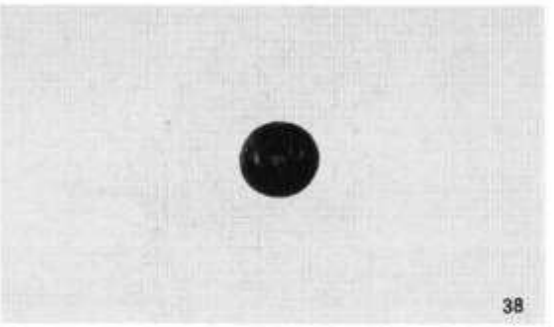
35

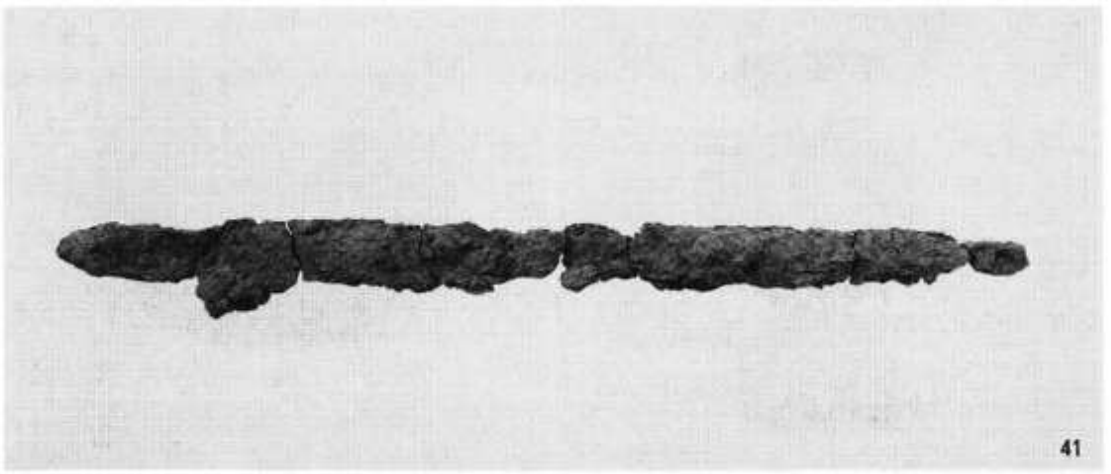
34

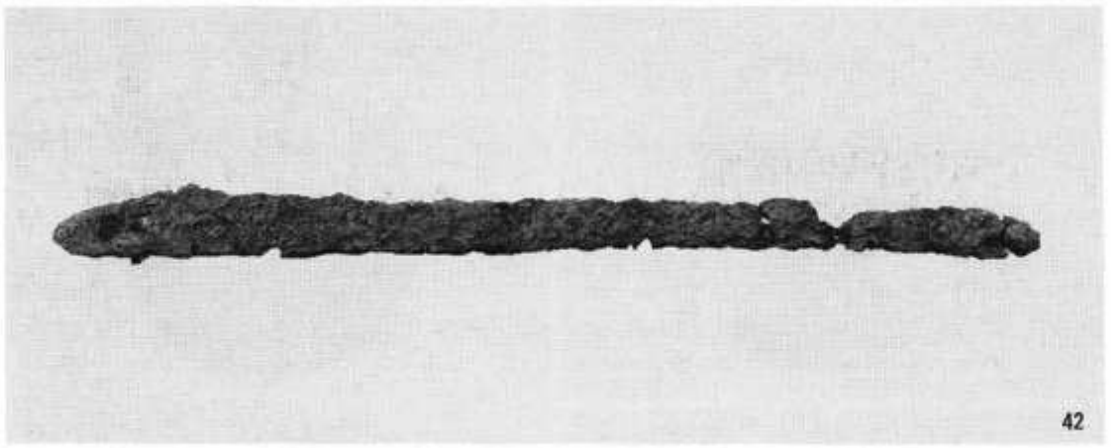
第3次調査　SX－101

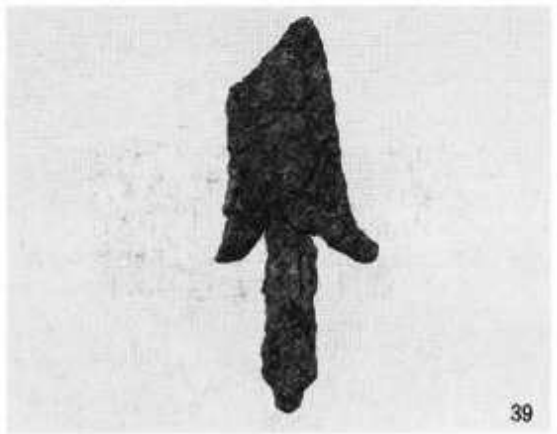
図版二四

37


38


41

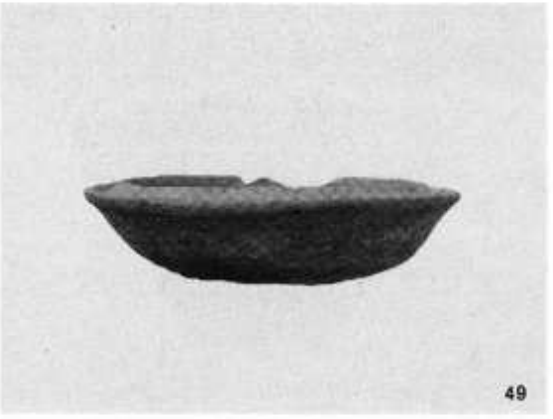

42


39

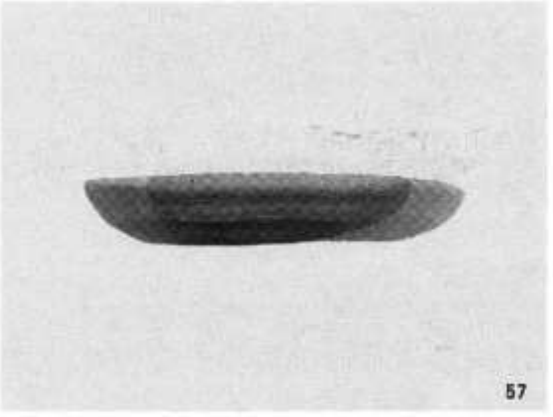
40

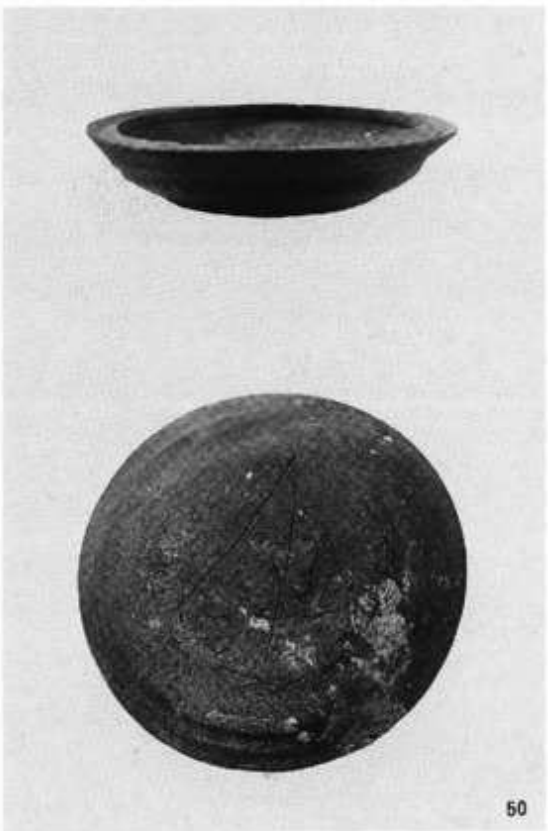
第3次調査　SX－101

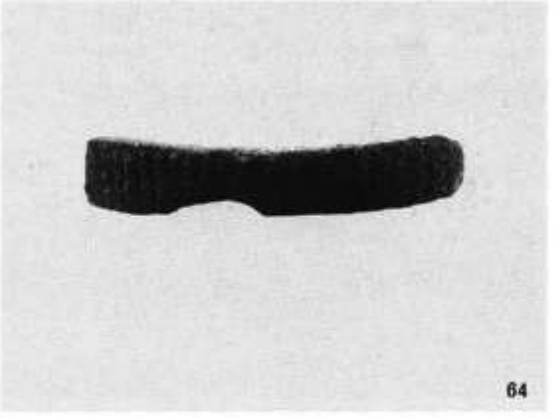
43

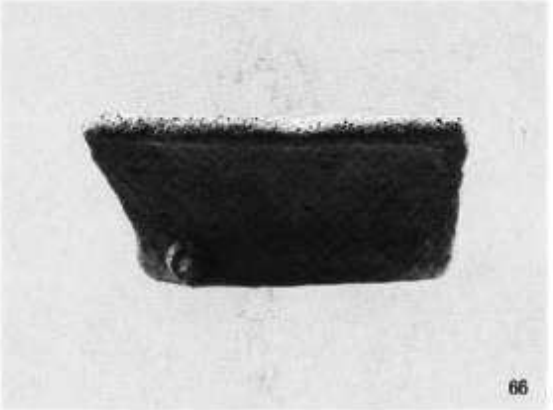

49

48


57


50

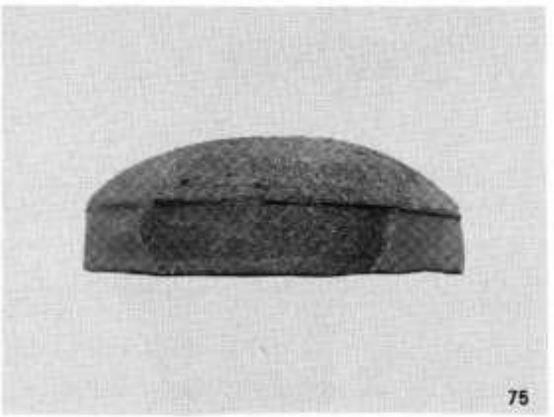

64

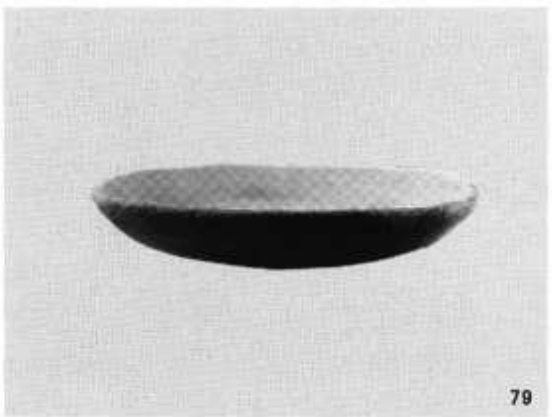

66

第3次調査　墳丘内・NR−101・包含層

図版二六

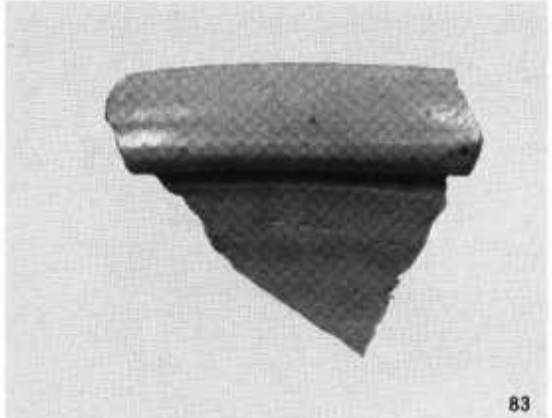
69


75


79

76

82


83

77

第3次調査　包含層

(財) 八尾市文化財調査研究会報告20

萱振遺跡発掘調査概要報告

発　行　　平成2年12月
編　集　　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729) 94－4700
印　刷　　明新印刷株式会社
表　紙　レザック66　<260 kg>
本　文　書籍用紙　<70 kg>
図　版　マットアート　<135 kg>

007